

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
600 病害虫			
601 全般			
青森農試	1935	馬鈴薯病蟲害防除比較.	青森農試年報(昭和10).
明日山秀文	1949	“馬鈴薯の病害”,「馬鈴薯の採種栽培法」(農林省農政局農産課 編).	日本種馬鈴薯協会, 東京, pp.79-134.
ト蔵梅之丞	1943	馬鈴薯の増産上病害方面より見たる注意事項.	病蟲雜 30(4): 134-136.
遠藤 茂	1933	馬鈴薯の病害と其の豫防法.	農及園 8(12): 2883.
江沢俊雄	1943	馬鈴薯の病害と豫防法.	大阪農試農芸 8(6).
逸見武雄	1948	馬鈴薯の病氣とその防除.	農家の友 3(7): 13-
堀尾英弘	1986	“Ⅰ-11. ジャガイモの病害”,「作物病害虫ハンドブック」(梶原敏宏ほか編).	養賢堂, 東京, pp.163-175.
鑄方末彦	1947	“馬鈴薯の各種病害”,「甘藷馬鈴薯の病虫害」(中島 汀編).	日本甘藷馬鈴薯株, 東京, pp.25-69.
鑄方末彦	1950	“馬鈴薯の各種病害”,「いも類の病虫害と防除」(堀 正侃 編).	朝倉書店, 東京, pp.49-97.
井上正賀	1903	第十三回 馬鈴薯と茄の病. (「作物病理」, 通俗農芸文庫 第3編)	博文館, 東京, pp.65-73.
石田眞一	1924	薯類の病蟲害.	中央園藝 253: 31-35.
遠藤 茂	1933	馬鈴薯の病害と其の豫防法.	農及園 8(12): 2883.
森 芳夫	1956	馬鈴薯の病害.	農薬の進歩 282): 18-21.
村田壽太郎	1918	大正6年長野縣下に發生せる主な病蟲害(二).	病蟲雜 5(3): 201-204.
村山大記	1953	馬鈴薯の病害 一見分け方とその防除.	農業北海道 5(7): 10-13.
永田利美	1995	“11. その他の病虫害”,Ⅱ 馬鈴薯の病虫害とその防除,「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切 嶺 編).	日本植物防疫協会, 東京, pp.89-93.
仲川晃生	1999	暖地2期作ジャガイモ栽培地帯で發生する病害の対策と問題点.	農業技術 54(2): 70-73.
成田武四	1953	馬鈴薯の病害.	農業北海道 5(7): 18-20.
成田武四・桜井 清	1955	馬鈴薯の病虫害.	農業北海道 7(6): 17-20.
成田武四	1964	馬鈴薯の病害 Ⅰ.	北海道の農薬(創刊号): 29-
成田武四	1965	馬鈴薯の病害 Ⅱ.	北海道の農薬 4: 1-19.
成田武四	1971	馬鈴薯の病害.	北海道の農薬 11: 1-65.
成田武四	1977	“菌類病, 細菌病および生理病”,「馬鈴薯」(田口啓作・村山大記 監修).	グリーンダイセン普及会, 札幌, pp.119-168.
農産彙報(編集部)	1934	全國病蟲發生狀況 一馬鈴薯病害一.	農産彙報 21号.
坂口莊一	1977	貯蔵ジャガイモの病害と対策. (特集: 農産物の貯蔵と病害),	今月の農薬 21(11): 12-15.
桜井 清・成田武四	1955	馬鈴薯の病害・害虫.	農業北海道 7(6): 17-20.
高桑 亮	1988	“ジャガイモ”,「植物病害事典」(岸 国平 編).	全国農村教育協会, 東京, pp.94-101.
玉田哲男	1985	“第Ⅵ章 ジャガイモの病虫害と生理障害”,「北海道のジャガイモの栽培技術 一食用・加工食品用編一」(砂田喜代志 編・研修).	農業技術普及協会, 江別市, pp.163-214.
田中一郎	1937	馬鈴薯の病害と其の豫防法・防除法(附)馬鈴薯病害検索表.	北農 4(11): 440-449.
田中一郎	1951	採種馬鈴薯の病害.	農及園 26(1): 51-54.
田中一郎	1956	新しい馬鈴薯病害の防除法.	農及園 31(1): 65-69.
田中一郎	1956	馬鈴薯の新しい病害とその防ぎ方.	農業技術研究 10(4): 28-31.
田中一郎・遠藤和衛	1958	馬鈴薯の大敵.	農業北海道 10(7): 50-54.
田杉平司	1939	馬鈴薯の重大病害と實際的防除法.	農業世界 34(1): 146-151.
田杉平司	1949	“馬鈴薯の新病害”, 馬鈴薯の採種栽培法(農林省農政局農産課 編).	日本種馬鈴薯協会, 東京, pp.135-155.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
田杉平司	1950	“馬鈴薯の新病害”,「甘藷馬鈴薯増産技術の基礎」(日本園芸中央会 編).	日本園芸中央会, pp.322-342.
富山宏平	1967	北海道におけるジャガイモ病害の昨今.	植防 21(11): 475-479.
山梨農試	1926	馬鈴薯及菜豆品種ノ抗病性調査.	山梨農試業報 14: 49.
和賀三郎	1986	最近の病害発生メモから.	いも類振興情報 9: 10-14.
渡辺竜雄	1947	馬鈴薯の病害と防除法 (1).	農及園 22(4): 183-185.
渡辺竜雄	1947	馬鈴薯の病害と防除法 (2).	農及園 22(5): 263-265.
—	1953	馬鈴薯の病害・害虫.	農業北海道 5(7): 18-20.

610 ウイルス病・ウイロイド病

611 ウイロイド病

藤原裕治・野村幸弘・樋渡正一・志岐悠介・一斗東子・濱中大輝・齊藤範彦	2013	ダリアから分離したジャガイモやせいもウイロイド (<i>Potato spindle tuber viroid</i>) のジャガイモに対する病原性及びダリアにおける伝染性.	植防研報 49: 41-46.
星野智士・奥田智勇・井坂正大・堤 直也・宮井尚彦・池城隆明・齊藤範彦・小原達二・高橋 勤	2006	RT-PCR 法を用いたトマト及びジャガイモ種子からの <i>Potato spindle tuber viroid</i> (PSTVd) の検出.	植防研報 42: 69-73.
兼松誠司・日比忠明・橋本純治・山下修一・土崎常男	1991	数種の非放射性標識 DNAプローブを用いた <i>potato spindle tuber viroid</i> 検出法の比較.	日植病報 57(1): 73-74. (講要)
兼松誠司・日比忠明・橋本純治・山下修一・土崎常男	1991	PCRによるデオキシリボ核酸標識 <i>potato spindle tuber viroid</i> (PSTV)-cDNAプローブの調製.	日植病報 57(1): 126. (講要)
葛巻英祐・佐野輝男	2010	<i>Potato spindle tuber viroid</i> 感染と病徴発現に伴って発現量が低下するトマト2遺伝子 (<i>tchs2</i> と <i>p450d</i>) の発現量解析.	日植病報 76(1): 48. (講要)
松下陽介・宇杉富雄・津田新哉	2011	トマト退緑萎縮ウイロイドとポテトスピンドルチューバーウイロイドを同時に検出・同定するマルチプレックスRT-PCR 法の改良.	日植病報 77(1): 42. (講要)
松下陽介・宇杉富雄・津田新哉	2011	ポテトスピンドルチューバーウイロイドのペチュニアにおける種子伝染の実態.	日植病報 77(3): 194. (講要)
松下陽介・津田新哉	2012	ペチュニアの開花期から種子形成期の生殖器官におけるジャガイモやせいもウイロイドの組織局在性.	日植病報 78(3): 267. (講要)
松下陽介・津田新哉	2013	ペチュニアの開花期から種子形成期の生殖器官におけるジャガイモやせいもウイロイドおよびトマト退緑萎縮ウイロイドの組織局在性の相違.	日植病報 79(3): 209. (講要)
松下陽介・津田新哉	2013	我が国への侵入を危惧する4種ポスピウイロイドの主要作物における病原力比較.	日植病報 79(3): 218. (講要)
溝口仙太郎・松下陽介・津田新哉	2014	ジャガイモやせいもウイロイドまたはトマト退緑萎縮ウイロイドの感染花粉で得られたトマト種子のウイロイド種子伝染性の比較.	日植病報 80(4): 296. (講要)
長山昭博・佐野輝男・小川俊也・大西 昇・石田 功・岡田吉美	1997	2本鎖RNA分解酵素(<i>pac1</i>)導入によるジャガイモ <i>spindle tuber</i> ウイロイド抵抗性ジャガイモの作出.	日植病報 63(3): 239-240. (講要)
中原健二・畑谷達児・林 良憲・杉本宣敬・木村郁夫・四方英四郎	1994	日本のジャガイモ品種の <i>potato spindle tuber viroid</i> に対する反応と遺伝子診断.	日植病報 60(6): 793. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
中原健二・畑谷達児・木村郁夫・四方英四郎	1997	日本で栽培されているジャガイモ品種の potato spindle tuber viroid に対する反応と遺伝子診断.	北日本病虫研報 48:69-74.
佐野輝夫・佐々木真津生・四方英四郎	1981	ホップ矮化ウイロイドとcucumber pale fruit viroid および potato spindle tuber viroid との関係について.	日植病報 47(5): 599-605.
Sano, T. and Matsuura, Y.	2004	Accumulation of short interfering RNAs characteristic of RNA silencing precedes recovery of tomato plants from severe symptoms of <i>potato spindle tuber viroid</i> infection.	J.Gen.Plant Pathol. 70(1): 50-53.
佐野輝男・村上咲子・伊藤寛次・対馬太郎	2011	ダリアから分離された <i>Potato spindle tuber viroid</i> について.	日植病報 77(3): 194.(講要)
菅原康平・Charith Raj Adkar-Purushothama・葛西厚史・山本英樹・山崎佑人・赫 英紅・高田展之・後藤英樹・新堂さほり・原田竹雄・佐野輝男	2015	ウイロイド特異的スモールRNAを発現する形質転換ベンサミアーナタバコによるジャガイモやせいもウイロイド感染の遅延.	日植病報 81(3): 272.(講要)
高橋 壮・Diener, T.C.	1976	Potato spindle tuber 病の病徴と遊離核における病原因子の複製.	日植病報 42(1): 72-73.(講要)
Tsushima, T., Murakami, S., Ito, H., He, Y.H., Raj, A.P.C.	2011	Molecular characterization of <i>potato spindle tuber viroid</i> in dahlia.	J. Gen.Plant Pathol. 77(4): 253-256.
対馬大希・伊藤貫次・佐野輝男	2014	ジャガイモやせいもウイロイドの全身蓄積量ならびに病原性と可変及び右末端領域の関連性.	日植病報 80(1): 71.(講要)
対馬大希・種田晃人・佐野輝男	2014	ジャガイモやせいもウイロイド-ダリア株の可変及び右末端領域に生じた3塩基変異の分析.	日植病報 80(4): 297.(講要)
対馬大希・Charith Rai Adkar-Purushothama・種田晃人・佐野輝男	2015	病原性の異なるジャガイモやせいもウイロイド感染トマト中のマイクロRNA発現量の変動分析.	日植病報 81(1): 61.(講要)
対馬大希・佐野輝男	2015	ジャガイモやせいもウイロイド・ダリア株の可変及び右末端領域の塩基変異と病原性.	日植病報 81(3): 286.(講要)
Tsushima, D., Adkar-Purushothama, C.R., Taneda, A. and Sano, T.	2015	Changes in relative expression levels of viroid-specific small RNAs and micro RNAs in tomato plants infected with severe and mild symptom-inducing isolates of <i>Potato spindle tuber viroid</i> .	J. Gen. Plant Pathol. 81(1): 49-62.
対馬大希・佐野輝男	2016	ジャガイモやせいもウイロイド-ダリア株の弱毒性を特徴づける変異の解析.	日植病報 82(1): 43.(講要)
対馬大希・佐野輝男	2016	ジャガイモやせいもウイロイド-ダリア株の左末端及び病原性領域の塩基変異と病原性比較分析.	日植病報 82(3): 263.(講要)
対馬太郎・宍戸 愛・アドカプルシヨッタマチャリトラジ・佐野輝男	2012	ダリアから検出されたジャガイモやせいもウイロイド (PSTVd) 欠損分子について.	日植病報 78(3): 266.(講要)
Tsutsumi, N., Yanagisawa, H., Fujiwara, Y. and Ohara, T.	2010	Detection of <i>potato spindle tuber viroid</i> by reverse transcription loop-mediated isothermal amplification.	Res. Bull. Pl. Prot. Japan 46: 61-67.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
山端直樹・佐野輝男・ 松浦陽子・森谷良平	2004	PSTVd感染で発現量が変化するトマト13 遺伝子の同定.	日植病報 70(1): 53.(講要)
山下修一	1983	“23 potato spindle tuber viroid.”, 4編 病 原ウイルス. II 海外に発生する主要な植 物ウイルス, 「植物ウイルス事典」(與良 清 ほか編).	朝倉書店, 東京, pp.577-579.
柳澤広宣・堤 直也・ 石井一孝・志岐悠介・ 栗原金光	2010	RT-LAMP法を用いたpotato spindle tuber viroid (PSTVd)の検出.	日植病報 76(3): 223.(講要)

612 ウイルス病

安孫子孝一・末永 一	1945	馬鈴薯に於ける蚜蟲の寄生消長とバイラ ス病傳播との關係.	農及園 20(3): 133-134.
安孫子孝一	1946	馬鈴薯の採種とバイラス. (特輯 馬鈴薯 の研究)	農及園 21(2): 71-74.
安孫子孝一・安達一明	1947	馬鈴薯ヴァイラス病の伝播に及ぼす蚜虫 と病原との相互關係.	東北農業 1(1): 6-13.
安孫子孝一	1951	バイラス病診断 (技術手帳).	農業技術 6(10): 11.
安孫子三郎・秋元喜 弘・小池郁夫・松沢運 夫・栗原 実	1957	馬鈴薯Xモザイク病の病徴発現について (予報).	日植病報 22(1): 40.(講要)
愛知農試	1932	葉巻病に就て.	愛知農報 99: 64-68.
愛知農試	1934	馬鈴薯の萎縮性病害と其の試験成績並 に防除法.	愛知農報 128: 201-206.
愛知農試	1935	馬鈴薯の萎縮性病害に関する試験.	病蟲雜 22(7): 554-555.
愛知農試	1935	馬鈴薯の萎縮性病害に関する試験.	愛知農試業功, 昭和8年度 pp.68-69.
愛知農試	1936	馬鈴薯の萎縮性病害に関する試験.	愛知農試業功, 昭和9年度 pp.72-73.
愛知農試	1937	馬鈴薯の萎縮性病害に関する試験.	愛知農試業功, 昭和10年度 pp.75.
会田勇太郎	1939	馬鈴薯のヴァイラス病.	山形農會報 215: 22-26.
秋元喜弘	1954	馬鈴薯Xバイラス病の接種検定.	日植病報 18(3・4): 147-148. (講要)
秋元喜弘・松沢運夫・ 栗原 実	1958	馬鈴薯Sウイルスについて.	日植病報 23(1): 42.(講要)
秋元喜弘	1959	top necrosis 現象に関する2, 3の試験.	日植病報 24(1): 62-63.(講要)
秋元喜弘	1960	馬鈴薯主要品種の接種当代におけるYウ イルスによる病徴について.	日植病報 25(1): 63.(講要)
秋元喜弘	1972	ジャガイモウイルス病検定技術の進歩と 今後の展望.	農及園 47(9): 1314-1320.
(秋元喜弘)	1972	馬鈴薯ウイルス病の検定と防除.	北海道中央馬鈴薯原原種農場, 72p.
(秋元喜弘 編)	1974	ジャガイモXモザイク病およびYモザイク 病に関する試験.	馬鈴薯原原種農場研報 9: 1- 95.
秋田農試	1935	馬鈴薯の萎縮性病害に関する試験.	秋田農試業功(昭和8年度), pp.158-160., pp.169-172.
秋田農試	1939	馬鈴薯萎縮性病害に対する種薯處理法 と収量に及ぼす關係試験.	病蟲雜 26(9): 668.
青木忠文・川田 武	1976	ジャガイモSウイルス (PVS) の検定.	日植病報 42(1): 93.(講要)
青木忠文	1980	ジャガイモYウイルス (PVY) 罹病農林1号 に関する調査.	日植病報 46(1): 99.(講要)
青木忠文	1980	数種のジャガイモウイルスに対するツニカ の反応.	日植病報 46(1): 99-100.(講 要)
青木忠文・米村 信・故 川田 武・上田一郎・四 方英四郎	1982	ジャガイモウイルスのELISA検定につい て.	日植病報 48(1): 122-123.(講 要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
青木忠文・堀尾英弘	1983	ジャガイモSウイルス (PVS) およびYウイルス (PVY) のラテックス凝集反応.	日植病報 49(1): 122.(講要)
荒井 啓・土居養二・与良 清・明日山秀文	1966	ジャガイモ葉巻ウイルスに感染した <i>Physalis floridana</i> 葉に見出されるウイルス様粒子.	日植病報 32(5): 295.(講要)
荒井 啓・土居養二・与良 清・明日山秀文	1967	ジャガイモ葉巻ウイルスの部分純化ならびに罹病組織の電子顕微鏡観察.	日植病報 33(5): 316-317.(講要)
荒井 啓・土居養二・与良 清・明日山秀文	1969	ジャガイモ葉巻ウイルスに感染した3種植物の葉におけるウイルス粒子の電子顕微鏡観察ならびにウイルスの部分純化.	日植病報 35(1): 10-15.
荒井 啓・土居養二・与良 清・明日山秀文	1969	ジャガイモ葉巻ウイルス (PLRV) 感染葉におけるvirionの動静.	日植病報 35(2): 125.(講要)
荒井 啓	1983	“130 ジャガイモ葉巻ウイルス”, 4編 病原ウイルス, 「植物ウイルス事典」(與良 清ほか編).	朝倉書店, 東京, pp.426-427.
浅野満夫・相川英雄・松田義親	1949	馬鈴薯春種を秋作した場合の収量並にウイルス病発病度.	農及園 24(5): 349.
浅野満夫・相川英雄・松田義親	1950	馬鈴薯の退化に関する研究(予報).	九州農業研究 6: 61-62.
浅野満夫・相川英雄・松田義親	1951	馬鈴薯のバイラス病罹病率について.	九州農業研究 8: 97-98.
明日山秀文	1947	“馬鈴薯のバイラス病”, 「甘藷馬鈴薯の病虫害」(中島 汀 編).	日本甘藷馬鈴薯(株), 東京, pp.18-24.
明日山秀文	1949	ワタアブラムシによるジャガイモY-バイラスの媒介.	農及園 24(2): 122.
明日山秀文・平井篤造	1949	ジャガイモ連鎖性モザイク病について.	日植病報 13(3・4): 29-32.
明日山秀文	1950	“馬鈴薯の萎縮病”, 「いも類の病害虫と防除」(堀 正侃 編).	朝倉書店, 東京, pp.21-48.
明日山秀文・小室康雄	1950	ジャガイモ・バイラスの分類に関する研究 I 外観健全な男爵のジャガイモのvirusについて.	植物バイラス病研究報告(明日山秀文・野口弥吉 編), 養賢堂, 東京, pp.4-12.
明日山秀文・葛西武雄	1950	ワタノアブラムシに依るジャガイモYバイラスの媒介.	日植病報 14(1・2): 52.(講要)
明日山秀文・小室康雄	1950	ジャガイモ紅丸の連鎖性モザイク病のバイラスに就て.	日植病報 14(1・2): 53.(講要)
明日山秀文・小室康雄・加藤美文	1950	メークイン・ジャガイモの黄斑性モザイク病に就いて.	日植病報 14(3・4): 115.(講要)
明日山秀文・小室康雄	1951	ジャガイモバイラスの分類に関する研究 II 紅丸ジャガイモの連鎖性モザイク病バイラスに就いて.	日植病報 15(2): 49-54.
明日山秀文・吉井 甫(座長)	1955	シンポジウム. ジャガイモのモザイク病 (1) 與良 清: 病原バイラスとその検定., (2) 大島信行: バイラスの変異・馬鈴薯Xバイラスの変異について., (3) 村山大記: 馬鈴薯モザイク病バイラスの抗原性について., (4) 平井篤造: 組織及び細胞の病変.	日植病報 20(2・3): 132-138.
Balogun, O.S.・徐 雷新・細川大二郎	1998	トマトにおけるタバコモザイクウイルスの混合感染によるジャガイモXウイルスの増殖促進 (2).	日植病報 64(6): 598.(講要)
ト蔵梅之丞	1935	馬鈴薯の萎縮病と其の防除.	病蟲雑 22(4): 279-284.
ト蔵梅之丞	1937	馬鈴薯の萎縮病と其の防除.	病蟲雑 24(8): 574-579.
Chikh Ali, M., Katayama, K., Maoka, T. and Natsuaki, K.T.	2005	Characterization of three Syrian isolates of potato virus Y from potato.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 71(3): 233. (abs.)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Chikh Ali, M., Katayama, K., Maoka, T. and Natsuaki, K.T	2006	The occurrence and characterization of the recombinant isolates of potato virus Y, PVY ^N W in Syria.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 71(4): 281. (abs.)
Chikh Ati, M., Maoka, T. & Natsuaki, K.T.	2007	A point mutation changes the serotype of a potato virus Y isolate.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 73(3): 247.(abs.)
Chikh Ali, M., Maoka, T. and Natsuaki, K.T.	2008	Isolates of the PVY ^{SYR} type form a heterogeneous recombinant subpopulation of potato virus Y in Syria.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 74(3): 223-224. (abs.)
Chikh Ali, M., Maoka, T. and Natsuaki, K.T.	2008	The discrimination between serotypes O and N of potato virus Y using a multiplex PCR assay.	Trop. Agr. Develop. 52(2): 37-42.
Chikh Ali, M., Maoka, T. and Natsuaki, K.T.	2009	The occurrence of a new strain of potato virus Y in Syria.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 75(3): 279. (abs.)
Chikh Ali, M., Maoka, T., Taniguchi, M., Horita, H., Sakaki, J. and Natsuaki, T.	2010	The first report on the occurrence of the European recombinant PVY ^{NTN} strain in Japan.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 76(1): 79-80. (abs.)
Cho, S.Y., Park, S.H., Kim, Y.J. and Kim, K.- H.	2006	Characterization of the stem loop 1 located at the 5' end of potato virus X RNA interacting with coat protein and identification of specific coat protein domain.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 72(4): 291. (abs.)
土井健次郎・古沢典夫	1965	馬鈴薯ウイルス病病徴の判定と品種間差異 第1報 LR, STについて.	東北農業研究 7: 123-125.
土井健治郎・古沢典夫・鎌田信昭	1966	馬鈴薯ウイルス病病徴の判定と品種間差異 第2報 CMについて.	東北農業研究 8: 159-162.
土居養二・與良 清・明日山秀文	1968	ウイルス感染葉におけるvirionの動静 - PVYグループのヒモ状ウイルスについて.	日植病報 34(5): 348.(講要)
土居養二・與良 清	1970	所在様式によるウイルスの分類 - PVS群の長形ウイルスについて.	日植病報 36(3): 186-187.(講要)
江口俊一・戸倉幸三・江住和雄	1955	血清反応検定(スライド法)によるXバイラスの淘汰.	日植病報 19(3・4): 175.(講要)
江口俊一・戸倉幸三・江住和雄	1955	血清反応検定(スライド法)の精度向上及びその他の問題について.	日植病報 19(3・4): 175.(講要)
江口俊一・戸倉幸三・江住和雄	1955	血清反応検定によるXバイラス淘汰.	日植病報 20(1): 46.(講要)
江口俊一・吉田博哉	1957	馬鈴薯Xウイルスの伝染について 第2報 貯蔵中の感染.	日植病報 22(1): 59.(講要)
江口俊一・池上辰雄・宮沢輝俊・鈴木誠三	1962	ジャガイモ葉捲病の熱処理による不活化について.	日植病報 27(5): 266-267.(講要)
愛媛農試	1925	馬鈴薯金時種選抜系統萎縮病抵抗性比較試験.	愛媛農試業功(大正12年度), pp.77-78.
愛媛農試	1925	馬鈴薯各品種萎縮病抵抗力比較試験.	愛媛農試業功(大正12年度), p.78.
遠藤冲吉	1950	“ジャガイモに於けるバイラスの消去の問題に就いて”, 「植物バイラス病研究報告」(明日山秀文・野口彌吉 編).	養賢堂, 東京, pp.32-36.
藤本 晃・滝田 稔	1979	馬鈴しょ葉捲病保毒有翅アブラムシの飛来と感染時期.	日植病報 45(1): 120.(講要)
福家 宏・佐郷勝也・田中 智	1989	ジャガイモにおけるPVYの移行増殖について.	日植病報 55(1): 110.(講要)
福家 宏・佐郷勝也・田中 智	1991	ジャガイモにおけるジャガイモYウイルス(PVY) の塊茎への移行について.	日植病報 57(1): 121.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
福家 豊・安孫子孝一	1944	馬鈴薯の無病原種選抜法としての個別検定法の價值に就て.	農商務省農試彙報 59: 1.
福井武治	1933	馬鈴薯のヴァイラス病と昆蟲との關係.	農業教育 36: 56-59.
福井武治	1926	馬鈴薯の葉捲病.	農業世界 21(9): 137-
福岡農試	1937	馬鈴薯萎縮病に關する調査及び試験.	福岡農試業務年報(昭和11年度) pp.118.
福岡農試	1939	馬鈴薯萎縮病無病種薯育成試験.	病蟲雜 26(7): 513-514.
福岡農試	1940	馬鈴薯萎縮病無病種薯育成試験.	園芸 23(9): 296.
福士貞吉	1933	邦産作物のヴァイラス病の種類に就て(1).	病蟲雜 20(1): 22-26..
福士貞吉	1935	蔬菜類のモザイク病に關する最近の研究概観.	教育農藝 4: 1-8.
福士貞吉	1938	馬鈴薯萎縮病に就て(Ⅰ).	病蟲雜 25(1): 37-42.
福士貞吉	1938	馬鈴薯萎縮病に就て(Ⅱ).	病蟲雜 25(2): 111-118.
福士貞吉	1938	馬鈴薯萎縮病に就て(Ⅲ).	病蟲雜 25(3): 201-209.
福士貞吉	1938	馬鈴薯萎縮病に就て(Ⅳ).	病蟲雜 25(4): 266-274.
福士貞吉	1938	馬鈴薯萎縮病に就て(Ⅴ).	病蟲雜 25(5): 358-365.
福士貞吉	1938	馬鈴薯萎縮病に就て(Ⅵ).	病蟲雜 25(6): 429-436.
福士貞吉	1938	馬鈴薯萎縮病に就て(Ⅶ).	病蟲雜 25(7): 504-509.
福士貞吉	1938	馬鈴薯萎縮病に就て(Ⅷ).	病蟲雜 25(8): 589-597.
福士貞吉	1941	馬鈴薯の萎縮病に就て.	北海道農會資料 43: 1-12.
福士貞吉	1944	馬鈴薯の増産計畫と萎縮病.	秋田農試時報 11: 1-11.
福士貞吉	1946	ジャガイモヒゲナガアブラムシと馬鈴薯萎縮病との關係に就て.	生物 1(1): 37-41.
福士貞吉	1946	馬鈴薯の増殖と萎縮病の予防法.	柏葉書院, 札幌, 46p.
福士貞吉	1948	馬鈴薯のバイラス病を繞る諸問題.	育種と農芸 3: 120-123.
福士貞吉・田中一郎	1949	馬鈴薯バイラス病に對する氣候の影響.	北薯連資料 7: 1-10.
福士貞吉・坂本三郎	1950	馬鈴薯バイラス病に對する超音波の影響.	植物病害研究 4: 8-16.
福士貞吉・坂本三郎	1950	馬鈴薯バイラス病に對する超音波の影響.	日植病報14(1・2) 40.(講要)
福士貞吉・坂本三郎	1950	“馬鈴薯バイラス病に對する超音波の影響”, 「植物バイラス病研究報告」(明日山秀文・野口弥吉 編).	養賢堂, 東京, pp.1-3.
福士貞吉・築地文太郎	1950	“馬鈴薯バイラス病の伝染に關する知見”, 「植物バイラス病研究報告」(明日山秀文・野口弥吉 編).	養賢堂, 東京, pp.27-31.
福士貞吉・若林 勝・大島信行	1950	馬鈴薯ヴィルス病罹病薯に對するX線の影響.	日本医学放射線学会雑誌 10(5・6): 47.
福士貞吉・若林 勝・大島信行	1951	馬鈴薯バイラス病罹病塊茎に對するX線の影響.	北大農邦文紀要 1(1): 1-10.
福士貞吉・若林 勝・大島信行	1951	馬鈴薯萎縮病罹病塊茎に對するX線照射の影響に就いて.	日植病報 15(2):87.(講要)
福士貞吉	1951	馬鈴薯バイラス病に關する二, 三の問題.	農及園 26(3): 319-324.
福士貞吉・田中一郎	1951	“馬鈴薯バイラス病に對する氣候の影響”, 「逸見武雄先生還暦記念論文集」(赤井重恭 編).	植物病害研究會, 京都, pp.8-16.
福士貞吉・四方英四郎	1952	植物バイラス病の電子顕微鏡的研究.	日植病報 16(3・4): 173.(講要)
福士貞吉・四方英四郎	1952	バイラスを見る.	日植病報 17(1):35.(講要)
福士貞吉・四方英四郎・大島信行	1957	植物ウイルスの電子顕微鏡的研究 第6報 馬鈴薯Xウイルス粒子の長さ(予報).	日植病報 22(1):61.(講要)
福島恵介・浅井昌記・平間亮一・高橋 正・谷口正伸	2004	種馬鈴しょにおけるTobacco rattle virusの発生調査.	植防研報 40: 149-151.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
古田和義・畑谷達児・ 上田 一郎・佐藤仁敏・ 堀尾英弘	1996	ジャガイモSウイルスゲノムの3' 末端領域 の塩基配列.	日植病報 62(6): 646.(講要)
不破秀明・佐藤仁敏・ 眞岡哲夫	2006	遺伝子診断によるジャガイモ休眠塊茎か らのジャガイモウイルスの検出に影響する 要因.	日植病報 72(1): 86.(講要)
不破秀明・梅木和也・ 高橋弘喜・佐藤仁敏・ 眞岡哲夫・畑谷達児	2007	ジャガイモ貯蔵休眠塊茎のウイルスの遺 伝子診断.	日植病報 73(1): 75.(講要)
不破秀明・小曾納雅 則・角 一雄・清水基 滋・田中文夫	2010	ジャガイモXウイルスの切断刀伝染に対す るマレイン酸の防除効果.	北日本病虫研報 61: 61-65.
Golnaraghi, A., Pourrahim, R., Farzadfar, S. and Ohshima, K.	2010	Sequence comparison of different Iranian isolates of tomato yellow fruit ring virus from potato.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 76(3): 190-191.(abs.)
後藤正昭	1976	電子顕微鏡によるジャガイモウイルス検定 法.	馬鈴薯原原種農場研報 11: 1- 17.
後藤忠則・根本正康	1973	タバコモザイクウイルスとジャガイモXウイ ルスの重複感染によるトマト条斑病につい て.	北海道農試研報 105: 1-8.
後藤忠則・佐藤仁敏・ 吉田幸二・本田要八郎	1989	ジャガイモから分離されたトマト輪点ウイ ルス.	日植病報 55(1): 110.(講要)
後藤忠則・本田要八 郎・吉田幸二	1991	トマトおよびジャガイモから分離されたキュ ウリモザイクウイルスについて.	日植病報 57(1): 116.(講要)
後藤忠則・本田要八郎	1992	ジャガイモにおけるキュウリモザイクウイル スの塊茎伝染.	日植病報 58(1): 145.(講要)
Gupta, V.K. and Raychaudhuri, S.P.	1972	<i>In vivo</i> and <i>in vitro</i> effects of some phenolic compounds and tannins on potato virus Y.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 38(1): 22-24.
萩田孝志・南田和夫・ 赤井 純	1986	エライザ法によるジャガイモ葉巻ウイルス (PLRV)の塊茎検定.	日植病報 52(3): 554-555.(講 要)
萩田孝志・梶野洋一	1988	北海道におけるジャガイモウイルス病と媒 介アブラムシ類の発生実態.	日植病報 54(1): 113-114.(講 要)
萩田孝志・梶野洋一・ 赤井 純	1988	北海道におけるジャガイモウイルス病およ び媒介アブラムシ類の発生実態.	北農 55(11): 30-39.
萩田孝志・大島一里・ 井上アリセ和子・四方 英四郎	1990	北海道におけるジャガイモモザイク病の 発生とポリクローナル抗体によるPVYの検 出.	日植病報 56(1): 139-140.(講 要)
萩田孝志・大島一里・ 井上アリセ和子・四方 英四郎	1990	北海道におけるジャガイモYウイルス (PVY) の発生とモノクローナル抗体による 病原ウイルスの検出.	日植病報 56(3): 425.(講要)
萩田孝志・大島一里・ 井上アリセ和子・四方 英四郎	1991	ジャガイモから分離したジャガイモYウイ ルス (PVY)の各種植物に対する病原性の 比較.	日植病報 57(3): 447.(講要)
萩田孝志・向原元美	2001	ジャガイモ品種「スタークイーン」のジャガ イモYウイルス (PVY) 感染による病徴.	北海道立農試集報 81: 49-52.
(白楊會)園藝科	1942	馬鈴薯の萎縮病.	白楊農誌 3(12): 376-378.
Hamada, K., Inoue, M., Tanaka, A. and Watanebe, H.	2001	Potato virus Y-resistance in the progeny of haploid mutants obtained by the culture of <i>Nicotiana tabacum</i> L. anthers exposed to ion beams.	Plant Biotechnology, 18(4): 251- 257.
浜屋悦次・森 寛一	1964	組織培養法によるジャガイモウイルス病の 無毒化(2).	日植病報 29(2): 79.(講要)
浜屋悦次・森 寛一	1965	ジャガイモ芽先組織内のXウイルス分布.	日植病報 30(2): 94.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
畑谷達児・佐野輝男・ 四方英四郎	1990	ジャガイモYウイルスえそ系統 (PVY-T) の外被蛋白質遺伝子のcDNAクローニングと大腸菌における発現.	日植病報 56(1): 140.(講要)
畑谷達児・佐野輝男・ 大島一里・四方英四郎	1990	ジャガイモYウイルスえそ系統 (PVY-T)・外被蛋白質遺伝子の大腸菌での発現.	日植病報 56(3): 419.(講要)
畑谷達児・Inoue, A.K.・大島一里・四方 英四郎	1991	ジャガイモYウイルス普通系統およびえそ系統に特異的な抗原決定基を構成するアミノ酸配列について.	日植病報 57(3): 459.(講要)
畑谷達児・木村郁夫・ 四方英四郎	1993	ジャガイモYウイルスの外被蛋白質遺伝子発現形質転換タバコの作出.	日植病報 59(3): 303.(講要)
畑谷達児・佐藤仁敏・ 野口 健・木村郁夫・田 中 智・四方英四郎	1993	PCR-マイクロプレート・ハイブリダイゼーション法によるジャガイモ塊茎からのジャガイモYウイルスの検出.	日植病報 59(6): 771-772.(講要)
畑谷達児・大島一里・ 木村郁夫・四方英四郎	1994	大腸菌発現系を用いたジャガイモYウイルスの系統特異的抗原決定基を構成するアミノ酸配列の解析.	日植病報 60(3): 381-382.(講要)
畑谷達児・上田一郎	1997	ジャガイモYウイルスゲノムの3'末端領域におけるRNA-RNA組換えについて.	日植病報 63(3): 265.(講要)
畑谷達児・後藤深雪	1998	ジャガイモYウイルス普通系統およびえそ系統間のゲノム塩基配列の比較.	日植病報 64(4): 398-399.(講要)
畑谷達児・上田浩司・ 今井杏子・八木橋 悠・ 久保真一・佐藤仁敏・ 大島一里・上田一郎	2003	ジャガイモSウイルスのアンデス系統と普通系統の分子性状比較と分子識別.	日植病報 69(1): 76.(講要)
畑谷達児・眞岡哲夫・ 福本文良	2006	わが国で発生したジャガイモMウイルスの分子性状及び血清学的正常の解析.	日植病報 72(1): 86.(講要)
畑谷達児・中山尊登・ 眞岡哲夫	2006	わが国のジャガイモモップトップウイルスの性状解析と分子診断.	日植病報 72(4): 253.(講要)
畑谷達児	2007	わが国で発生したジャガイモ黄斑モザイクウイルスの分子性状解析.	日植病報 73(1): 75.(講要)
畑谷達児・眞岡哲夫	2008	わが国未発生的重要ジャガイモウイルスおよびウイルス病原の分子検出法の開発.	日植病報 74(1): 81.(講要)
畑谷達児・眞岡哲夫	2008	ジャガイモMウイルスの遺伝的多様性と血清学的差異.	日植病報 74(3): 234.(講要)
畑谷達児・眞岡哲夫	2013	わが国におけるジャガイモモップトップウイルスの全塩基配列と感染性転写産物.	日植病報 79(3): 205-206.(講要)
畑谷達児・中山尊登	2014	ジャガイモモップトップウイルスのリードスルータンパク質欠失変異の菌伝搬性.	日植病報 80(4): 311.(講要)
早河広美・柳 武・関 谷一郎	1956	馬鈴薯蚜虫防除による馬鈴薯萎縮病予防効果 (予報) .	関東東山病虫年報 3: 40.
速水敦子・三十尾修 司・松林元一	1984	成長点培養によるパレイショのウイルス無毒化に関する研究 第1報 成長点組織の幼植物分化に影響する若干の要因と分化植物のウイルス無毒化.	神戸大農研報 16(1): 43-53.
速水敦子・松林元一	1984	生長点培養によるジャガイモのウイルス無毒化に関する研究 II 生長点組織の幼植物分化と培養条件との関係.	近畿作物・育種談話会報 29: 4-8.
日高 醇・比留木忠治	1955	タバコから検出された potato virus Y について.	秦野たばこ試業程務報告 (昭和30年度), p. 94.
日高 醇・都丸敬一	1960	ジャガイモウイルスYの1系統タバコ黄斑えそ系 ー干渉効果, アブラムシによる伝搬, 血清反応.	日植病報 25(1): 40-41.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
日高真誠・中村泰之・池田欣史・難波成任・山下修一・土崎常男・正木春彦・魚住武司	1989	ジャガイモYウイルス黄斑えそ系統 (PVY-T) ゲノムの外被タンパク質をコードする領域の塩基配列の解析.	日植病報 55(4): 534.(講要)
Hidaka, M., Yoshida, Y., Masaki, H. and Uozumi, T.	1993	Cleavage of potato virus Y polyprotein in <i>Escherichia coli</i> depending on the proteolytic activity of viral protease.	Biosci. Biotechnol. Biochem. 57(5): 710-714.
日高真誠	1995	ジャガイモYウイルスの増殖過程の解析とその阻害剤の開発.	農化 69(別): 493-494.(講要)
日高真誠	1996	ジャガイモYウイルスの増殖過程の解析とその阻害剤の開発.	農化 70(2): 145-150.
日高真誠・難波成任・山下修一・土崎常男・正木春彦・魚住武司	1989	ジャガイモYウイルス遺伝子の外被タンパク質をコードする領域のクローニング.	農化 63(3): 717.(講要)
日高真誠・吉田雪子・永井 融・正木春彦・魚住武司	1995	ジャガイモYウイルスNIaプロテアーゼの阻害剤の検索とそのウイルス増殖抑制効果.	日植病報 61(3): 293.(講要)
日高真誠	1996	ジャガイモYウイルスの増殖過程の解析とその阻害剤の開発.	農化 70(2): 145-150.
日野 巖・平田正一	1941	ヴァイラス罹病馬鈴薯の新鑑別法.	農及園 16(8): 1361-1362.
平井篤造	1950	バレイショバイラス病の実験野帳から.	農業技術 5(1): 16-21.
平井篤造・佐藤義一・後藤 洋・八角俊子	1950	日本各地産ジャガイモモザイク病のバイラス組成.	東北農試研報 1: 200-209.
平井篤造	1950	ジャガイモの黒斑性モザイク病.	農及園 25(4): 336.
平井篤造	1950	バレイショ・モザイク群バイラス病のバイラス組成.	日植病報 14(3・4): 99.(講要)
平井篤造・後藤 洋・佐藤義一・八角俊子	1950	ジャガイモのバイラス及びバイラス病.	北日本病虫年報 1: 55.(講要)
平井篤造・八角俊子	1951	ジャガイモ品種に保毒されるバイラス.	北日本病虫年報 2: 29-30.(講要)
平井篤造・八角俊子・佐藤義一	1951	ジャガイモのF群バイラス.	日植病報 15(2): 107.(講要)
平井篤造	1951	ジャガイモの脈間モザイク病.	農及園 26(9): 995.
平井篤造	1951	混合感染によるジャガイモのバイラス病.	科学 21(10): 542-543.
平井篤造	1951	馬鈴薯バイラスの検出.	農業毎日 5(5): 32-
平井篤造・八角俊子・加藤寿治	1952	ジャガイモY群バイラスの系統.	日植病報 16(1): 32.(講要)
平井篤造・越水幸男・小岩静衛	1952	ジャガイモバイラスの新らしい診断法について.	北日本病虫年報 3: 69.(講要)
平井篤造・工藤和一・小岩竜衛	1953	馬鈴薯葉巻病の検定並びに診断法.	植防 7(3・4): 113-115.
平井篤造・小岩龍衛・岡田みどり	1954	馬鈴薯の所謂微斑モザイク病のバイラス組成.	北日本病虫年報 5: 99.(講要)
平井篤造・工藤和一・岡田みどり	1954	Yバイラスに対する馬鈴薯品種の抵抗性検定.	北日本病虫年報 5: 100-101.(講要)
平井篤造・工藤和一	1955	“ウイルス感染の細胞化学 I モザイク葉に於ける酵素系の細胞内所在”, 「栃内・福士両教授還暦記念論文集」.	栃内・福士両教授還暦記念論文 文集刊行会, 札幌, pp.138-144.
平井篤造	1955	組織及び細胞の病変. (昭和30年度シンポジウム: III ジャガイモのモザイク病)	日植病報 20(2・3): 137-138.(講要)
平井篤造・八角俊子・加藤寿治	1955	ジャガイモの黄斑モザイク(F群)バイラス.	東北農試研報 4: 53-63.
平井篤造・八角俊子・加藤寿治	1955	ジャガイモのある品種に保毒されるバイラス.	東北農試研報 4: 65-71.
平井篤造・八角俊子・加藤寿治	1955	ジャガイモY群バイラスの系統.	東北農試研報 4: 73-86.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
平石千賀子・大島一里・仲川晃生・松尾和敏・小川哲治・四方英四郎・佐古宣道	1998	ジャガイモ塊茎えそ病(新称)。	九州病虫研報 44: 115.(講要)
平田正一・後藤重喜	1949	膠質沈降反応による馬鈴薯ウイルス病の新しい診断法。	農学 3(2): 112-114.
平田正一	1950	馬鈴薯グエイラス病診断に於ける沃度法並に石炭酸法の利用価値に就いて。	日植病報 14(1・2): 25-28.
平田正一	1951	電気泳動法によるウイルス病診断法(予報)。	日植病報 15(2): 88.(講要)
平田正一	1952	馬鈴薯ウイルス病の新しい蛋白反応診断法。	日植病報 16(2): 75.(講要)
平田正一	1952	馬鈴薯ウイルス病薯の貯蔵中に於ける水分含量の変化。	日植病報 16(3・4): 160.(講要)
平田正一	1952	ウイルス罹病植物体液の透明度。	日植病報 17(1): 35-36.(講要)
平田正一	1953	馬鈴薯ウイルス病防除に関連する種薯についての二, 三の実験。	日植病報 17(3・4): 173.(講要)
平田正一	1953	馬鈴薯ウイルス病薯と健全薯間における貯蔵水分量の変化について。	宮崎大学開学記念論文集, p.38-43.
Hirata, S.	1953	Studied on the diagnosing method for virus infected potato and radish by some protein reactions.	Jap. Jour. Bot. 14(1): 53-66.
平田正一	1954	菌癭及びウイルス罹病體中生長素量の健體との比較(豫報)。	日植病報 18(1・2): 62.(講要)
平田正一	1954	馬鈴薯ウイルス病診断に於ける物理的測定の価値。	日植病報 18(3・4): 156.(講要)
Hirata, S.	1955	Studies on the "colloidal precipitation method" for diagnosing virus-diseased potato, radish, turnip and sweet potato.	Mem. Fac. Agr. Univ. Miyazaki, 1(1): 137-177.
平田正一	1955	透明度表示によるウイルス罹病の大根及び馬鈴薯体液の膠質的安定度について。	九州病虫研報 1: 30-3.
平田正一	1955	透明度表示によるウイルス罹病の大根及び馬鈴薯体液の膠質的安定度について。	日植病報19(3・4): 133-136.
平田正一	1955	透明度表示によるウイルス罹病の大根及び馬鈴薯体液の膠質的安定度について。	日植病報 20(1): 25-26.(講要)
平田正一・河野明綱	1956	バレイショ連鎖モザイクウイルスの伝染についての二つの実験。	宮崎大農研報 1(2): 211-213.
Hirata, S.	1956	The methylen-blue method for diagnosing the virus-infected potato tubers and some other crops.	Mem. Fac. Agr. Univ. Miyazaki, 1(1): 179-200.
Hirata, S.	1958	Studies on the physical and chemical method for diagnosing the virus-diseased potatoes and some crops.	Mem. Fac. Agr. Univ. Miyazaki, 2(1): 1-87.
平田正一	1960	“理化学的診断法”, ウイルス病の診断法, 「植物ウイルス病 - 実験法と種類 -」(日高 醇ら編)。	朝倉書店, 東京, p.203-211.
廣島農試	1930	馬鈴薯萎縮病に関する試験。	廣島農試業功(昭和2年度), pp.218-219.
比留木忠治・日高 醇	1956	タバコからジャガイモYウイルスの検出について。	日植病報 21(3・4): 125.(講要)
北海道農務部・ホクレン	1968	組織培養法によるXウイルス無毒化種子馬鈴しの栽培管理について。	北海道農務部・ホクレン, 6p.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
北海道農務部・ホクレン	1969	組織培養法によるX・Fウイルス無毒化種子馬鈴しょの栽培管理について.	北海道農務部・ホクレン, 8p.
北海道農試	1916-1921	馬鈴薯品種ト萎縮病トノ関係試験.	大正4, 5, 6, 8年度各業概.
北海道農試	1924	馬鈴薯萎縮病に關する調査.	大正11年度業概, 126-150.
北海道農試	1925	馬鈴薯萎縮病に關する調査(一).	病蟲雜 12(4): 238-242.
北海道農試	1925	馬鈴薯萎縮病に關する調査(二).	病蟲雜 12(5): 293-297.
北海道農試	1925	馬鈴薯萎縮病に關する調査(三).	病蟲雜 12(6): 341-344.
北海道農試	1933	萎縮病未發生地産種薯に關する調査.	昭和4年度業概, p.58.
北海道農試	1935	馬鈴薯萎縮病に關する試験.	病蟲雜 22(2): 142-145.
本田要八郎・陳 明雄・梶田真司・松井千秋・大槻義昭・建部 到	1973	ポテト・ウイルス・X感染プロトプラストの電子顕微鏡觀察.	日植病報 39(3): 223.(講要)
本田要八郎・梶田真司・松井千秋・大槻義昭・建部 到	1974	PVY感染プロトプラストにおける新生ウイルス粒子とX体の出現時期.	日植病報 40(3): 210.(講要)
堀尾英弘・矢野勇夫・江住和雄	1968	わが国で見出されたジャガイモMウイルス.	日植病報 34(5): 374-375.(講要)
堀尾英弘・矢野勇夫・江住和雄	1969	わが国で見出されたジャガイモMウイルス.	日植病報 35(1): 47-54.
堀尾英弘	1970	ジャガイモの採種栽培とウイルス病防除.	農及園 45(6): 941-946.
堀尾英弘	1972	組織培養によるジャガイモウイルスの無毒化.	馬鈴薯原原種農場研報 6: 1-19.
堀尾英弘・雲居三俊	1974	ジャガイモSウイルスによるモザイク病の発生.	日植病報 40(2): 112-113.(講要)
堀尾英弘・江住和雄	1975	ジャガイモM, Sウイルスの接触伝染.	日植病報 41(1): 87.(講要)
堀尾英弘	1975	ジャガイモM, Sウイルスの病徴発現に及ぼす生育温度の影響.	日植病報 41(1): 121.(講要)
堀尾英弘・雲居三俊	1975	ジャガイモSウイルスによるジャガイモのモザイク病.	日植病報 41(2): 204-214.
堀尾英弘・田中 智	1976	ジャガイモMウイルスとSウイルスの相互間に見られる若干の干渉作用.	日植病報 42(1): 63.(講要)
堀尾英弘	1976	ジャガイモMモザイク病およびSモザイク病に関する研究.	馬鈴薯原原種農場研報 12: 1-94.
堀尾英弘・田中 智	1977	ジャガイモMウイルスおよびSウイルスのアブラムシ伝染について.	日植病報 43(1): 124.(講要)
堀尾英弘・田中 智	1978	ジャガイモにおけるPVM・PVS相互間の感染阻害.	日植病報 44(1): 101-102.(講要)
堀尾英弘	1979	話題のウイルス病(6)…ジャガイモのMモザイク病, Sモザイク病….	農及園 54(6):口絵.
Horio, H.	1981	Seed potato production and virus diseases in Japan.	Rev.Plant Protec. Res. 14: 59-72.
堀尾英弘	1983	“129 ジャガイモ黄斑モザイクウイルス, 132 ジャガイモAウイルス, 133 ジャガイモMウイルス, 134 ジャガイモSウイルス, 135 ジャガイモXウイルス, 136 ジャガイモYウイルス”, 4編 病原ウイルス, 「植物ウイルス事典」(與良 清ほか編).	朝倉書店, 東京, pp.424-425, pp.430-439.
堀尾英弘	1984	“1-4 ジャガイモ”, 「野菜のウイルス病」(植物ウイルス研究所学友会編).	養賢堂, 東京, pp.64-88.
堀尾英弘	1993	“ジャガイモ”, 第1章 食用作物, 「原色作物ウイルス事典」(土崎常男ほか編).	全国農村教育協会, 東京, pp.99-112.
堀尾英弘	1994	ジャガイモYウイルスのえそ系統(PVY-T)とその診断・防除.	いも類振興情報 39: 1-5.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
堀田治邦・佐々木 純・竹内 徹	2008	北海道で発生したジャガイモYウイルスによるピーマンモザイク病.	北日本病虫研報 59: 42-45.
堀田治邦・佐々木 純・竹内 徹	2008	じゃがいもYウイルスえそ系統 (PVY-N) の大腸菌発現外被タンパク質に対するモノクローナル抗体の作製.	日植病報 74(3): 219-220.(講要)
堀田治邦・佐々木 純・竹内 徹	2014	ジャガイモYウイルスえそ系統に対するモノクローナル抗体作製とELISAによる検出.	北海道立農試集報 98: 65-75.
細井彌三郎	1942	馬鈴薯のヴァイラス病と採種法に就いて.	白楊農誌 3(7): 210-214.
細川大二郎・草野友延・森 寛一	1973	蛍光抗体法によるタバコ接種葉中におけるCMVおよびPVXの移行・分布の追跡.	日植病報 39(3): 228.(講要)
細川大二郎・渡辺 実	1986	ジャガイモXウイルス及びタバコモザイクウイルス感染タバコの後包埋染色法による免疫電子顕微鏡観察.	日植病報 52(3): 559.(講要)
黄 耿堂・清水俊行・遠山 明・米山勝美	1986	Potato virus X-RNAの一簡易精製法.	日植病報 52(3): 554.(講要)
イダ パクス アンディカ・近藤秀樹・玉田哲男・鈴木信弘	2009	Potato virus X (PVX)サブゲノムRNAの蓄積はRNAサイレンシングにより株特異的に抑制される.	日植病報 75(1): 73.(講要)
出射 立・山本秀夫・坪井昭正・永井一哉	1982	春作採種ジャガイモにおけるアブラムシ忌避資材のジャガイモYウイルス病防除効果.	日植病報 48(1): 116.(講要)
出射 立・山本秀夫・坪井昭正・永井一哉	1982	春作ジャガイモ採種栽培における銀白色資材のジャガイモYウイルス病防除効果.	近畿中国農業研究 64: 52-55.
飯田俊武	1950	ジャガイモのバイラス病について.	防疫時報 18: 16-18.
飯田俊武・下川三男・加藤美文	1950	馬鈴薯バイラス病の診断法 日野, 平田の硫酸銅法について.	日植病報 14 (1・2): 52-53.(講要)
飯田俊武・岡野真美	1952	モザイク病ジャガイモの葉の糖代謝 I 糖の定量法.	日植病報 16(3・4): 182.(講要)
猪狩源三	1925	馬鈴薯萎縮病に関する研究.	農學會報 276: 428-431.
猪狩源三	1925	馬鈴薯萎縮病に関する化学的研究.	札幌農林學會報 17: 366-372.
今林俊一・堀口治夫	1953	有機燐殺虫剤のバレイショのアブラムシならびに葉巻病に対する効果.	北日本病虫研報(特別報告) 8: 55-62.
今井杏子・畑谷達治	2004	マルチプレックスRT-PCR法によるジャガイモ休眠塊茎からのジャガイモSウイルスの検出および系統識別.	日植病報 70(1): 84.(講要)
今泉誠子・久保 進	1983	ELISAによるジャガイモYウイルスえそ系の特異的検出.	日植病報 49(1): 81-82.(講要)
井本征史・栃原比呂志・岩木満朗・中村啓二	1981	わが国における Potato mop-top virus の発生.	日植病報 47(3): 409.(講要)
井本征史・岩木満朗・栃原比呂志・中村啓二・花田 薫	1986	わが国における Potato mop top virus の発生とその2, 3の性質.	日植病報 52(5): 752-757.
井上 平	1971	バレイショ葉巻病とジャガイモガの同時防除.	農及園 46(6): 905-908.
井上 平	1976	モモアカアブラムシの黄色水盤への飛来量と種ジャガイモの葉巻病汚染.	九州農業研究 38: 108.
井上 平	1979	ジャガイモ品種シマバラのウイルスYによるモザイク病の一防除法.	九州農業研究 41: 77.
井上 平・坂口荘一	1988	暖地の春秋2期作ジャガイモにおける葉巻病及びジャガイモY ウイルスによるモザイク病の防除.	長崎総農試研報(農業) 14: 31-59.
井上正保・松本祥子・松本 勤	1988	ジャガイモSウイルス (PVS)の1系統に対するモノクローナル抗体の作製.	日植病報 54(1): 88-89.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
井上正保・松本祥子・松本 勤	1988	抗ジャガイモSウイルス (PVS-k1) モノクローン抗体に対する Carlavirus の反応性.	日植病報 54(3): 403-404.(講要)
Inoue, A.K.・大島一里・畑谷達児・四方英四郎・萩田孝志	1991	北海道で分離したジャガイモYウイルス3系統の生物学的, 血清学的比較.	日植病報 57(1): 121.(講要)
Inoue, A.K.・大島一里・畑谷達児・四方英四郎	1991	北海道で分離したジャガイモYウイルス3系統の生物学的, 血清学的比較と外被蛋白質のアミノ酸配列.	日植病報 57(3): 459.(講要)
Inoue, A.K.・畑谷達児・四方英四郎	1992	ジャガイモYウイルスの遺伝子診断・逆転写-PCR産物のマイクロプレートでのハイブリダイゼーション.	日植病報 58(1): 145.(講要)
石川定一・関山英一・小谷内康好	1966	ジャガイモ葉巻病と後志地方に発生するジャガイモ紫染萎黄病の第1次病徴比較について.	日植病報 32(5): 310.(講要)
石川定一・池上辰雄・雲居三俊・川田 武・鈴木誠三・田村正勝・青木忠文・山本政良	1968	馬鈴薯組織培養男爵薯におけるXウイルス感染防止策試験.	農及園 43(12): 1895-1897.
石川定一・江口俊一・池上辰雄・雲居三俊・田村正勝・青木忠文	1970	馬鈴薯葉巻病の感染時期把握試験成績について.	農薬研究 16(3): 18-25.
伊藤誠哉	1930	馬鈴薯の病害, 特に萎縮病に就きて.	北海道廳農事彙報 32: 1-24.
伊藤茂郎	1965	“1. ウイルス病”, II 馬鈴薯の病害虫とその防除, 「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切 嶺 編).	日本植物防疫協会, 東京, pp.15-43.
岩木満朗・井本征史・花田 薫・栃原比呂志	1986	わが国に発生したpotato mop top virus の2, 3の性質.	日植病報 52(3): 548.(講要)
岩手農試	1930	馬鈴薯葉巻性萎縮病豫防試験.	岩手農試業務報告(昭和5年度), p.72.
鍵和田 聡・中林仁美・山次康幸・魯 曉云・大島研郎・宮田伸一・宇垣正志・南波成任	2000	ジャガイモXウイルス-b(えそ)系統のゲノムRNAの全塩基配列.	日植病報 66(2): 151-152.(講要)
鍵和田 聡・小松 健・高橋修一郎・細井三弘・宇垣正志・難波成任	2003	PVX-OS, -BSの病徴は複製酵素のC末端領域の1アミノ酸によって決定される.	日植病報 69(3): 330.(講要)
鍵和田 聡・森 拓馬・宇垣正志・難波成任	2004	ヘアピンRNA配列の一過的発現によるジャガイモXウイルスの感染阻害.	日植病報 70(3): 270-271.(講要)
鍵和田 聡・小松 健・尾関丈二・平田久笑・宇垣正志・山次康幸・難波成任	2006	病徴の異なるジャガイモX ウイルス-OS および-BS のタバコにおけるウイルス蓄積量.	日植病報 72(1): 42.(講要)
鹿児島農試	1929	馬鈴薯萎縮病に關する試験.	鹿児島農試業功(昭和2年度), pp.218-219.
神奈川農試	1936	馬鈴薯ネクロシスに關する試験.	神奈川農試成績 63(後編): 531-534.
神奈川農試	1937	馬鈴薯葉巻病豫防試験.	神奈川農試成績 67: 117-118.
神奈川農試	1938	馬鈴薯葉巻病豫防試験.	神奈川農試成績 68: 152-154.
菅野善明・小原祐一・尾崎克巳・長田龍太郎	2007	徳之島から採集したジャガイモYウイルス塊茎えそ分離株の全塩基配列解析.	九州病虫研報 53: 131.(講要)
鹿野 恭・谷口麦子・西村裕司・眞岡哲夫	2011	北海道におけるジャガイモYウイルス欧州型えそ系統 (Eu-PVY ^{NTN}) の発生生態.	日植病報 77(1): 74.(講要)
鹿野 恭・小西和彦・高篠賢二・眞岡哲夫	2013	黄色水盤で採集されたアブラムシからのジャガイモYウイルス検出.	日植病報 79(1): 67.(講要)
加納 健・山下修一・土居養二・與良 清	1981	ジャガイモのモザイク病株から見出されたCMVについて.	日植病報 47(1): 93.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Kano, T., Yamashita, S., Doi, Y. and Yora, K.	1985	Some properties of cucumber mosaic virus isolated from potato plants in Japan.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 51(5): 602-605.
樺太中央試験所農業部農事試験支所	1936	馬鈴薯萎縮病に関する試験.	樺太中央試農事試験支所業概(昭和9年度), p.52.
樺太中央試験所農業部農事試験支所	1937	馬鈴薯萎縮病の分布に関する試験.	樺太中央試農事試験支所業概(昭和10年度), p.51.
Kasai, M.	1921	Observations and experiments on the leafroll disease of the Irish-potato in Japan. (Preliminary report) .	Ber. Ohara Inst. Landw. Forsh. 2(1): 47-77.
笠井幹夫	1922	馬鈴薯の葉捲病シャシャキ(其一).	岡山縣農會報「農家の友」216: 7-12.
笠井幹夫	1922	馬鈴薯の葉捲病シャシャキ(其二).	岡山縣農會報「農家の友」277: 16-21.
笠井幹夫	1922	馬鈴薯の葉捲病シャシャキ(其三).	岡山縣農會報「農家の友」278: 12-17.
笠井幹夫	1923	馬鈴薯葉捲病(豫報)(一).	病蟲雜 10(4): 186-197.
笠井幹夫	1923	馬鈴薯葉捲病(豫報)(二).	病蟲雜 10(5): 231-237.
笠井幹夫	1924	馬鈴薯葉捲病の豫防駆除案.	病蟲雜 11(10): 551-556.
Kasai, M.	1924	Investigations on the Nelson's bodies as observed in the leaf-roll, mosaic, and healthy plants. with Plates XVI-XIX.	Ber. Ohara Inst. Landw. Forsh. 2(4): 443-461.
笠井幹夫	1925	馬鈴薯の葉捲病に就きての知見.	農学研究 7: 61-119.
笠井幹夫	1925	馬鈴薯退化病豫防法としての健全種薯の育成.	病蟲雜 12(7): 359-362.
笠井幹夫	1926	モザイク病に就て新しい事實.	病蟲雜 13(9): 519-535.
笠井幹夫	1926	馬鈴薯の葉捲病に関する研究.	農林省病菌害蟲彙報 17: 1-
笠井幹夫	1928	葉捲病・モザイク病豫防上未熟種子薯使用問題.	病蟲雜 15(3): 160-163. (抄録)
葛西武雄	1950	モモアカアブラムシによるジャガイモYウイルスの媒介.	日植病報 15(1): 41-42. (講要)
笠岡啓介・大野隆弘・桑田 茂	1998	ジャガイモYウイルスえそ系(PVY-T)および普通系(PVY-O)に対する免疫性および抵抗性を示すジャガイモ形質転換体について.	日植病報 64(4): 396. (講要)
柏崎 哲・Scott, K.P. ・Reavy, B. ・Harrison, B.D.	1993	ジャガイモモップトップウイルスの RNA-2 および RNA-3 の遺伝子構造.	日植病報 59(3): 343. (講要)
加藤仁平・中島東吾・日野原喜六	1967	高冷地の種馬鈴薯増殖過程におけるウイルス汚染ならびに平坦地における生育収量について.	群馬農試報告 6: 26-38.
加藤新平・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2003	Virus-induced gene silencingによるPPS遺伝子の機能解析.	日植病報 69(3): 248. (講要)
加藤美文	1950	馬鈴薯モザイク病の初感染に於ける発病, 特に収量について.	日植病報 15(1): 41. (講要)
加藤美文	1952	馬鈴薯Yウイルス初感染による発病と蚜虫によるバイラスの回収.	日植病報 16(3・4): 145. (講要)
加藤美文	1953	馬鈴薯Yウイルスの塊茎への移動について.	日植病報 18(1・2): 77. (講要)
加藤美文	1954	ジャガイモYウイルスの植物体内の移動について.	日植病報 19(1・2): 89. (講要)
加藤美文	1954	ジャガイモモザイク病とアブラムシとの関係.	植防 8(12): 528-531.
加藤美文	1957	感染ジャガイモ植物からアブラムシによるYウイルスの取出し.	農技研報告 C7: 65-88.
川上 繁	1943	馬鈴薯の重要性和バイラス病に就て(1).	新潟の園藝 7(5): 1-3.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
川上 繁	1943	馬鈴薯の重要性和ウイルス病に就て(2).	新潟の園藝 7(6): 6-8.
川上 繁	1943	馬鈴薯の重要性和ウイルス病に就て(3).	新潟の園藝 7(7): 1-3.
川上 繁	1943	馬鈴薯の重要性和ウイルス病に就て(4).	新潟の園藝 7(8): 1-3.
川上 繁	1943	馬鈴薯の重要性和ウイルス病に就て(5).	新潟の園藝 7(9): 7-9.
川又是好	1942	馬鈴薯のウイルス病と種薯生産に関する管見.	農及園 17(9): 1101-1103.
河村昌太・中村武郎・東 幹雄・町田明広・大井美知男	2006	長野県在来バレイショ‘下栗二度芋’と近縁在来品種のウイルス罹病状況.	園学雑 75(別2): 194.(講要)
川田信一郎	1944	馬鈴薯ウイルス病に於ける生長生理.	農及園 19(10): 943.
川田信一郎	1947	生長生理から見た馬鈴薯の所謂ウイルス病.	園学雑 16(3・4): 137-150.
川田信一郎	1950	“ジャガイモに於けるウイルスの発病と植物生長素含有量との関係”, 「植物ウイルス病研究報告」(明日山秀文・野口弥吉編).	養賢堂, 東京, pp.52-64.
菊地 実・大島信行	1954	馬鈴薯葉巻病とモモアカアブラムシの発育過程との関係.	東北農業 7(4): 100-102.
菊本敏雄・松井千秋	1960	ジャガイモXウイルスの電子顕微鏡的研究(1).	日植病報 25(1): 19.(講要)
木本氏幹・秦 正司	1951	漣葉モザイク病の馬鈴薯収量に及ぼす影響.	北日本病虫年報 2: 30.(講要)
木村伸司・西尾 健・小林敏郎	1985	ジャガイモ南部潜在ウイルス(Southern potato latent virus) のアブラムシ伝染について.	植防研報 21: 65-66.
木村鉄也	2014	種苗管理センターにおける原原種生産とジャガイモウイルス病対策の現状.	いも類振興情報 121: 8-14.
木村吉郎	1939	馬鈴薯ヴァイラス病薯の高温処理に依る健全化(第1報).	農及園 14(12): 2703-2711.
北田亮二・堀尾英弘・田中 智	1976	ジャガイモ・ウイルスの集団接種検定について.	日植病報 42(1): 107.(講要)
北田亮二	1976	ジャガイモウイルスの集団接種検定法について.	馬鈴薯原原種農場研報 11: 18-30.
北田亮二・堀尾英弘・田中 智	1977	PVXのトマトにおける土壌伝染試験.	日植病報 43(1): 124.(講要)
北田亮二・佐郷勝也・田中 智	1988	ジャガイモYウイルス(PVY)の系統と品種の反応.	日植病報 54(1): 113.(講要)
北島孝泰・佐郷勝也・田中 智	1987	ジャガイモ葉巻ウイルス(PLRV) 検定のためのELISA法の簡易化.	日植病報 53(3): 428.(講要)
木谷清美・井上好之利	1958	蚜虫によって媒介される馬鈴薯ウイルス病と麦間作との関係.	四国農業研究 3: 94-96.
小林敏郎・元島俊治・加藤幹雄・西尾 健・松濤美文	1982	ジャガイモから分離されたCarlavirusについて.	日植病報 48(1): 79-80.(講要)
小林敏郎・木村伸司・西尾 健・元島俊治	1983	暖地ジャガイモから分離されるジャガイモ南部潜在ウイルス(Southern potato latent virus, 新称).	日植病報 49(1): 81.(講要)
小林敏郎・木村伸司・西尾 健・元島俊治・松濤美文	1985	ジャガイモから分離されたCarlavirus.	植防研報 21: 41-46.
小金沢碩哉・土居養二・與良 清	1973	ジャガイモYウイルス(PVY) 感染により増大する可溶性蛋白質について.	日植病報 39(2): 136.(講要)
小島 誠・四方英四郎・菅原政芳・村山大記	1968	ジャガイモ葉巻病ウイルスの電子顕微鏡的観察.	日植病報 34(3): 208.(講要)
小島 誠・四方英四郎・菅原政芳・村山大記	1969	密度勾配遠心法によるジャガイモ葉巻病ウイルスの精製した電顕像.	ウイルス 19(1): 54.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
小島 誠・四方英四郎・菅原政芳・村山大記	1969	ジャガイモ葉巻病ウイルスの精製と電子顕微鏡的観察.	日植病報 35(2): 125-126. (講要)
小島 誠・菅原政芳・村山大記	1970	ジャガイモ葉巻病ウイルスの抗血清について.	日植病報 36(5): 365. (講要)
小島 誠	1970	ジャガイモの葉巻病とその病原ウイルス. (生物コーナー)	化学と生物 8(9): 548-549.
小島 誠・村山大記	1972	Polyethylene glycol (PEG) によるジャガイモ葉巻病ウイルスの沈殿.	日植病報 38(3): 224. (講要)
Kojima, M. and Murayama, D.	1972	An attempt to prepare antiserum against potato leaf-roll virus.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 38(4): 255-257.
Kojima, M. and Murayama, D.	1972	The application of polyethylene glycol precipitation for purification of potato leaf-roll virus.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 38(5): 431-433.
小島 誠・玉田哲男・村山大記	1974	ジャガイモ葉巻ウイルスとダイズ矮化ウイルスとの血清学的関係.	日植病報 40(3): 212. (講要)
Kojima, M.	1974	Studies on potato leaf-roll virus.	Jour. Fac. Agr. Hokkaidou Univ. 57(4): 368-430.
小島誠・四方英四郎	1974	PLRV, SDV蛋白のSDSポリアクリルアミドゲル電気泳動 (予報).	日植病報 42(1): 92. (講要)
小島 誠・Peters, D.	1977	ジャガイモ葉巻ウイルスの理化学的性質.	日植病報 43(3): 363-364.
小島 誠・四方英四郎	1978	免疫電顕法によるジャガイモ葉巻ウイルスの検出.	日植病報 44(1): 71-72. (講要)
小島 誠・四方英四郎	1978	免疫電研法によるジャガイモ葉巻病診断の試み.	日植病報 44(3): 396. (講要)
Kojima, M., Chou, T. and Shikata, E.	1978	Rapid diagnosis of potato leaf roll virus by immune electron microscopy.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 44(5): 585-590.
Kojima, M., Aoki, T. and Shikata, E.	1980	Detection of potato leafroll virus in the potato leaves and sprouts by ELISA.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 46(2): 274-277.
小島 誠・上田一郎・青木忠文・四方英四郎	1980	ELISAによるジャガイモ葉巻ウイルスの検出.	日植病報 46(3): 421. (講要)
小島 誠・滝沢 勤・青木忠文・米村 信・上田一郎・四方英四郎	1981	ELISA法によるジャガイモ葉巻ウイルスの検出 (続報).	日植病報 47(3): 419. (講要)
Kojima, M., Takizawa, T., Uyeda, I. and Shikata, E.	1982	Application of enzyme-linked immunosorbent assay to diagnosis of potato leafroll disease.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 48(4): 458-465.
小島 茂	1941	馬鈴薯ヴァイラスを主とする採種研究.	農及園 16(7): 1193-1196.
小泉成徳・浜村浩史・高浪洋一・西村希志子・今泉誠子・久保 進	1985	九州タバコ産地におけるタバコ黄斑えそ病 (PVY-T) の発生.	日植病報 51(1): 63. (講要)
小松 健・高橋修一郎・鍵和田 聡・宇垣正志・難波成任	2002	本邦産ジャガイモXウイルス3分離株のゲノムRNA全塩基配列.	日植病報 68(2): 224. (講要)
小松崎麦子・眞岡哲夫	2009	わが国で発生したジャガイモAウイルスの分子性状および生物学的性状の解析.	日植病報 75(1): 90. (講要)
小松崎麦子・眞岡哲夫	2009	RT-PCR- マイクロプレートハイブリダイゼーション (RT-PCR-MPH) によるジャガイモA ウイルスの検出.	日植病報 75(3): 280-281. (講要)
小室康雄・明日山秀文	1951	ジャガイモ黄斑性モザイク病バイラスの蚜虫による伝搬.	日植病報 15(3・4): 175-176. (講要)
小室康雄・川田 武・平野弥助・室木真澄	1963	ジャガイモのキャリコ病 (アルファルファ・モザイク・ウイルス) の発生.	日植病報 28(2): 86. (講要)
小室康雄・川田 武・平野弥助・室木真澄	1964	ジャガイモのキャリコ病の発生.	日植病報 29(4): 199-205.
小室康雄・岩木満朗	1965	ウキクサに対する数種ウイルスの寄生性.	日植病報 30(1): 8-12.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
近藤 亨・上田一郎・畑谷達児・松村 健・木村郁夫・四方英四郎	1993	ジャガイモ葉巻ウイルス外被タンパク質遺伝子を導入したトランスジェニックジャガイモのウイルス抵抗性検定.	日植病報 59(6): 767-768.(講要)
近藤 亨・上田一郎・畑谷達児・松村 健・木村郁夫・四方英四郎	1994	ジャガイモ葉巻ウイルス ORF2b の cDNA クローニングとその塩基配列.	日植病報 60(6): 793.(講要)
金野敬三	1938	萎縮病に就て.	進農(大分農試) 2(7): 10., 2(9): 16-18.
越水幸男・平井篤造・小岩竜衛	1953	ジャガイモのX及びYウイルスによる細胞内封入対.	日植病報 17(3・4): 102-108.
河野明綱・平田正一	1954	ウイルス罹病馬鈴薯塊茎内の比重について.	日植病報 19(1・2): 52.(雑録)
河野明綱	1956	バレイショ連葉モザイク健病両株における塊茎の形成位置とその生産量との関係.	宮崎大農研報 1(2): 214-217.
河野明綱	1957	ウイルス罹病バレイショの孔辺細胞における澱粉形成について.	九州病虫研報 3: 32-33.
河野明綱	1958	宮崎地方のウイルス病による馬鈴薯作の退化減収について.	日植病報 23(1): 59.(講要)
河野明綱	1959	ウイルス罹病ジャガイモのフォスホリラーゼ活性度について(続報).	日植病報 24(1): 66.(講要)
河野明綱	1959	ウイルス感染によるジャガイモの発育及び収量の減退と澱粉粒及び澱粉形成の異常.	宮崎大農研究時報 4(2): 222-230.
久保 進・桑田 茂	1982	関東北部のタバコに発生したジャガイモYウイルスえそ系によるタバコ黄斑えそ病.	日植病報 48(3): 392.(講要)
熊本農試	1933	馬鈴薯萎縮病の分布調査.	農産彙報 2.
栗林数衛	1950	馬鈴しよ萎縮病とその防除.	農業信州 33(4): 24-25.
黒沢 強	1964	空中散布によるウイルス病対策としてのアブラムシ防除について.	農薬の進歩 10(4): 47-51.
桑田 茂・大木 理・山下修一・土居養二・與良清	1976	野外の, オオバコから見出された potato virus X (PVX) ならびにツルマメから見出された Southern bean mosaic virus (SBMV) について.	日植病報 42(1): 104-105.(講要)
桑田 茂・今泉誠子・久保 進	1986	ジャガイモYウイルスえそ系統に対するモノクローナル抗体の作製.	日植病報 52(3): 554.(講要)
Kuwata, S.	2002	Production and selection of a monoclonal antibody specific to a Japanese necrotic strain of potato virus Y.	明治大農研報 129・123: 1-10.
李 淳炯・仙北俊弘・小島 誠・四方英四郎	1976	ジャガイモウイルス抗原精製についての再検討.	日植病報 42(1): 92-93.(講要)
李 淳炯・仙北俊弘・小島 誠・四方英四郎	1976	Leaf dip serology による PVX・PVY の検出.	日植病報 42(1): 93.(講要)
李 淳炯・仙北俊弘・小島 誠・四方英四郎	1979	Leaf-dip serology と multi-dish tray 法によるジャガイモウイルスの診断.	日植病報 45(2): 255-257.
前田孚憲・日高 操・日高 醇	1973	長崎県のジャガイモに発生した病害について.	日植病報 39(3): 217.(講要)
前田孚憲・日高 操・日高 醇	1975	長崎県のジャガイモに発生した病害について 第2報.	日植病報 41(3): 284.(講要)
前川和正・久野拓伸・西口真嗣	1989	ジャガイモにおけるジャガイモYウイルスえそ系 (PVY-T) の保毒検定.	関西病虫研報 31: 77.
真木 胖	1952	馬鈴薯の化学的並に物理的处理に依る休眠打破の影響とvirus病の治療に関する研究.	日植病報 17(1): 47.(講要)
牧野 華・佐藤仁敏・畑谷達児	1999	ジャガイモ休眠塊茎からのウイルス検出のための磁性シリカビーズを用いた自動核酸抽出システムの利用.	日植病報 65(3): 382-383.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
間宮幹士・大西 昇・小川哲治・茶谷正孝・眞岡哲夫・佐山 亮・大島一里	2009	ジャガイモYウイルス塊茎えそ系統弱毒株実用化のためのマイクロチューバーの利用.	日植病報 75(3): 293.(講要)
眞岡哲夫・松尾和敏・奥田 充・福本文良	2004	トマト黄化えそウイルス(TSWV)のジャガイモ品種に対する反応とRT-PCRによる検出.	日植病報 70(3): 277.(講要)
眞岡哲夫・畑谷達児	2005	マクロアレイによる12種のジャガイモウイルスの同時検出.	日植病報 71(3): 236.(講要)
眞岡哲夫・柳舘拓也・丸田幸男・畑谷達児	2006	北海道, 神奈川, 長野, 岡山, 長崎, 鹿児島, 沖縄で採集したジャガイモの12種ウイルスの検定.	日植病報 72(1): 85-86.(講要)
眞岡哲夫・中山尊登・畑谷達児	2006	北海道十勝地方におけるジャガイモモップトップウイルスの発生.	日植病報 72(4): 253.(講要)
眞岡哲夫・中山尊登・畑谷達児・津田昌吾・不破秀明・清水基滋・森 元幸	2007	土壌診断によるジャガイモモップトップウイルスの発生状況調査.	日植病報 73(3): 228.(講要)
眞岡哲夫	2007	ウイルス病被害軽減のためのマクロアレイを用いた全ジャガイモウイルス同時検出.	農業技術 62(7): 297-302.
眞岡哲夫・中山尊登・畑谷達児・津田昌吾・不破秀明・清水基滋・森 元幸	2008	主要ばれいしょ品種のジャガイモ塊茎褐色輪紋病に対する抵抗性の品種間差(2).	日植病報 74(1): 81.(講要)
眞岡哲夫・野口 健・大井光知男	2008	長野県, 山梨県, 静岡県の在来ばれいしょ品種のウイルス病調査.	日植病報 74(3): 216-217.(講要)
眞岡哲夫・佐山 亮・小川哲治・茶谷正孝・間宮幹士・大西 昇・大島一里	2009	ジャガイモYウイルス塊茎えそ系統弱毒株保有マイクロチューバーの圃場における干渉効果.	日植病報 75(3): 293.(講要)
眞岡哲夫・中山尊登・奈良部 孝	2010	プラスチックカップ土壌検診法によるジャガイモシストセンチュウとジャガイモモップトップウイルスの同時検出.	日植病報 76(3): 197.(講要)
眞岡哲夫	2010	2005~2009年に収集したジャガイモ試料からの12種ウイルスの検出.	北日本病虫研報 61: 66-70.
眞岡哲夫・堀田光生・佐山 充・奈良部 孝・植原健人	2011	ジャガイモ主要病害虫を網羅的に同時検出できるマクロアレイ.	植防 65(1):13-17.
眞岡哲夫・中山尊登・田中文夫・清水基滋・安岡眞二・三澤知央・山名利一・野口 健・森 元幸	2011	わが国におけるジャガイモモップトップウイルスの発生状況調査.	日植病報 77(3): 190.(講要)
眞岡哲夫・畑谷達児・中山尊登	2012	わが国におけるジャガイモモップトップウイルスの遺伝的多様性.	日植病報 78(1): 63.(講要)
眞岡哲夫・畑谷達児・中山尊登	2012	わが国におけるジャガイモモップトップウイルスの遺伝的多様性(第2報).	日植病報 78(3): 228-229.(講要)
眞岡哲夫	2012	わが国におけるジャガイモYウイルス(PVY)系統の発生活長と課題.	いも類振興情報 112: 11-15.
眞岡哲夫	2012	“3節 病害虫, 生理障害 [節の概説], (1) ウイルス病, ファイトプラズマ病”, III章 ジャガイモの生産と普及, 「ジャガイモ事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, pp.210, 211-214.
眞岡哲夫・保坂和良・五十嵐俊哉・森 一幸・小川哲治・大島一里	2013	ジャガイモYウイルス(PVY)強度抵抗性遺伝子を保有するジャガイモ品種もPVYに感染する.	日植病報 79(3): 218-219.(講要)
眞岡哲夫	2014	ジャガイモウイルス病研究の現状と課題.	いも類振興情報 121: 2-7.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
眞岡哲夫・Mohamad Chikh Ali・鹿野 恭・谷口麦子・高篠賢二・豊島真吾・小西和彦・大木健広・Alexander V. Karasev	2016	ジャガイモYウイルス塊茎えそ系統(PVY ^{NTN})の増加は高い塊茎伝搬率に起因する.	日植病報 82(3): 256.(講要)
松本 蕃	1964	ウイルス病媒介昆虫の防除.	農薬の進歩 10(2): 7-11.
松本 蕃	1964	ダイシストン5%粒剤の土壌施用によるアブラムシ類の駆除並びに馬鈴薯葉巻病伝搬防止に関する試験.	農薬研究 10(3): 22-26.
松本 蕃	1964	馬鈴薯ウイルス病の防除 その1.	農薬の進歩 10(4): 9-13.
松本 蕃・大島信行・今林俊一・佐藤倫造	1965	数種滲透性殺虫剤の播種時における土壌処理のばれいしょアブラムシ類および葉巻病の伝播に対する効果.	北海道農試彙報 88: 65-70.
松本 蕃・大島信行・今林俊一・佐藤倫造	1966	アブラムシ類の防除によるジャガイモ葉巻病伝播防止に関する試験.	北農 33(3): 21-32.
松本 巍	1927	ヴァイラスに依る萎縮病に就て (2).	病蟲雑 14(2): 127-134.
松本 巍	1927	ヴァイラスに依る萎縮病に就て (4).	病蟲雑 14(5): 271-277.
松本 工・難波一郎・渡辺義明	1989	組織培養によるウイルス無毒化試験 (1) バレイショ・オランダイチゴについて.	植防研報 25: 31-34.
松本 勤・陳 明雄・比留木忠治	1980	ジャガイモMウイルスの精製法の改良ならびに同ウイルスの諸性質.	日植病報 46(1): 72-73.(講要)
松本 勤・井上正保	1986	ジャガイモMウイルスに対するモノクローン抗体の作製.	日植病報 52(3): 554.(講要)
松村 健・山下直子・田村紀子・猿山晴夫・大島一里・谷田昌稔・木村郁夫・四方英四郎	1992	ジャガイモ葉巻ウイルス外被タンパク質遺伝子を導入したトランスジェニックジャガイモの作出.	日植病報 58(4): 591.(講要)
松濤美文・末次哲雄	1968	新しく発生したジャガイモAウイルスについて.	日植病報 34(3): 199-200.(講要)
松濤美文	1969	馬鈴薯ウイルス病の種類とその防除法ー最近問題になっているウイルス病の種類と粒剤施用等の防除法ー.	農及園 44(1): 269-274.
松濤美文・末次哲雄・元島俊治	1970	ジャガイモ(男爵)から分離されたCMVについて.	日植病報 36(5): 374-375.(講要)
松濤美文・末次哲雄	1970	日本におけるジャガイモAウイルスの発生.	植防研報 8: 13-20.
松濤美文・末次哲雄・元島俊治	1972	ジャガイモから発見されたCucumber mosaic virus.	植防研報 10: 17-22.
松濤美文・吉本秀子・木村 茂	1989	Cucumber mosaic virus による実生ジャガイモの紫斑および葉巻病徴について.	日植病報 55(1): 117.(講要)
松尾和敏・内川敬介・奥田 充・岩波 徹	2003	ジャガイモに発生したトマト黄化えそウイルス(TSWV)によるえそ病(新称).	日植病報 69(3): 342.(講要)
三木 隆・大島信行	1972	ジャガイモFウイルスのたんぱく質について.	日植病報 38(3): 225.(講要)
三澤知央・向原元美・竹内 徹・萩田孝志	2000	迅速免疫ろ紙検定法(RIPA法)によるジャガイモYウイルスえそ系統のジャガイモからの検出.	北日本病虫研報 51:83-86.
三澤知央・竹内 徹・向原元美・萩田孝志	1998	迅速免疫ろ紙検定法(RIPA)によるジャガイモYウイルスえそ系統のジャガイモからの検出.	日植病報 64(4): 420.(講要)
宮城農試	1932	馬鈴薯萎縮病発生調査.	宮城農試業功(昭和7年度), pp.50-51.
宮城農試	1937	馬鈴薯萎縮病に関する調査及び試験.	宮城農試業功(昭和10年度), p.67., 同(昭和11年度), pp.89-90.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
宮本セツ・宮本雄一	1966	ジャガイモ葉巻病ウイルスとモモアカアブラムシとの関係.	日植病報 32(5): 326.(講要)
宮本セツ・宮本雄一	1966	ジャガイモ葉巻病ウイルスの虫媒伝染に関する知見.	兵庫農大研報(植物防疫学) 7(2): 51-66.
宮本セツ・宮本雄一	1971	ジャガイモ葉巻病ウイルスの虫媒伝染に関する知見(2) モモアカアブラムシにおける子虫へのウイルスの移行.	神戸大農研報 9(1・2): 59-70.
宮本雄一・団 藤寿	1950	馬鈴薯バイラス病に対する超音波の影響.	日植病報 14(1・2): 42.(講要)
宮本雄一・団 藤寿	1951	馬鈴薯バイラス病に対する高周波の影響について.	日植病報 15(3・4): 127-130.
水田隼人・上水清登・増田毅陸	1967	種ジャガイモのウイルス病発病調査.	関東東山病虫年報 14: 36.
水田隼人・佐藤輝男	1972	岩手県における種ジャガイモのウイルス病発病調査.	北日本病虫研報 23: 105.
森 寛一・山田信儀	1961	組織培養によるウイルスの無毒化に関する研究 第1報 分離材料の予備消毒について.	日植病報 26(5): 237.(講要)
森 寛一・池上雍春・山田信儀	1963	Yウイルス罹病ジャガイモの組織培養による無毒化.	日植病報 28(5): 310.(講要)
森 寛一	1965	組織培養によるウイルス罹病植物の無毒化.	農及園 40(1): 21-24.
森 寛一・細川大二郎・草野友延・堀尾英弘・田中 智	1973	生長点近傍組織におけるウイルスの分布について 第7報 PVXおよびPVYの分布.	日植病報 39(3): 226-227.(講要)
森 寛一・細川大二郎・渡辺 実	1982	蛍光抗体法による植物ウイルスの増殖・分布の研究 I. 生長点近傍組織におけるウイルスの増殖・分布.	日植病報 48(4): 433-443.
野津あゆみ・山名利一	2016	北海道の一般圃場におけるジャガイモYウイルス塊茎えそ系統遺伝子型の検出.	日植病報 82(1): 74.(講要)
向 秀夫・與良 清	1951	ジャガイモのバイラス病.	農及園 26(2): 口絵.
村山大記・山田守英・松宮英視	1949	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第1報 X及びYバイラス抗原の抵抗性.	北薯連資料 No.8: 1-13.
村山大記・山田守英・松宮英視	1950	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第2報 所謂健全馬鈴薯に於けるXバイラスの検出.	北薯連資料 No.12: 1-29.
村山大記	1950	馬鈴薯の纖芽(spindling-sprout)と葉捲病との関係.	日植病報 14(1・2): 38.(講要)
村山大記・山田守英・松宮英視	1950	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第1報 X及びYバイラス抗原抵抗性.	日植病報 14(3・4): 99.(講要)
村山大記・山田守英・松宮英視	1951	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第2報 所謂健全馬鈴薯におけるXバイラスの検出.	日植病報 15(2): 55-60.
村山大記・山田守英・松宮英視	1951	健全馬鈴薯に於けるXバイラスの検出.	日植病報 15(2): 107.(講要)
村山大記	1951	馬鈴薯の纖芽(spindling-sprout)と葉捲病との関係に就いて.	北大農邦文紀要 1(1): 11-16.
村山大記・山田守英・松宮英視	1951	所謂健全馬鈴薯におけるXバイラスの検出.	農及園 26(2): 269.
村山大記	1951	Xバイラス罹病馬鈴薯の簡易診断法.	農及園 26(7): 775-778.
村山大記・山田守英・松宮英視	1951	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第1報 X及びYバイラス抗原の抵抗性.	京大植物病害研究 4: 71-80.
村山大記・山田守英・松宮英視	1951	“馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第1報 X及びYバイラス抗原の抵抗性”, 「逸見武雄先生還暦記念論文集」(赤井重恭編).	植物病害研究會, 京都, pp.71-80.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
村山大記・山田守英・松宮英視	1952	連葉モザイク病馬鈴薯内に於けるXバイラスの分布及濃度.	日植病報 16(1): 23-24.(講要)
村山大記・山田守英・佐藤正昭	1952	バイラス病並にバイラス病類似病害罹病植物に於ける馬鈴薯X及Yバイラスの検出.	日植病報 16(1): 24.(講要)
村山大記・山田守英・松宮英視	1952	馬鈴薯のXバイラスに於ける中和試験.	日植病報 16(1): 24.(講要)
村山大記・山田守英・松宮英視	1952	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 (第3報) 連葉モザイク病罹病馬鈴薯に於けるXバイラスの分布及濃度について.	日植病報 16(2): 73.(講要)
村山大記・山田守英・松宮英視	1952	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 (第4報) バイラス病並にバイラス病類似病害罹病植物に於ける馬鈴薯X及Yバイラスの検出.	日植病報 16(2): 73-74.(講要)
村山大記・山田守英・松宮英視	1952	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第5報 馬鈴薯のXバイラスに於ける中和試験.	日植病報 16(3・4): 174.(講要)
村山大記・山田守英	1952	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 (第5報) 馬鈴薯Xバイラスに於ける中和試験.	日植病報 17(1): 46-47.(講要)
村山大記・山田守英・佐藤正昭	1952	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第3報 馬鈴薯X及びYバイラスと他植物のモザイク病との關係.	北生連資料 No.3: 1-28.
村山大記	1952	馬鈴薯の大敵 - バイラス病と輪腐病について.	農業北海道 4(10): 16-21.
村山大記・山田守英・松宮英視	1953	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第3報 連葉モザイク病馬鈴薯におけるXバイラスの分布及濃度.	北大農邦文紀要 1(3): 227-239.
村山大記・山田守英・佐藤正昭	1953	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第4報 バイラス病並びにバイラス病類似病害罹病植物に於ける馬鈴薯X及びYバイラスの検出.	北大農邦文紀要 1(4): 427-442.
村山大記	1953	馬鈴薯Xバイラスの中和試験並にX及Yバイラス抗原の性質について.	日植病報 18(1・2): 62-63.(講要)
村山大記	1953	馬鈴薯Xバイラスの中和試験並にX及Yバイラス抗原の性質について.	北日本病虫年報 4: 95-96.(講要)
村山大記	1953	馬鈴薯Xウイルスの中和試験.	ウイルス 3(3): 235.
村山大記	1954	馬鈴薯バイラス病診断に於ける3種の血清學的方法の比較.	日植病報 18(3・4): 148.(講要)
村山大記	1954	不活Xバイラスに依る中和抗體の產生.	日植病報 19(1・2): 72.(講要)
村山大記	1955	馬鈴薯の所謂微斑モザイク病の血清學的研究.	日植病報 19(3・4): 177.(講要)
村山大記	1955	“馬鈴薯モザイク病バイラスの抗原性について”, 昭和30年度シンポジウム III ジャガイモのモザイク病.	日植病報 20(2・3): 136-137.(講要)
村山大記	1955	“馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第5報 不活化Xバイラス抗血清に於ける中和抗體の產生”, 「栃内吉彦・福士貞吉両教授還暦記念論文集」.	栃内・福士両教授還暦記念論文集刊行会, 札幌, pp.303-308.
村山大記・山田守英・寒河江和子・岡田守夫	1955	馬鈴薯バイラス病の免疫學的研究 第6報 X及びYバイラスの補體結合反應について.	北大農邦文紀要 2(3): 62-76.
村山大記・由崎俊造	1956	バイラスの干涉について.	日植病報 21(1): 35.(講要)
村山大記・谷津 繁	1956	Xバイラスの移動.	日植病報 21(1): 35-36.(講要)
村山大記・伊藤時哉・犬養勝一	1956	馬鈴薯Xバイラスの免疫學的研究 第1報 抗血清の電気泳動について.	日植病報 21(1): 36.(講要)
村山大記・伊藤時哉・犬養勝一	1956	馬鈴薯Xバイラス抗血清に於ける各蛋白の動き.	日植病報 21(2・3): 124-125.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
村山大記・山田守英・岡田守夫	1956	馬鈴薯バイラス病の免疫学的研究 第7報 葉巻病バイラスの抗原性について.	北大農邦文紀要 2(4): 82-90.
村山大記・由崎俊造	1957	ウイルスの干渉について.	日植病報 22(1): 21.(講要)
村山大記・谷津 繁	1957	漣葉モザイク病, Xモザイク病及び潜在モザイク病罹病馬鈴薯に於けるXウイルスの濃度.	日植病報 22(1): 59.(講要)
村山大記	1957	各種血清のXウイルスに対する中和作用について.	日植病報 22(1): 61.(講要)
村山大記・谷津 繁	1958	馬鈴薯GウイルスとXウイルスとの関係.	日植病報 23(1): 55.(講要)
村山大記・大島信行・佐藤 亮・西村正芳・秋元喜弘	1959	馬鈴薯ヨウラクに保有されるYウイルスについて.	日植病報 24(1): 62.(講要)
村山大記・大島信行・佐藤 亮・西村正芳・秋元喜弘	1959	馬鈴薯「ヨウラク」のYウイルス保毒について.	植防 13(6): 249-254.
村山大記・伊藤時哉・犬養勝一	1959	馬鈴薯ウイルス病の免疫学的研究 第8報 血清蛋白に関する研究.	北大農邦文紀要 3(2): 128-135.
村山大記・横山竜夫	1961	Zone electrophoresis による植物ウイルスの精製.	日植病報 26(2): 66.(講要)
村山大記・横山竜夫	1961	馬鈴薯XおよびYウイルス抗原による免疫.	日植病報 26(5): 232-233.(講要)
村山大記・横山竜夫	1962	植物ウイルスの増殖に関する血清学的研究 (第1報) BSMVおよびPVXの増殖における抗原性と感染性の変化.	日植病報 27(2): 79.(講要)
Murayama, D. and Yoshizaki, T.	1962	On the interference of inactivated virus. II Potato virus X.	Jour. Fac. Agr. Hokkaido Univ. 52(2): 123-131.
村山大記・小島 誠	1963	ジャガイモ葉巻病ウイルスの機械的接種.	日植病報 28(2): 85-86.(講要)
村山大記・横山竜夫	1963	蛍光標識抗体による植物ウイルスの凝集反応について.	日植病報 28(5): 299.(講要)
村山大記	1963	ジャガイモウイルス病と葉巻病の防除.	農薬研究 10(2): 8-14.
村山大記・小島 誠	1964	ジャガイモ葉巻病ウイルスの伝搬.	日植病報 29(2): 78.(講要)
村山大記・小島 誠	1964	ジャガイモ葉巻病ウイルスの精製(予報).	日植病報 29(5): 279.(講要)
村山大記・小島 誠	1964	ジャガイモ葉巻病ウイルスの純化の試み.	ウイルス 16(3): 104.(講要)
村山大記	1964	ジャガイモウイルス病について.	農薬の進歩 10(4): 1-8.
村山大記	1964	ジャガイモ葉巻病とその対策について.	今月の農薬 8(8): 74-77.
村山大記・小島 誠	1965	3種のアブラムシによるジャガイモ葉巻病ウイルスの伝搬.	日植病報 30(1): 20-23.
Murayama, D. and Kojima M.	1965	Studies on the properties of potato leaf roll virus by the aphid-injection method.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 30(4): 209-215.
村山大記・山田堅一郎・横山竜夫	1965	馬鈴薯Xウイルスのトマトにおける増殖について.	日植病報 30(5): 286.(講要)
村山大記・山田堅一郎・横山竜夫	1965	馬鈴薯Xウイルス純化のための清澄化の条件.	日植病報 30(5): 286-287.(講要)
村山大記・横山竜夫	1965	植物ウイルスのラテックス凝集反応について.	日植病報 30(5): 287.(講要)
村山大記	1965	ジャガイモのウイルス病.	北海道の農薬 2(1): 1-29.
村山大記・横山竜夫	1966	蛍光標識抗体によるスライド凝集反応について.	日植病報 32(3): 117-122.
村山大記・小島 誠	1966	ジャガイモ葉巻病ウイルス研究最近の動向.	農及園 41(1): 18-22.
村山大記・松本 蕃・大島信行	1966	PSP剤ならびにその類似薬剤によるジャガイモ葉巻病の防除.	北大農邦文紀要 6(1): 73-80.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
村山大記・小島 誠・菅原政芳	1967	ジャガイモ葉巻病ウイルスに感染した <i>Physalis floridana</i> の汁液の清澄化と分画化について.	日植病報 33(2): 98.(講要)
Murayama, D. and Kojima, M.	1973	Studies on potato leaf-roll virus in Japan.	Rep. Tottori Mycol. Inst. (Japan) 10: 731-748.
村山大記	1977	“ウイルス病”, 「馬鈴薯」(田口啓作・村山大記 監修).	グリーンダイセン普及会, 札幌, pp.169-225.
永井政次・工藤和一・佐藤清吉	1950	岩手縣に於ける馬鈴薯ヴアラス病の調査.	東北病害虫研究会講要 1(第三回): 54-55.
Nagai, M., Kudo, K., and Sato, S.	1950	On the virus diseases of the potato plant in Iwate Prefecture.	岩手大盛岡農専学術報告 26: 10-17.
長崎農試	1923	馬鈴薯萎縮病と品種との関係試験.	病蟲雜 10(10): 504.
長崎農試	1923	馬鈴薯萎縮病と種子大小との関係試験.	病蟲雜 10(10): 504.
長崎県総合農林センター環境部病害虫科	1964	暖地種ジャガイモのvirus病防除に関する研究.	長崎総農セ病害虫科83p.(タイプ印刷)
永田隼人. 佐藤輝男	1972	岩手県における種ジャガイモのウイルス病発病調査.	北日本病虫研報 23: 105.
永田利美	1948	切断具による馬鈴薯バイラスの感染.	農及園 23(8): 473-474.
中林仁美・鍵和田聡・山次康幸・魯 曉云・大島研郎・宮田伸一・宇垣正志・南波成任	2000	ジャガイモXウイルス-o(普通)系統のゲノムRNAの全塩基配列.	日植病報 66(2): 151.(講要)
仲川晃生・中村吉秀・迎田幸博・菅 康弘・小川哲治・松尾和敏・坂口莊一・織田 拓・小嶺正敬・福田治男・牟田 勇	1997	ジャガイモ塊茎異常症の発生について.	九州病虫研報 43: 22-28.
仲川晃生	1997	長崎県で発生しているジャガイモ塊茎異常症について.	今月の農業 41(7): 96-102.
仲川晃生・菅康弘・迎田幸博・大島一里・平石千賀子・山並昭朗・松尾和敏	1998	ジャガイモ塊茎えそ病発病塊茎率の品種差異.	九州病虫研報 44: 116.(講要)
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博・大島一里	1999	ジャガイモ生育ステージごとのアブラムシの加害と塊茎えそ病発生との関係.	九州病虫研報 45: 24-26.
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博・大島一里・山並昭朗・小川哲治・松尾和敏	2000	ジャガイモ主要栽培品種における塊茎えそ病発病程度の差.	九州病虫研報 46: 31-36.
中村 裕	1993	ジャガイモYウイルスえそ系統の寄主特異性.	日植病報 59(1): 47.(講要)
中野 仁・加藤法子・寺岡 徹・細川大二郎・渡辺 実	1992	ジャガイモXウイルス感染タバコプロトプラストにおけるウイルスタンパク質の合成.	日植病報 58(1): 154.(講要)
中野 剛・徐 正君・上田健治・松本 勤・井上正保	1997	ジャガイモSウイルスk-1株(PVS k-1)のゲノムの全塩基配列.	日植病報 63(6): 487.(講要)
中曽根 渡	1999	大阪府下のトマトに発生したジャガイモYウイルス黄斑えそ系(PVY-T)について.	大阪農技セ研報 35. 45 -48.
中曽根 渡	2005	トマトから分離されたジャガイモYウイルスえそ系.	農及園 80(2): 278-281.
中田覚五郎	1934	モザイク病の命名とその記載に就てのジョンソン氏の提案.	病蟲雜 21(1): 11-13.
中屋隆明・大島一里・畑谷達児・Inoue, A.K.・林 良雄・四方英四郎	1992	ジャガイモYウイルス外被タンパク質C末端の合成ペプチドに対するポリクローナル抗体の作製.	日植病報 58(1): 144-145.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
中山尊登・畑谷達児・眞岡哲夫	2006	おとり植物を用いた土壌試料からのジャガイモモップトップウイルスの検出.	日植病報 72(4): 253-254.(講要)
中山尊登・眞岡哲夫・畑谷達児・津田昌吾・不破秀明・清水基滋	2007	主要ばれいしょ品種のジャガイモ塊茎褐色輪紋病に対する抵抗性品種間差.	日植病報 73(3): 228-229.(講要)
中山尊登・石川枝津子・浅井元朗・眞岡哲夫	2008	ジャガイモ粉状そうか病およびジャガイモモップトップウイルスの数種の植物根部からの検出.	日植病報 74(1): 81-82.(講要)
中山尊登・眞岡哲夫	2008	おとり植物を利用したジャガイモモップトップウイルスの土壌診断.	農及園 83(4): 475-480.
中山尊登・眞岡哲夫	2009	ジャガイモ粉状そうか病菌およびジャガイモモップトップウイルスの数種の植物根部からの検出(第2報).	日植病報 75(3): 223.(講要)
中山尊登・眞岡哲夫	2010	矮性トマト品種を用いた土壌からのジャガイモモップトップウイルスの検出.	日植病報 76(1): 79.(講要)
中山尊登・眞岡哲夫	2012	ジャガイモ塊茎褐色輪紋病の室内検定法の検討.	日植病報 78(3): 229.(講要)
中山尊登・眞岡哲夫・津田昌吾・清水基滋・不破秀明・畑谷達児・森 元幸	2010	主要ジャガイモ品種におけるジャガイモ塊茎褐色輪紋病に対する抵抗性の品種間差異と粉状そうか病抵抗性との関係.	北日本病虫研報 61: 52-56.
中山尊登	2011	ジャガイモ塊茎褐色輪紋病に対する抵抗性の品種間差異と粉状そうか病抵抗性との関係.	植防 65(10): 583-586.
中山尊登	2011	北海道におけるジャガイモ塊茎褐色輪紋病の発生実態と当面の防除対策.	北農 78(4): 429-434.
中山尊登・眞岡哲夫	2012	ジャガイモ塊茎褐色輪紋病の室内検定法の検討.	日植病報 78(3): 229.(講要)
中山尊登	2016	おとり植物を用いたジャガイモ塊茎褐色輪紋病の発病リスク評価.	日植病報 82(1): 74.(講要)
成田武四	1965	馬鈴薯のウイルス病.	農業北海道 17(5): 61-65.
夏井 勉・斉藤範彦・大谷朋男・及川 厳・帯田則義・新国 忠・馬場忠二・相馬仲俊・佐藤宏昭・伊藤善太郎	1988	ジャガイモの主要品種におけるジャガイモYウイルスネオ系統の病徴(1) 関東・北海道における調査.	植防研報 24: 27-31.
根本正康・玉田哲男	1966	ジャガイモ葉巻病の病徴について.	日植病報 32(5): 310.(講要)
根本正康・後藤忠則	1976	ジャガイモ葉巻病に関するトマトの感染.	日植病報 42(3): 381.(講要)
根本正康・後藤忠則	1977	ジャガイモ葉巻病の研究栽培トマトからのウイルスの分離.	日植病報 43(3): 364..(講要)
根本正康	1987	東北地域におけるジャガイモ葉巻病の当代感染について.	日植病報 53(1): 91.(講要)
西 泰道	1962	アブラムシ吐出物のジャガイモXウイルスに対する作用について.	九州病虫研報 8: 56-57.
西村政芳・木村春男	1960	Yウイルス接種検定用指標植物としての健全な馬鈴薯農林1号の利用価値について.	日植病報 25(1): 63-64.(講要)
西村政芳・江住和雄・田中 智	1965	“Ⅱ 個別検定における馬鈴しょ葉巻病について”, 馬鈴しょウイルス病に関する調査報告.	馬鈴薯原原種農場研報 2: 6-15.
西村政芳・田中 智・江口俊一・池上辰雄・宮沢輝俊	1965	“Ⅳ 馬鈴しょ葉巻病塊茎の熱療法”, 馬鈴しょウイルス病に関する調査報告.	馬鈴薯原原種農場研報 2: 26-32.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
西村政芳・和賀三郎	1965	“V 馬鈴しょYウイルスのアブラムシ感染による男爵薯の当代及び次代の病徴 ー特に連鎖型とえそ型の比較についてー”, 馬鈴しょウイルス病に関する調査報告.	馬鈴薯原原種農場研報 2: 32-39.
野田千代一・眞岡哲夫	1997	フサナリツルナスビに発生するジャガイモYウイルス(PVY).	日植病報 63(6): 483.(講要)
野津あゆみ	2014	北海道におけるばれいしょのウイルス病とその対策.	いも類振興情報 121: 15-19.
野津あゆみ・佐々木純・堀田治邦	2016	ジャガイモYウイルスの普通系統に対するモノクローナル抗体作製とELISAへの適用.	北海道立農試集報 100: 23-31.
小渕正次・寺岡 徹・細川大二郎・渡辺 実	1990	ジャガイモXウイルスに対するジャガイモ品種の抵抗性 (1) ジャガイモプロトプラストのウイルス抵抗性.	日植病報 56(3): 424.(講要)
Obuchi, M., Teraoka, T., Hosokawa, D. and Watanabe, M.	1992	Expression of resistance to potato virus X in potato protoplasts isolated from immune varieties.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 58(2): 315-318.
小渕正次・安楽温子・寺岡 徹・細川大二郎・渡辺 実	1993	免疫性ジャガイモ品種のプロトプラストにおけるジャガイモXウイルスの増殖.	日植病報 59(3): 338.(講要)
Ochi, M., Kashiwazaki, S., Hiratsuka, K., Namba, S. and Tsuchizaki, T.	1992	Nucleotide sequence of the 3'-terminal region of potato virus T RNA.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 58(3): 416-425.
越智資泰・椎崎 哲・平塚和之・難波成任・土崎常男	1992	遺伝子解析による capillovirus (potato virus T) と closterovirus の比較.	日植病報 58(4): 634.(講要)
小川哲治・花田薫・大貫正俊・大島一里・畑谷達児	1997	RT-PCR法によるジャガイモYウイルスの検出 .	九州病虫研報 43: 131.(講要)
小川哲治・内川敬介・松尾和敏・仲川晃生・大島一里	1998	長崎県における4種のジャガイモウイルスの発生実体について.	日植病報 64(6): 588.(講要)
小川哲治・内川敬介・松尾和敏・仲川晃生・大島一里	1999	長崎県における4種のジャガイモウイルスの秋作での発生実態.	九州農業研究 61: 70.
小川哲治・内川敬介・仲川晃生・平田憲二・小嶺正敬	1999	長崎県における5種のジャガイモウイルスの春作での発生実態 .	九州病虫研報 45: 138.(講要)
小川哲治・佐山 充・中村茂雄・大島一里	2004	ジャガイモYウイルス塊茎えそ変異株のタバコでの干渉作用 .	九州病虫研報 50: 99.(講要)
小川哲治・佐山 充・大島一理	2004	長崎県の塊茎えそ症状を示すジャガイモから採集したジャガイモYウイルス分離株のゲノム構造.	日植病報 70(1): 32-33.(講要)
小川哲治・奥園絵里・瀬戸口裕美・富村健太・佐山 充・仲川晃生・大島一里	2004	日本におけるジャガイモYウイルス塊茎えそ分離株の遺伝的集団.	日植病報 70(3): 268. (講要)
小川哲治・佐山 亮・中村茂雄・大島一里	2005	ジャガイモYウイルス塊茎えそ分離株から作出した弱毒変異株ゲノムの塩基配列.	日植病報 71(3): 240. (講要)
小川哲治・佐山 充・茶谷正孝・大島一里	2006	ジャガイモYウイルス塊茎えそ分離株から得られた弱毒性のジャガイモでの干渉効果.	日植病報 72(4): 302-303.(講要)
小川哲治・富高保弘・仲川晃生・大島一里	2007	本邦におけるジャガイモYウイルス塊茎えそ分離株集団の遺伝構造.	日植病報 73(3): 247.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
小川哲治・富高保弘・平田憲二・仲川晃生・大島一里	2007	長野県の塊茎えそ症状を示すジャガイモから分離されたジャガイモYウイルスの塩基配列.	九州病虫研報 53: 131.(講要)
小川哲治・仲川晃生・佐山 充・大島一里	2008	ジャガイモ塊茎えそ病の発生生態と防除.	植防 62(9): 481-484.
小川哲治・富高保弘・Huy,D.N.・茶谷正孝・眞岡哲夫・狭山 亮・間宮幹士・大西 昇・中村茂雄・大島一里	2009	ジャガイモYウイルス塊茎えそ系統分離株から得られた複数のタバコおよびジャガイモ弱毒株の分子性状.	日植病報 75(3): 292-293.(講要)
小川哲治・富高保弘・Nguyen, H.D.・佐山 亮・大島一里	2010	ジャガイモYウイルス塊茎えそ系統分離株から亜硝酸処理により得られたタバコ弱毒株の分子性状.	日植病報 76(3): 248.(講要)
小川哲治・H.D.Nguyen	2011	ジャガイモYウイルス塊茎えそ系統分離株から低温処理により得られたタバコ弱毒株の性状.	日植病報 77(3): 244-245.(講要)
小川哲治・仲川晃生・大島一里	2011	鹿児島県奄美地方の塊茎えそ病を示すジャガイモから分離したジャガイモY ウイルスのゲノム構造.	九州病虫研報 57: 19-25.
小川哲治・仲川晃生・佐古宣道・畑谷達児・大島一里	2012	本邦産ジャガイモYウイルス普通系統分離株のゲノム構造.	日植病報 78(3): 255.(講要)
小川哲治・仲川晃生・松浦昌平・森 一幸・大島一里	2012	広島県のジャガイモから採集したジャガイモY ウイルスのゲノム構造とジャガイモでの病徴.	九州病虫研報 58: 121-122.(講要)
小川哲治・眞岡哲夫・大島一里	2013	本邦のジャガイモYウイルス系統について.	植防 67(11): 623-630.
小川哲治	2014	長崎県におけるジャガイモウイルス病の発生状況と防除対策.	いも類振興情報 121: 20-24.
小川哲治・茶谷正孝・眞岡哲夫・佐山 充・間宮幹士・大西 昇・中村茂雄・大島一里	2014	ジャガイモY ウイルス塊茎えそ系統分離株から組織培養法により作出した弱毒株の宿主反応と干渉効果.	九州病虫研報 60: 104-105.(講要)
小川哲治	2014	本邦のジャガイモYウイルスの集団遺伝構造と弱毒ウイルスに関する研究.	長崎農技セ特別研報 5: 1-69.
大平和幸・難波成任・久住高章・土崎常男	1994	Citrus tatter leaf virusおよびpotato virus Tの全塩基配列とその分類学的考察.	日植病報 60(3): 377.(講要)
及川 巖・夏井 勉・大谷朋男・塚本貴敬・馬場忠二・大門輝男	1990	ジャガイモにおける軽微なウイルス様症状とこれに関与するウイルスについて.	植防研報 26: 73-77.
大川篤史・西川尚志・眞岡哲夫・奥田誠一・夏秋知英	2008	ジャガイモSウイルス日本分離株の全塩基配列決定とCarlavirus 属ウイルスRNAゲノム5'末端の共通配列.	日植病報 74(3): 234-235.(講要)
岡山農試	1916	馬鈴薯萎縮病豫防試験.	病蟲雑 3(11): 902-903.
大木健広・麻の賢治・中山尊登・眞岡哲夫	2015	PVY抵抗性ジャガイモ品種「コナフブキ」でのえそ斑形成と全身移行に対する温度の影響.	日植病報 81(1): 91-92.(講要)
奥山 哲・与良 清・明日山秀文	1958	ジャガイモXウイルス系統の形態, 不活化試験および感染植物体における濃度について.	日植病報 23(1): 34-35.(講要)
奥山 哲・与良 清・明日山秀文	1958	ジャガイモXウイルス系統の化学的組成について.	日植病報 23(1): 35.(講要)
奥蘭江理・大島一里・仲川晃生・小川哲治・松尾和敏	1999	九州で分離されたジャガイモYウイルス塊茎えそ系統の遺伝子解析.	九州病虫研報 45: 138-139.(講要)
Omura, T. and Wakimoto, S.	1978	Elimination of viruses from plant tissue cultures.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 44(3): 277-281.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
織田眞吾・富尾孝雄・ 廣谷 弘	1984	ジャガイモ葉巻病及びジャガイモYウイルスによるモザイク病が収量とでん粉価に及ぼす影響.	九州病虫研報 30: 15-17.
大島一里・佐藤 敦・上 田 一郎・四方英四郎	1987	ジャガイモ葉巻ウイルスに対するモノクローナル抗体の作成.	日植病報 53(1): 75.(講要)
大島一里・高橋 亘・上 田 一郎・四方英四郎	1987	ジャガイモ葉巻ウイルスーモノクローナル抗体によるルテオウイルスのELISA.	日植病報 53(3): 428.(講要)
大島一里・工藤博司・ 山田直貴・上田 一郎・ 四方英四郎・萩田孝志	1988	ジャガイモYウイルスの普通系と壊疽系のモノクローナル抗体について.	日植病報 54(1): 114.(講要)
Ohshima, K., Uyeda, I. and Shikata, E.	1988	Production and characteristics of monoclonal antibodies to potato leafroll virus.	Jour. Fac. Agr. Hokkaidou Univ. 63(4): 373-383.
大島一里・井上アリセ 和子・石川 陽・四方英 四郎	1990	ジャガイモYウイルスー普通系統に対する特異的なモノクローナル抗体の作製.	日植病報 56(1): 140.(講要)
大島一里・井上アリセ 和子・四方英四郎・萩 田孝志	1990	ジャガイモYウイルスー普通系統 (PVY-O) およびえそ系統 (PVY-T) に対する特異的なモノクローナル抗体の作製とその診断への利用.	日植病報 56(3): 424-425.(講要)
大島一里・Alice Kazuko INOUE・石川 陽・四方英四郎・萩田 孝志	1990	ジャガイモYウイルス普通系統およびえそ系統に特異的なモノクローナル抗体の作製とその診断への利用.	日植病報 56(4): 508-514.
大島一里・Inoue, A.K・ 畑谷達児・四方英四郎	1991	北海道で分離したジャガイモYウイルス3系統の外被タンパク質遺伝子の比較.	日植病報 57(1): 121-122.(講要)
大島一里・中屋隆明・ 松村 健・四方英四郎	1991	ジャガイモ葉巻ウイルス外被蛋白遺伝子の塩基配列.	日植病報 57(3): 454.(講要)
大島一里・畑谷達児・ 佐野輝男・Alice Kazuko INOUE・四方 英四郎	1991	ジャガイモYウイルス普通系統およびえそ系統の外被タンパク質のアミノ酸配列と生物学的,血清学的比較.	日植病報 57(5): 615-622.
大島一里・四方英四郎	1992	ジャガイモYウイルス細胞質封入体遺伝子の塩基配列.	日植病報 58(1): 145.(講要)
大島一里・松浦晃洋・ 中屋隆明・四方英四 郎・木村郁夫・菊池浩 吉.	1992	ジャガイモYウイルスの外被タンパク質に対するモノクローナル抗体遺伝子のクローニングと全塩基配列.	日植病報 58(4): 637.(講要)
大島一里・Inoue, A. K.・四方英四郎	1993	ジャガイモYウイルス細胞内封入体遺伝子の腸菌での発現.	日植病報 59(1): 54.(講要)
Ohshima, K., Nakaya, T., Matsumura, T., Shikata, E. and Kimura, I.	1993	Nucleotide sequences of coat protein and 17K protein genes for a potato leafroll virus Japanese isolate.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 59(2): 204-208.
Ohshima, K., Matsuura, A., Nakaya, T., Shikata, E., Kikuchi, A. and Kimura, I.	1994	Molecular cloning and nucleotide sequences of heavy and light chain genes of a monoclonal antibody to potato virus Y coat protein.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 60(5): 600-607.
大島一里・迫 和也・仲 川晃生・松尾和敏・小 川哲治・四方英四郎・ 佐古宣道	1997	塊茎えそ症のジャガイモから分離されたジャガイモYウイルス外被タンパク質遺伝子の塩基配列.	日植病報 63(3): 264-265.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
大島一里・平石千賀子・仲川晃生・松尾和敏・小川哲治・四方英四郎・佐古宣道	1998	ジャガイモYウイルス塊茎えそ系統の分子分類学的解析 (1) 5'非翻訳領域、P1遺伝子、外被タンパク質遺伝子および3'非翻訳領域.	日植病報 64(4): 399.(講要)
大島信行	1950	馬鈴薯Yバイラスの寄主範囲に就いて.	日植病報 14(1・2): 37.(講要)
大島信行	1951	馬鈴薯Yバイラスの寄主範囲に就いて.	日植病報 15(2): 81.(講要)
大島信行・若林 勝	1951	植物汁液中の馬鈴薯Xバイラス及びYバイラスに対するX線照射の影響について.	日植病報 15(2): 87.(講要)
大島信行	1951	馬鈴薯Yバイラスの寄主範囲.	日植病報 15(3・4): 121-126.
大島信行・菊地 實	1952	馬鈴薯葉捲病バイラスとモモアカアブラムシの生長、単為生殖及壽命との関係 — 豫報 —.	日植病報 16(3・4): 175.(講要)
大島信行	1954	馬鈴薯のバイラス病.	北農 21(6): 210-220.
大島信行	1955	馬鈴薯Xバイラスの系統について 第1報 寄主の反応.	日植病報 19(3・4): 177.
大島信行	1955	バイラスの変異, 馬鈴薯Xバイラスの変異について. (昭和30年度シンポジウム III ジャガイモのモザイク病)	日植病報 20(2・3): 134-135. (講要)
大島信行・高橋萬右衛門	1955	馬鈴薯萎縮病罹病塊茎に對するX線照射の影響.	北大附属農場特別報告 11:82-85.
大島信行	1956	馬鈴薯品種に對する馬鈴薯Xバイラスの反応(予報).	日植病報 21(1): 35.(講要)
大島信行・川人八十八	1956	馬鈴薯黄斑モザイク病について.	日植病報 21(1): 35.(講要)
大島信行	1957	植物体におけるXウイルス系統の濃度について.	日植病報 22(1): 21.(講要)
大島信行	1957	馬鈴薯Xウイルスの変異について 第1報 寄主の反応.	北海道農試彙報 73: 100-118.
大島信行・後藤忠則・佐藤倫造・池上辰雄・鷹野春雄・鈴木誠三	1958	馬鈴薯Xウイルスと収量との関係について.	日植病報 23(1): 55.(講要)
大島信行・佐藤倫造	1959	馬鈴薯Xウイルスの系統と収量との関係.	日植病報 24(1): 62.(講要)
大島信行	1959	馬鈴薯Xウイルスに関する研究.	北海道農試報告 53: 1-159.
大島信行	1960	“ジャガイモのウイルス病”, 「植物ウイルス病 — 実験法と種類 —」(日高 醇ら編).	朝倉書店, 東京, pp.211-215.
大島信行・佐藤倫造・根本正康・後藤忠則	1962	ジャガイモ葉捲病の発生と施肥の関係.	日植病報 27(5): 267.(講要)
大島信行・佐藤倫造	1963	ジャガイモ葉捲病の系統について.	日植病報 28(5): 307.(講要)
大島信行	1963	ばれいしょの新病害“条斑病”について.	北海道農試彙報 82: 72-80.
大島信行	1964	ジャガイモウイルスの形態について.	日植病報 29(2): 78-79.(講要)
大島信行・佐藤倫造	1964	ジャガイモ葉捲病の蚜虫伝染所要時間.	日植病報 29(5): 279.(講要)
大島信行・玉田哲男	1964	アブラムシのジャガイモ葉捲病伝染能力.	日植病報 29(5): 279.(講要)
大島信行	1964	最近問題のジャガイモはまき病とその防除.	農薬 11(2): 55-58.
大島信行	1964	馬鈴薯ウイルス病の防除.	農薬の進歩 10(4): 14-17.
大島信行	1965	アブラムシによるウイルスの伝搬 — ジャガイモ葉捲病の伝搬について.	日植病報31(記念号-2): 391-393.
大島信行・佐藤倫造	1965	ジャガイモウイルスX, Y, FおよびSの形態について.	北海道農試彙報 86: 57-63.
大島信行	1965	ジャガイモ葉捲病とアブラムシの関係.	北海道の農薬 2(1): 50-70.
大島信行・玉田哲男	1966	モモアカアブラムシのジャガイモ葉捲病ウイルス伝染力.	日植病報 32(4): 149-202.
大島信行	1966	ジャガイモ葉捲病ウイルスのアブラムシ体内における増殖と伝染機構.	ウイルス 16(4-5): 207.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
大島信行	1967	“第5章 ジャガイモのウイルス病”, 「日本作物ウイルス病総覧」(明日山秀文・飯田俊武 編).	農業技術協会, 東京, pp.90-112.
大島信行	1968	ジャガイモXウイルスに関する研究.	日植病報 34(4): 221-223. (学会賞受賞講要)
樗木守夫	1928	馬鈴薯萎縮病と之が被害軽減に關し實際栽培上の應用範圍に就て(一).	病蟲雜 15(6): 351-356.
樗木守夫	1928	馬鈴薯萎縮病と之が被害軽減に關し實際栽培上の應用範圍に就て(二).	病蟲雜 15(7): 411-415.
大槻儀昭・建部 到	1972	タバコ・プロトプラストのPVXによる感染.	日植病報 38(3): 220. (講要)
Park, S. H., Kwon, S. J., Cho, S. Y., Park, M. R. and Kim, K.-H.	2006	Characterization of host proteins that bind to the 5' region of <i>potato virus X</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 72(4): 290-291. (abs.)
關 曉楓・寺岡 徹・細川 大二郎・渡辺 実	1992	ジャガイモXウイルス RNAの複製 1. ウイルス感染プロトプラストからの細胞分画における RNAの合成.	日植病報 58(4): 629-630. (講要)
關 曉楓・寺岡 徹・細川 大二郎・渡辺 実	1993	ジャガイモXウイルスRNAの複製 2. RNA複製酵素の可溶性.	日植病報 59(3): 336. (講要)
關 曉楓・寺岡 徹・細川 大二郎	1995	ジャガイモXウイルスの複製複合体におけるウイルスゲノムRNAとサブゲノムRNAの合成.	日植病報 61(6): 601-602. (講要)
關 曉楓・徐 雷新・細川 大二郎	1996	ジャガイモXウイルスのゲノムRNA複製複合体とサブゲノムRNA複製複合体の膜への結合の相異について.	日植病報 62(3): 329. (講要)
Que, Xiao-feng, Takamatsu, N. and Hosokawa, D.	1998	<i>In vitro</i> viral RNA synthesis in a crude membrane fraction from tobacco protoplasts inoculated with potato virus X.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 64(2): 85-90.
梁 宝成・松本忠士・小堀 崇・小坂能尚・東條元昭・大木 理	2004	タバコにおいてジャガイモYウイルスの全身移行効率はキュウリモザイクウイルスと混合感染させると高められる(2).	日植病報 70(1): 78. (講要)
埼玉農試	1926	萎縮病傳染關係試験.	埼玉農試業功(大正14年度), p.78.
埼玉農試	1926	品種と萎縮病發生との關係試験(馬鈴薯).	埼玉農試業功(大正14年度), p.78.
埼玉農試	1926	種薯の熟度と萎縮病被害との關係調査.	埼玉農試業功(大正14年度), p.79.
埼玉農試	1927	馬鈴薯萎縮病に關する試験.	埼玉農試業功(大正15年度), p.84.
埼玉農試	1928	馬鈴薯萎縮病に關する調査.	埼玉農試業功(昭和2年度), pp.88-91.
埼玉農試	1930	馬鈴薯萎縮病に關する調査.	埼玉農試業功(昭和4年度), pp.93-95.
斉藤泳子・小渕正次・細川大二郎	1994	ジャガイモ培養細胞プロトプラストにおけるジャガイモXウイルス抵抗性.	日植病報 60(6): 755. (講要)
坂口莊一・井上 平	1972	ジャガイモの生育時期と葉巻病感受性.	日植病報 38(3): 217-218. (講要)
坂口莊一	1974	春秋二期作ジャガイモの生育時期とYモザイク病感染.	日植病報 40(3): 204. (講要)
坂口莊一・井上 平	1975	Potato virus Yによるジャガイモ塊茎の病徴.	九州病虫研報 21: 88-90.
坂口莊一	1976	春秋二期作ジャガイモのPotato Virus Yによる病徴.	九州病虫研報 22: 54-56.
坂口莊一	1984	ジャガイモMウイルス感染ジャガイモにおける塊茎表面の異常.	九州病虫研報 30: 17-21.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
迫 和也・大島一里・仲川晃生・松尾和敏・小川哲治・四方英四郎・佐古宣道	1997	塊茎えそ症のジャガイモから検出された植物ウイルスについて.	九州病虫研報 43: 130-131. (講要)
佐古宣道・江口克己	1982	Potyvirus群のウイルスのアブラムシによる伝搬とヘルパー成分 (HC).	日植病報 48(3): 402. (講要)
Sankari, S., Chikh Ali, M., Katayaka, K., Miki, N., Said Omar, A.M., Sawas, A.B. and Natsuaki, K.	2007	The first report of polyclonal antibody production of a Sirian isolate of potato virus Y.	J. Agric. Sci., Tokyo Univ. Agric. 52(2): 109-114.
笹谷孝英・Torrance, L.・Cowan, G.・Zieglar, A.	2000	ジャガイモXウイルス(PVX)ベクターで発現したジャガイモYウイルス(PVY)のヘルパーコンポーネント(HC)を用いたアブラムシ伝搬試験.	日植病報 66(2): 158. (講要)
佐藤仁敏・本田要八郎	1989	ゼラチン粒子凝集法 (PA法) によるジャガイモからのジャガイモYウイルスの検出.	日植病報 55(4): 542. (講要)
佐藤仁敏・本田要八郎	1990	プロテインAを利用したゼラチン粒子凝集法 (PA法) によるジャガイモYウイルスの検出.	日植病報 56(1): 139. (講要)
佐藤仁敏・畑谷達児・四方英四郎	1997	PCR-マイクロプレート・ハイブリダイゼーション法によるジャガイモ休眠塊茎からの4種ウイルス検出に供する塊茎部位.	日植病報 63(6): 528. (講要)
佐藤仁敏・畑谷達児・川上賢一・鹿野 恭・盛文江・四方英四郎	1998	PCR-マイクロプレート・ハイブリダイゼーション法によるモモアカアブラムシからのジャガイモ葉巻ウイルスの検出.	日植病報 64(6): 583. (講要)
佐藤仁敏・畑谷達児・岩崎真人	2000	RT-PCRによるジャガイモ休眠塊茎からの4種ウイルスの検出.	北日本病虫研報 51: 87-92.
佐藤仁敏・後藤忠則・本田要八郎	2000	ジャガイモおよびペチュニアから分離されたトマト輪点ウイルス.	北日本病虫研報 51: 93-97.
佐藤仁敏・後藤忠則・本田要八郎	2001	ジャガイモにおけるキュウリモザイクウイルスの発生とその塊茎伝染.	北日本病虫研報 52: 34-37.
佐藤仁敏	2001	馬鈴しょ原原種増殖体系におけるウイルス病の診断法に関する研究.	種苗管理セ研報 4: 1-81.
佐藤倫造・後藤忠則・大島信行	1960	Yウイルス感染源としての罹病「ようらく」について.	北日本病虫年報 11: 47-49. (講要)
佐藤倫造・大島信行・成田武四	1965	圃場におけるジャガイモの葉巻病に対する品種間差異.	日植病報 30(5): 285. (講要)
佐藤倫造・大島信行・成田武四	1966	圃場における馬鈴薯の葉巻病に対する品種間差異.	北農 33(1): 12-17.
佐藤 亮・秋元喜弘	1955	馬鈴薯主要品種のXバイラス分布について.	日植病報 19(3・4): 174-175. (講要)
佐藤 亮・江口俊一・戸倉幸三・内藤 等・秋元喜弘・江住和雄	1955	血清反応検定 (スライド法) によるXバイラスの淘汰.	植防 9(8): 324-328.
佐藤 亮・江口俊一	1955	馬鈴薯血清検定の実用化 Xバイラス病淘汰のために.	農業技術 10(9): 419-420.
佐藤 亮・江口俊一・戸倉幸三・内藤 等・吉田博哉	1956	馬鈴薯Xバイラスの伝染について (第一報, 汁液接種, 接触).	日植病報 21(1): 33-34. (講要)
佐藤 亮・戸倉幸三	1956	馬鈴薯メークインの漣葉モザイク病の組成バイラスについて.	日植病報 21(1): 34. (講要)
佐藤 亮	1956	馬鈴薯の萎縮病 ―その病徴と検定法.	農業北海道 8(7): 46-50.
佐藤 亮・戸倉幸三	1957	馬鈴薯ウイルス病の血清診断に於ける各種検定法について.	日植病報 22(1): 59. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
佐藤 亮・江口俊一・戸倉幸三・吉田博哉・新井和夫	1957	馬鈴薯Xウイルスの伝染について 第3報 接触感染, 切断刀感染.	日植病報 21(1): 59.(講要)
佐藤 亮・江口俊一・大島信行	1958	馬鈴薯Xウイルス病の収量に及ぼす影響.	日植病報 23(1): 55.(講要)
佐藤 亮・秋元喜弘	1960	馬鈴薯主要品種のYウイルスによる病徴について.	日植病報 25(5): 235.(講要)
佐藤 亮	1960	“Ⅲ. 生物的方法—個別診断法 (tuber indexing)”, 第10章 ウイルス病の診断法, 「植物ウイルス病—実験法と種類—」(日高 醇ら編).	朝倉書店, 東京, pp.211-215.
佐藤 亮	1961	馬鈴薯の原原種, 原種圃の管理および品種保存の現状 (主としてウイルス病との関連において).	育種学最近の進歩 2: 126-129.
佐藤 亮・田中 智	1962	ジャガイモ主要品種の葉捲病感染当代の病徴について.	日植病報 27(5): 267.(講要)
佐藤 亮・和賀三郎・田中 智	1963	呈色反応によるジャガイモ葉捲病の簡易診断法について.	日植病報 28(5): 307.(講要)
佐藤 亮・西村政芳・田中 智	1963	ジャガイモ葉捲病類似現象の発現機構について 1. 生理病害と第一次病徴の比較.	日植病報 28(5): 307.(講要)
佐藤 亮・田中 智	1964	蛍光抗体標識によるPVYの診断 (予報).	日植病報 29(5): 280.(講要)
佐山 充・小川哲治・迎田幸博	2005	アルミ蒸着テープおよび防虫ネットがバレイシヨの <i>Potato virus Y</i> の感染に及ぼす影響.	九州病虫研報 51: 6-10.
佐山 充・小川哲治・迎田幸博	2005	アルミ蒸着テープおよび防虫ネットがバレイシヨの <i>Potato virus Y</i> の感染に及ぼす影響.	日植病報 71(1): 29. (講要)
佐山 充・小川哲治・迎田幸博	2005	島原半島のバレイシヨ圃場における <i>Potato virus Y</i> の感染時期ならびに媒介虫の飛来時期について.	九州農業研究発表会要旨集 68: 72.(講要)
佐山 充・小川哲治・迎田幸博	2006	島原半島のバレイシヨ圃場における <i>Potato virus Y</i> の感染時期ならびに媒介中の飛来時期について.	日植病報 72(1): 29.(講要)
佐山 充・小川哲治・迎田幸博	2006	島原半島の春作ジャガイモ圃場における <i>Potato virus Y</i> の感染時期および媒介虫の飛来時期について.	九州病虫研報 52:18-23.
関山英吉	1964	馬鈴しよ葉捲病の防除—馬鈴しよに寄生するアブラムシの生態並びに防除に関する調査—.	馬鈴薯原原種農場研報 1: 1-18.
仙北俊弘・李 淳炯・小島 誠・四方英四郎	1979	抗血清による植物ウイルスの診断.	日植病報 45(2): 142-146.
瀬戸口裕美・大島一里・仲川晃生	2000	沖縄県と熊本県で分離したジャガイモYウイルス塊茎えそ分離株の遺伝子解析.	九州病虫研報 46: 147.(講要)
島田昌一	1939	馬鈴薯萎縮病と種薯との問題.	秋田農試時報 6(11): 36-39.
島田昌一	1940	馬鈴薯萎縮病と種薯との問題.	秋田農試時報 6(70): 36-39.
清水基滋・中山尊登・眞岡哲夫・津田昌吾・不破秀明・畑谷達児・森 元幸	2008	ジャガイモモップトップウイルスによるジャガイモ塊茎褐色輪紋病に対する殺菌剤全面散布後土壌混和の効果.	北日本病害虫研報 59:38-41.
清水四郎・岡野 清・前田篤実	1962	種ジャガイモの圃場検査において発見されたウイルス病の種類別調査.	植防 16(4): 153-155.
塩田弘行・西村政芳・西川美智子	1956	馬鈴薯Xバイラスの感染について (予報).	日植病報 21(1): 33.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
塩田弘行・西村政芳・西川美智子	1956	馬鈴薯塊茎に対する馬鈴薯Xウイルスの接種試験.	日植病報 21(2・3): 124.(講要)
塩田弘行・田中 智	1966	ジャガイモ葉巻病の伝染所要時間について.	ウイルス 16(4-5): 131.(講要)
白浜賢一	1943	本邦に於ける馬鈴薯萎縮病の種類と伝染経路に関する考察.	営農 2(10): 91-97.
Sonoda, S. and Tsumuki, H.	2004	Analysis of gene sequences for the nucleocapsid protein from tomato spotted wilt virus for promoting RNA-mediated cross-protection using the potato virus X vector system.	J. Gen. Plant Pathol. 70(4): 239-242.
末松章男・田中 智	1982	ラテックス凝集反応による PVX, PVSの診断.	日植病報 48(3): 399.(講要)
末永 一	1946	馬鈴薯ヴァイラスの防除と蚜蟲。(特輯 馬鈴薯の研究)	農及園 21(2): 75-78.
菅野 正	1943	馬鈴薯増産とウイルス病について.	福島農試農友 341: 6-10.
菅原政芳・小島 誠・村山大記	1967	モモアカアブラムシのジャガイモ葉巻病ウイルス伝搬力保有について.	日植病報 33(5): 351.(講要)
菅原政芳・小島 誠・村山大記	1969	モモアカアブラムシのジャガイモ葉巻病ウイルス伝搬力保有について (2).	日植病報 35(2): 126.(講要)
菅原政芳・小島 誠・村山大記	1969	モモアカアブラムシのジャガイモ葉巻病ウイルス伝搬力保有について (3).	日植病報 35(5): 370.(講要)
菅原政芳・小島 誠・村山大記	1970	モモアカアブラムシのジャガイモ葉巻病ウイルス伝搬力の保有 (第1報).	北大農邦文紀要 7(4): 462-467.
菅原政芳・小島 誠・村山大記	1970	モモアカアブラムシのジャガイモ葉巻病ウイルス伝搬力の保有 (第2報).	北大農邦文紀要 7(4): 468-476.
菅原政芳・小島 誠・村山大記	1973	ジャガイモ葉巻ウイルス保毒虫からのウイルス回収と継代接種.	日植病報 39(2): 150.(講要)
Sugawara, M., Kojima, M. and Murayama, D.	1973	Further studies on the transmission and retention of inoculativity of potato leaf-roll virus in its vector, <i>Myzus persicae</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 39(5): 410-416.
Sugawara, M., Kojima, M. and Murayama, D.	1974	Latent period and retention of potato leaf-roll virus in its vector, <i>Myzus persicae</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 40(1): 39-45.
杉 穎夫・宮本健太郎・清水口強	1950	暖地に於ける馬鈴薯ウイルス病と蚜虫の寄生消長との関係 特にウイルス病毒の流下速度について.	日作紀 19(1・2): 137-142.
鈴木 敦・三浦政直・田中啓二・帯田則義・田中 智	1991	道央におけるジャガイモYウイルスの発生について.	日植病報 57(1): 120-121.(講要)
鈴木郁男・都丸敬一・沢 幸男・荒木幹男	1983	ジャガイモY ウイルスえそ系統によるタバコ黄斑えそ病 第2報 青森県のバーレー種における発生.	盛岡たばこ試報告 17: 97-106.
鈴木翔多朗・畑谷達児	2008	日本産ジャガイモMウイルスの全塩基配列.	日植病報 74(3): 234.(講要)
鈴木翔多朗・畑谷達児	2009	日本産ジャガイモMウイルス感染性転写産物およびcDNAクローン.	日植病報 75(3): 282-283.(講要)
鈴木翔太郎・畑谷達児	2010	トマトにおけるジャガイモSウイルス抵抗性.	日植病報 76(1): 76.(講要)
田所哲太郎・齋藤恒行・高杉直幹	1941	蕃茄及び馬鈴薯ウイルスの生化学的研究 (第1報).	農化 17(10): 853-855.
田所哲太郎・齋藤恒行	1942	蕃茄及び馬鈴薯ウイルスの生化学的研究 (第2報).	農化 18(1): 77-80.
田所哲太郎・齋藤恒行・高杉直幹	1942	蕃茄及び馬鈴薯ウイルスの生化学的研究 (第3報).	農化 18(3): 273-275.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
高橋英樹・日野久美子・徐 雷新・寺岡 徹・細川大次郎	1996	ジャガイモXウイルス普通系統 [PVX (O)] の <i>Arabidopsis thaliana</i> に対する感染性.	日植病報 62(6): 615.(講要)
高橋修一郎・小松 健・吉田明希子・小関丈二・山次康幸・宇垣正志・難波成任	2005	TGBp1およびCO遺伝子のヘアピン配列によるジャガイモXウイルス感染阻害の比較.	日植病報 71(3): 265-266. (講要)
高橋喜夫	1951	馬鈴薯萎縮病.	農業北海道 3(6): 16-20.
高桑 亮・高倉重義	1966	土壌施用粒剤によるバレイショ葉巻病の防除について (土壌施薬の問題点).	北日本病虫研報 17: 17.
高桑 亮・高倉重義・成田武四	1967	土壌施薬によるアブラムシ密度と葉巻病伝搬について.	北日本病虫研報 18: 12.
高桑 亮・高倉重義・成田武四	1968	粒状有機燐殺虫剤を土壌施用したほ場のばれいしょのアブラムシ密度と葉巻病伝染との関係.	北海道立農試集報 17: 9-15.
高桑 亮	1968	網走支庁管内におけるジャガイモウイルス病の発生状況.	北農 35(8): 22-25.
高桑 亮	1968	馬鈴薯ウイルス病防除について.	北海道の農薬 7: 45-59.
高浪洋一・久保 進	1979	タバコえそ萎縮ウイルス及びジャガイモ葉巻ウイルスの核酸について.	日植病報 45(1): 86.(講要)
竹江五郎	1938	馬鈴薯萎縮病類の防除.	北海道の農業 30(6): 32-33.
竹内 徹・佐々木 純・池谷 聡	2005	じゃがいもYウイルス抵抗性遺伝子Rychc の高密度連鎖地図の作成.	日植病報 71(3): 279-280. (講要)
竹内東助	1942	馬鈴薯萎縮病(バイラス病)に就いて.	秋田農試時報 101.
玉田哲男・大島信行	1965	モモアカアブラムシによるジャガイモ葉巻病ウイルス伝搬能力の持続性.	日植病報 30(5): 285.(講要)
玉田哲男・大島信行	1966	虫体内注射法によるジャガイモ葉巻病ウイルスの伝染.	日植病報 32(5): 310.(講要)
玉田哲男・高桑 亮	1967	ジャガイモ葉巻病ウイルスの伝染に及ぼすアブラムシ数の影響.	日植病報 33(5): 351.(講要)
玉田哲男・佐藤倫造・大島信行・成田武四	1967	バレイショ葉巻病の感染時期について (土壌施薬に関連して).	北日本病虫研報 18: 13.
玉田哲男・高桑 亮	1968	浸透性殺虫剤の持続効果とジャガイモ葉巻病ウイルスの回収および感染について.	北日本病虫研報 19: 36.
玉田哲男・高桑 亮・成田武四	1971	ジャガイモ葉巻病の感染時期と伝播に対する浸透性殺虫剤の効果.	北海道立農試集報 23: 80-89.
玉田哲男・Harrison, B.D.	1981	アブラムシ内におけるジャガイモ葉巻病ウイルスの行動.	日植病報 47(3): 412-413.(講要)
玉田哲男	1984	Beet western yellows virus の系統とジャガイモ葉巻病ウイルスとの関係.	日植病報 50(1): 93.(講要)
玉井淳史・飯 哲夫	2001	Potato virus X の細胞間移行に関わるタンパク質の機能解析.	日植病報 67(2): 146.(講要)
田村光章	1985	ジャガイモYウイルスえそ系によるタバコ黄斑えそ病の発生.	関東東山病虫年報 32: 66-67.
田中一郎	1936	北海道に於ける馬鈴薯萎縮病と其の豫防法としての採種圃設置の効果.	病蟲雑 23(6): 403-409.
田中一郎・村山大記・大島信行	1954	馬鈴薯微斑モザイク病について.	日植病報 18(3・4): 149.(講要)
田中一郎	1954	馬鈴薯の単純モザイク病と微斑モザイク病について.	植防 8(1): 6-11.
田中一郎・村山大記・大島信行	1956	馬鈴薯Xモザイク病に関する研究.	北海道農試報告 49: 1-76.
田中伊之助・安田壮平	1967	浸透持続性殺虫剤による暖地種馬鈴しょの葉巻病防除について.	植防 21(2): 66-69.
田中 智	1961	馬鈴薯葉捲病の生育初期感染における病徴とウイルスの地下部への移動時期.	日植病報 26(5): 234-235.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
田中 智・佐藤 亮	1962	ジャガイモ葉捲病感染植物体よりアブラムシによるウイルスの取出し.	日植病報 27(5): 267.(講要)
田中 智・江住和雄・佐藤 亮	1963	ジャガイモ葉捲病塊茎の加熱療法.	日植病報 28(5): 307-308.(講要)
田中 智・西村政芳・佐藤 亮	1964	ジャガイモ葉捲病の病徴と炭水化物との関係について.	日植病報 29(5): 279.(講要)
田中 智・江住和雄・西村政芳	1964	PVYによる男爵薯の病徴について.	日植病報 29(5): 280.(講要)
田中 智・佐藤 亮	1965	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 1. ジャガイモヒガナガアブラムシによる伝搬.	日植病報 30(2): 87.(講要)
田中 智・佐藤 亮	1965	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 第2報 ジャガイモヒガナガアブラムシとモモアカアブラムシのウイルス伝染力の比較.	日植病報 30(5): 285.(講要)
田中 智・佐藤 亮	1965	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 第3報 モモアカアブラムシ有翅と無翅によるウイルス伝染の比較.	日植病報 30(5): 285-286.(講要)
田中 智・佐藤 亮	1965	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 第4報 ウイルスの継代伝染の有無について.	日植病報 30(5): 286.(講要)
田中 智	1965	“Ⅰ馬鈴薯葉捲病ウイルスの回収移動と感染病徴について”, 馬鈴しょウイルス病に関する調査報告.	馬鈴薯原原種農場研報 2: 1-6.
田中 智	1965	“Ⅲ馬鈴薯葉捲病の化学的診断の実用化について”, 馬鈴しょウイルス病に関する調査報告.	馬鈴薯原原種農場研報 2: 15-26.
田中 智・西村政芳	1966	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 第5報 伝染におよぼす温度の影響.	日植病報 32(5): 310.(講要)
田中 智・西村政芳	1967	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 第6報 各地産モモアカアブラムシの伝染能力について.	日植病報 33(2): 97.(講要)
田中 智	1967	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 第7報 ウイルスの系統と伝染.	日植病報 33(5): 351.(講要)
田中 智	1968	葉捲病ウイルスの系統によるジャガイモの病徴.	日植病報 34(3): 200.(講要)
田中 智	1968	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 第8報 吸汁部位とウイルス獲得.	日植病報 34(5): 367.(講要)
田中 智	1969	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 第9報 植物のウイルス濃度と伝搬.	日植病報 35(5): 370.(講要)
田中 智・塩田弘行	1969	ジャガイモ葉捲ウイルスの系統による病徴の変化.	植防 23(9): 371-374.
田中 智・塩田弘行	1970	ジャガイモ葉捲病ウイルスのモモアカアブラムシ体内における潜伏期間.	日植病報 36(2): 106-111.
田中 智	1970	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 第10報 保毒虫の吐出唾液中のウイルス活性.	日植病報 36(5): 365-366.(講要)
田中 智・塩田弘行	1970	モモアカアブラムシの産地を異にする系統および有翅・無翅型による葉捲病ウイルスの伝搬.	北日本病虫研報 21: 1-4.
田中 智・塩田弘行	1971	ジャガイモ葉捲病とアブラムシとの関係 第11報 保毒虫による接種について.	日植病報 37(3): 201.(講要)
田中 智・秋元喜弘・塩田弘行	1971	ジャガイモ品種のXウイルス系統に対する反応.	日植病報 37(5): 410.(講要)
田中 智・塩田弘行	1971	アブラムシの人工的吸汁によるジャガイモ葉捲病ウイルスの伝搬.	北日本病虫研報 22: 44-46.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
田中 智・塩田弘行	1971	ジャガイモヒゲナガアブラムシのジャガイモ葉巻病ウイルス伝搬力.	植防 25(1): 15-16.
田中 智・塩田弘行	1972	ジャガイモ葉巻病ウイルスの植物体内移行について.	日植病報 38(3): 218.(講要)
田中 智・秋元喜弘・塩田弘行	1972	ジャガイモXウイルスの系統によるジャガイモ品種の反応.	植防 26(12): 491-494.
田中 智・塩田弘行	1973	ジャガイモ葉巻病ウイルス感染植物体内の篩部壊死について.	日植病報 39(1): 61-66.
田中 智・塩田弘行	1973	ジャガイモ葉巻病ウイルス感染植物体内の篩部壊死について.	日植病報 39(2): 150.(講要)
田中 智・秋元喜弘・塩田弘行	1973	ジャガイモXウイルスの系統によるジャガイモの品種の病徴と血清反応.	日植病報 39(3): 225.(講要)
Tanaka, S. and Shiota, H.	1973	Infectivity of potato leaf-roll virus in salivary secretions from viruliferous aphids.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 39(3): 269-271.
田中 智	1974	PVXに抵抗性が異なるジャガイモの品種に対するPVXおよびPVYの同時接種.	日植病報 40(2): 117.(講要)
田中 智	1974	ジャガイモ葉巻病に関する研究.	馬鈴薯原原種農場研報 10: 1-16.
田中 智	1975	PVX抵抗性ジャガイモにおけるPVXのPVY感染阻害.	日植病報 41(1): 121.(講要)
田中 智	1975	ジャガイモウイルス病防除の問題点.	農薬の進歩 15(2): 9-18.
田中 智・堀尾英弘	1978	ジャガイモX, A及びYウイルスに対する品種の抵抗性.	日植病報 44(3): 396-397.(講要)
田中 智	1980	ジャガイモ品種のジャガイモX, A及びYウイルス抵抗性に関する試験.	馬鈴薯原原種農場研報 14: 1-49.
田中 智	1990	種ジャガイモの栽培技術の要点 - 虫媒ウイルス病防除を中心にして -.	農及園 65(6): 725-732.
田中 智(編)	1991	ジャガイモYウイルスの新しい系統の発生と防除に関する試験.	種苗管理セ研報 26: 1-64.
垂井昌明	1943	馬鈴薯萎縮病に對する一觀察.	白楊農誌 4(2): 39-41.
田杉平治	1943	馬鈴薯のバイラス病. [主要食糧作物の病蟲害 十二]	農業 748: 35-48.
田杉平司	1943	馬鈴薯バイラス病.	農業の満州 15(5): 15-25.
栃原比呂志	1983	“131 ジャガイモモップトップウイルス”, 4編 病原ウイルス, 「植物ウイルス事典」(與良 清ほか編).	朝倉書店, 東京, pp.428-429.
都丸敬一・日高 醇	1953	タバコの新バイラス病 黄斑えそ病(新称).	日植病報 18(1・2): 78.(講要)
都丸敬一・宇田川 晃	1965	タバコ(バーレー種)から分離されたジャガイモYウイルスの1新系統.	日植病報 30(5): 294.(講要)
都丸敬一・宇田川 晃	1968	タバコのホワイトバーレー系品種から分離されたジャガイモYウイルスの一新系統.	日植病報 34(2): 77-84.
都丸敬一・沢 幸男・荒木幹男・鈴木郁男	1982	バーレー種タバコにおけるジャガイモYウイルス黄斑えそ系の発生について(予報).	日植病報 48(1): 93.(講要)
都丸敬一・鈴木郁男・沢 幸男・荒木幹男	1982	青森県のタバコおよびジャガイモに発生したジャガイモYウイルス necrotic strain.	日植病報 48(3): 392.(講要)
都丸敬一・沢 幸男・鈴木郁男・田中行久・桑田 茂・高浪洋一・久保進	1984	東北地方のタバコにおけるタバコ矮化ウイルス(TSV),ジャガイモYウイルスえそ系(PVY-T)及びトマト黄化えそウイルス(TSWV)の発生.	日植病報 50(1): 113.(講要)
都丸敬一・平井進一郎	1995	植物ウイルスの迅速免疫濾紙検定法(Rapid Immuno Filter Paper Assay; RIPA)による診断に関する研究 - 特にジャガイモ等に発生するウイルスの診断.	栄養繁殖作物等に発生するウイルスの迅速診断法の開発に関する研究(平成5年度・6年度文部省科学研究費), pp.16-29.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
都丸敬一・平井進一郎・栗原 潤・堀尾英弘	1997	迅速免疫ろ紙検定法(RIPA)によるジャガイモ・ウイルスの検出.	日植病報 63(6): 503.(講要)
富樫浩吾	1947	バイラス病による馬鈴薯減収の実態.	農及園 22(7): 353-355.
富樫浩吾	1950	“ジャガイモのバイラス病の研究 一種類と減収の実態―”, 「植物バイラス病研究報告」(明日山秀文・野口彌吉 編).	養賢堂, 東京, pp.25-26.
富田義昭	1964	馬鈴薯ウイルス病の被害とその対策.	農薬の進歩 10(4): 40-46.
鳥倉英徳	1994	馬鈴しょのウイルス病防除とアドマイヤーの可能性.	農薬研究 40(3): 1-6.
土崎常男・与良 清・明日山秀文	1960	ジャガイモ男爵の組織培養による無ウイルス化の試み.	日植病報 25(5): 217.(講要)
辻 良介	1919	馬鈴薯の萎縮病.	園芸 11(1): 35-39.
内田正行・堀尾英弘・田中 智	1980	ジャガイモFウイルスによるジャガイモ品種の反応.	日植病報 46(1): 106.(講要)
内田正行・木村鉄也・田中 智	1991	ジャガイモYウイルスの感染時期とミネラルオイル散布による防除(予報).	日植病報 57(1): 121.(講要)
宇田川 晃・都丸敬一	1972	香川県のタバコに発生したジャガイモYウイルスの1新系統.	日植病報 38(3): 210.(講要)
Uyeda, I., Kojima, M., Yonemura, M., Aoki, T., Kawada, T. and Shikata, E.	1984	Application of enzyme-linked immunosorbent assay to a large scale indexing of potato virus X, potato virus Y, and potato leafroll virus.	Jour. Fac. Agr. Hokkaido Univ. 62(1): 22-35.
上田健治・徐 正君・中野 剛・斎藤葉子・小野道之・井上正保	1998	ジャガイモSウイルスsk-1株(PVSk-1)の12Kタンパク質とGFPの融合タンパク質を発現する形質転換タバコの解析.	日植病報 64(4): 396.(講要)
上田浩司・畑谷達児・上田一郎	2002	ジャガイモSウイルス普通系統ゲノムの全塩基配列.	日植病報 68(1): 104.(講要)
上野幸一	1978	馬鈴薯に寄生するアブラムシとジャガイモ葉巻病に関する調査報告.	十勝馬鈴しょ原原種農場, 39p.
王 蔚芹・夏秋知英・奥田誠一・寺中理明	1989	ジャガイモのえそ症状株から分離されたアルファルファモザイクウイルス.	日植病報 55(1): 116.(講要)
徐 雷新・細川大二郎・高松則之	1994	ジャガイモXウイルスの25KDのタンパク質の抗体作製と細胞内局在.	日植病報 60(3): 390.(講要)
山次康幸・鍵和田聡・中村仁美・宇垣正志・南波成任	2002	Potato virus Xの3' 非翻訳領域末端の poly (A) signal様配列を含むステムループ構造はpoly (A)修復に関与しない.	日植病報 68(1): 71.(講要)
山崎英明・俣木利昭・馬場興一・岡本敏治・吉田 隆・桐野 嵩	1998	ジャガイモの主要品種におけるジャガイモYウイルスえそ系統の病徴(2) 西南暖地(九州)における調査.	植防研報 24: 69-71.
Yang, L.J., Hidaka, M., Masaki, H. and Uozumi, T.	1998	Detection of potato virus Y P1 protein in infected cells and analysis of its cleavage site.	Biosci. Biotechnol. Biochem. 62(2): 380-382.
安田壮平・田中伊之助	1965	暖地産ジャガイモのウイルス病防除に関する研究 第5報 浸透移行性殺虫剤による葉巻病ウイルスの抑制とその要因について.	日植病報 30(2): 87.(講要)
安田壮平・坂口壮一	1965	馬鈴しょ植付時期と葉巻病ウイルスの感染について(予報).	日植病報 30(5): 275.(講要)
安田壮平	1965	暖地におけるジャガイモ葉巻病ウイルスに対するダイシストンの感染防止効果について.	農薬研究 11(3): 1-18.
安田壮平・坂口荘一	1966	暖地馬鈴薯の植付時期と葉巻病の感染について(予報).	九州農業研究 28: 112-113.
安田壮平・坂口壮一	1967	暖地ジャガイモの植付時期と葉巻病の感染について.	日植病報 33(2): 97-98.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
安田壮平・坂口壮一	1967	ジャガイモ葉巻病ウイルスの植物体内における移行速度.	日植病報 33(2): 98.(講要)
谷津 繁	1954	スライド法に依る馬鈴しょバイラスの検出.	日植病報 18(3・4): 148.(講要)
与那覇哲義・西村政芳	1965	蛍光抗体法による馬鈴しょの塊茎および幼芽におけるウイルスの検出.	日植病報 30(5): 286.(講要)
与那覇哲義・村山大記・四方英四郎	1971	ジャガイモ「男爵薯」から分離されたウイルスについて.	日植病報 37(5): 410.(講要)
与那覇哲義・大石 毅・馬場 剛・河野伸二	1997	ジャガイモから分離されたCarlavirusの2分離株について.	日植病報 63(6): 483.(講要)
与那覇哲義・門脇孝枝・Rahman, M.S.・安谷屋健・河野伸二・内藤 孝	1998	ジャガイモえそ症状株から分離されたPotexvirusについて.	日植病報 64(4): 402-403.(講要)
米村 信・故川田 武・上田一郎・四方英四郎	1982	ジャガイモウイルスの混合抗体によるELISA検定について.	日植病報 48(1): 123.(講要)
米村 信・青木忠文・堀尾英弘	1983	ELISAによるジャガイモのウイルス検出方法について.	日植病報 49(1): 122-123.(講要)
米村 信	1985	ELISAによるジャガイモウイルスの集団検定について.	日植病報 51(1): 110.(講要)
米村 信・村上博文・田島和幸・吉田三郎	1989	胆振農場周辺のジャガイモウイルス病の発生状況と自然感染について.	日植病報 55(4): 530.(講要)
與良 清・小室康雄	1950	ジャガイモ農林一號の條斑モザイク病.	日植病報 14(1・2): 23-24.
與良 清	1950	ジャガイモ農林一號のXバイラスに對する反應.	日植病報 14(1・2): 53.(講要)
與良 清	1950	ジャガイモ農林一號の單純モザイク病.	日植病報 14(3・4): 75-78.
與良 清	1950	ジャガイモ品種のX-及びY-バイラスに對する抵抗性について.	日植病報 14(3・4): 115.(講要)
與良 清	1950	ジャガイモYバイラスによるジャガイモ葉上のLocal Lesionに就て.	日植病報 15(1): 42.(講要)
與良 清	1951	Xバイラス以外のバイラスがジャガイモに潜伏する例について.	日植病報 15(3・4): 147-148.(講要)
與良 清	1951	ジャガイモXバイラスの系統について.	日植病報 15(3・4): 176.(講要)
與良 清	1951	ジャガイモのバイラス病.	農及園 26(2): 224.
與良 清	1952	ジャガイモ紅丸種の微斑モザイク病について.	日植病報 16(3・4): 145-146.(講要)
與良 清	1953	Yバイラスに感染したジャガイモ紅丸種の次代病徴の發病型について.	日植病報 17(2): 89.(講要)
與良 清	1953	ジャガイモ男爵種に發生する2種類の微斑モザイク病について.	日植病報 17(3・4): 162.(講要)
與良 清	1953	ジャガイモ金時種の數種ジャガイモバイラスに對する反應と検定植物としての利用價值.	日植病報 18(1・2): 77.(講要)
與良 清	1953	バイラス病に感染したジャガイモ紅丸種の次代病徴の發病型について.	日植病報 18(2): 89.(講要)
與良 清	1953	馬鈴薯のバイラス病.	植防 7(11): 399-402.
與良 清	1954	ジャガイモXバイラスのMasked strainについての2, 3の觀察.	日植病報 18(3・4): 108.(雜録)
与良 清	1954	ジャガイモ微斑モザイク症状の病原バイラスについての實驗結果.	日植病報 19(1・2): 89.(講要)
与良 清	1955	病原バイラスとその検定. (昭和30年度シンポジウム III ジャガイモのモザイク病).	日植病報 20(2・3): 132-133.(講要)
与良 清・我孫子三郎	1956	ジャガイモXバイラスのringspot strainによるジャガイモ農林1号のえそ症状について.	日植病報 20(4): 174-175.(講要)
与良 清	1956	ジャガイモメークイン種に異品種をcore graftして生ずるTop necrosisについて.	日植病報 21(1): 39.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
与良 清	1958	ジャガイモ男爵に潜伏し、メークインなどの品種に top necrosis をおこすウイルスについて.	日植病報 23(1): 34.(講要)
與良 清	1962	ジャガイモ品種のXウイルス抵抗性に関する研究 第1報 メークインに top necrosis を起こすウイルスについて.	日植病報 27(4): 214-218.
與良 清・土崎常男	1962	ジャガイモ男爵の組織培養による無ウイルス化.	日植病報 27(4): 219-221.
與良 清	1963	近ごろ話題となったウイルス (3) .	植防 17(12): 490-494.
與良 清	1983	“IV. ジャガイモ”, 3編 主要作物のウイルス病, 「植物ウイルス事典」(與良 清ほか編).	朝倉書店, 東京, pp.84-88.
吉田明希子・小松 健・高橋修一郎・小関丈二・平田久笑・山次康幸・難波成任	2005	ジャガイモXウイルスをもとに構築したGFP発現ベクターにおけるRNA silencingの関与.	日植病報 71(3): 277. (講要)
吉田博哉・石原哲二	1962	ジャガイモシマバラにおける1芽切片によるXウイルスの淘汰.	日植病報 27(5): 271.(講要)
吉田哲也・白石拓也・北沢優悟・菅原杏子・根津 修・山次康幸・難波成任	2014	JAX1抵抗性打破を引き起こすpotato virus Xの複製酵素1アミノ酸変異の解析.	日植病報 80(4): 308-309.(講要)
吉田雪子・日高真誠・中村泰之・正木春彦・魚住武司	1990	ジャガイモYウイルスのゲノム中プロテアーゼをコードする領域の塩基配列の解析.	農化 64(3): 358.(講要)
吉田雪子・日高真誠・正木春彦・魚住武司	1991	ジャガイモYウイルスのプロテアーゼ遺伝子の大腸菌での発現.	農化 65(3): 363.(講要)
吉田雪子・日高真誠・正木春彦・魚住武司	1993	組換え型ジャガイモYウイルスプロテアーゼの精製とその性質の解析.	農化 62(3): 367.(講要)
吉原典子	1951	バイラス病体のプロテナーゼに関する研究 (第4報) 馬鈴薯及び煙草におけるモザイク罹病葉中の蛋白酵素について.	農化 24(9): 410-412.
吉井 甫	1953	<i>Aphis gossypii</i> とジャガイモY virus.	日植病報 17(3・4): 175.(講要)
吉井 甫	1955	“ <i>Aphis gossypii</i> Glover とジャガイモY virus. ”, 「栃内吉彦・福士貞吉両教授還暦記念論文集刊行会, 札幌, pp.6-8.	
吉井 甫	1960	ワタアブラムシによるジャガイモYウイルスの伝播 (予報) .	九州病虫研報 6: 88-89.
吉井 甫	1962	ワタアブラムシによるジャガイモYウイルスの伝播.	九州病虫研報 8: 52-53.
行本峰子・小林 豊・与良 清・戸倉幸三	1960	わが国のジャガイモ品種におけるSウイルスの検出.	日植病報 25(5): 216-217.(講要)

613 ファイトプラズマ病

青木忠文・村山大記	1973	テトラサイクリン剤処理によるジャガイモ天狗巣病トマトからの病原回収.	日植病報 39(2): 150-151.(講要)
青木忠文・村山大記	1980	ジャガイモてんぐ巣病と紫染萎黄病に対するテトラサイクリン剤の効果.	馬鈴薯原原種農場調査研報 13: 1-31.
土居養二・寺中理明・与良 清・明日山秀文	1967	クワ萎縮病, ジャガイモてんぐ巣病, aster yellows virus 感染ペチュニアならびにキリてんぐ巣病の罹病茎葉篩部に見出された <i>Mycoplasma</i> 様 (あるいはPLT様) 微生物について.	日植病報 33(4): 259-266.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
土居養二・寺中理明・与良 清・明日山秀文	1967	クワ萎縮病, ジャガイモてんぐ巣病, aster yellows virus 感染ペチュニアならびにキリてんぐ巣病の罹病茎葉節部に見出される <i>Mycoplasma</i> (あるいはPLT様) 微生物について.	日植病報 33(5): 315.(講要)
Doi, Y., Teranaka, M., Yora, K. and Asuyama, H.	1969	<i>Mycoplasma</i> - or PLT-like microorganisms found in the phloem elements of plants infected with mulberry dwarf, potato witches' broom, aster yellows, or paulownia witches' broom.	Rev. Plant protec. Res. 2: 84-89.
福士貞吉・四方英四郎・関山英吉・大島信行	1954	馬鈴薯天狗巣病の媒介昆虫 (豫報).	日植病報 18(3・4): 148-149. (講要)
福士貞吉・四方英四郎	1954	<i>Cuscuta</i> による馬鈴薯天狗巣病の感染試験.	日植病報 18(3・4): 149.(講要)
福士貞吉・四方英四郎・塩田弘行・関山英吉・田中一郎・大島信行・西尾美明	1955	馬鈴薯天狗巣病の伝染経路に関する研究.	日植病報 20(2・3): 103.(講要)
Fukushi, T., Shikata, E., Shioda, H., Sekiyama, E., Tanaka, I., Oshima, N. and Nishio, Y.	1965	Insect transmission of potato witches' broom in Japan.	Froc. Japan Acad. 31(4): 234-236.
福士貞吉・四方英四郎	1955	ネナシカズラ及びマメダオシによる馬鈴薯天狗巣病の伝染.	北大農邦文紀要 2(3): 42-51.
福士貞吉・四方英四郎・塩田弘行・関山英吉・田中一郎・大島信行・西尾美明	1955	馬鈴薯天狗巣病の虫媒伝染に関する研究.	北大農邦文紀要 2(3): 52-61.
福士貞吉・四方英四郎	1956	馬鈴薯天狗巣病の寄主範囲に関する研究 (キク科及マメ科植物以外の植物に対する接種試験).	日植病報 21(1): 33.(講要)
福士貞吉・菅野知也	1956	馬鈴薯天狗巣病の接種試験について.	日植病報 21(1): 33.(講要)
福士貞吉・四方英四郎・塩田弘行・関山英吉・田中一郎・大島信行	1956	馬鈴薯天狗巣病の寄主範囲に関する研究.	日植病報 21(2・3): 125.(講要)
福士貞吉・四方英四郎・塩田弘行・関山英吉・西川美智子	1957	馬鈴薯天狗巣病の虫媒伝染に関する研究.	日植病報 22(1): 59.(講要)
福士貞吉・四方英四郎	1959	馬鈴薯天狗巣病の虫媒伝染に関する研究 ニンジン萎黄病との比較.	日植病報 24(1): 62.(講要)
比留木忠治・王 克日	1999	天狗巣病罹病ジャガイモにおけるファイトプラズマによる二重感染の分子診断法による検出.	日植病報 65(3): 368.(講要)
鄭 熙英・咸 永一・李 準・柿澤茂行・澤柳利実・大島研郎・宮田伸一・宇垣正志・日比忠明・難波成任	2002	韓国産potato witches' broomファイトプラズマの系統解析.	日植病報 68(1): 71-72.(講要)
石川定一・関山英吉・小谷内康好	1966	ジャガイモ葉巻病と後志地方に発生するジガイモ紫染萎黄病の第1次病徴比較について.	日植病報 32(5):310 .(講要)
村山大記・石川定一・関山英吉	1963	後志地方に発生する萎黄病罹病植物について.	日植病報 28(5): 306.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
村山大記・塩田弘行・関山英吉・島本幸典・谷津 繁	1963	胆振農場およびその周辺における萎黄病の罹病植物について.	日植病報 28(5): 307.(講要)
村山大記	1963	ジャガイモ天狗巣病について.	琉球植物防疫情報 14: 1-2.
村山大記・塩田弘行・谷津 繁	1964	キマダラヒロヨコバイの発生とジャガイモ紫染萎黄病の発病との関係.	日植病報 29(5): 280.(講要)
村山大記・四方英四郎・塩田弘行・関山英吉・桜井 博・和賀三郎・谷津 繁・島本幸典	1967	馬鈴薯紫染萎黄病に関する研究 (第1報).	北大農邦文紀要 6(2): 231-273.
村山大記・和賀三郎・青木忠文	1969	TC-剤のジャガイモ天狗巣病および紫染萎黄病に対する影響.	日植病報 35(5): 370-371.(講要)
根本正康	1967	ジャガイモ新萎黄病の塊茎伝染について.	日植病報 33(2): 97.(講要)
根本正康	1974	ジャガイモ萎黄病タイプⅢの塊茎伝染について.	北海道農試研報 107: 1-7.
大島信行	1954	馬鈴薯天狗巣病の接木接種と発病の関係.	北日本病虫研報 5: 101-102.(講要)
大島信行・後藤忠則	1956	北海道に発生する二つの萎黄病型ウイルス病について.	北海道農試彙報 71: 56-66.
大島信行・後藤忠則	1956	北海道に発生する二つの萎黄病型ウイルス病について.	日植病報 21(1): 32.(講要)
大島信行・後藤忠則	1956	馬鈴薯の1ウイルス性萎黄病について.	北日本病虫研報 7: 68.(講要)
大島信行・後藤忠則	1957	馬鈴薯に発生する萎黄病について.	日植病報 22(1): 59-60.(講要)
大島信行・後藤忠則	1957	植物ウイルスの接木伝染について.	日植病報 22(1): 60.(講要)
大島信行・後藤忠則・田中一郎	1957	馬鈴薯天狗巣病と他の類似病害の比較.	日植病報 22(1): 60.(講要)
大島信行・後藤忠則	1957	馬鈴薯に発生する萎黄病について.	日植病報 36(3): 184.(講要), 北日本病虫研報 8: 53-.(講要)
大島信行・根本正康	1962	ジャガイモの新萎黄病について.	日植病報 27(5): 267.(講要)
大島信行・根本正康	1962	馬鈴薯に発生する新ウイルス性萎黄病.	北海道農試彙報 79: 58-60.
大島信行・根本正康	1964	ジャガイモの新萎黄病について.	日植病報 29(1): 25-32.
関山英吉・村山大記	1970	北海道後志地方に発生するジャガイモ紫染萎黄病.	農及園 45(5): 843-844.
新海 昭	1970	マメ類てんぐ巣病に感染したジャガイモおよびトマトの病徴.	日植病報 36(3): 184.(講要)
塩見敏樹・杉浦巳代治	1984	ヒメフタテンヨコバイによって媒介されるMLO, ジャガイモ紫染萎黄MLOおよびaster yellows MLOの異同.	日植病報 55(4): 455-460.
塩田弘行	1953	馬鈴薯天狗巣病発生實態.	北日本病虫年報 4: 94-95.(講要)
塩田弘行・谷津 繁	1955	馬鈴薯天狗巣病と葉巻病との関係.	農及園 30(10): 1381.
塩田弘行・関山英吉・桜井 博	1956	馬鈴薯天狗巣病の寄主範囲に関する研究 (マメ科植物に對する接種試験).	日植病報 21(1): 32-33.(講要)
塩田弘行・関山英吉・西川美智子	1958	馬鈴薯天狗巣病の虫媒伝染に関する試験.	日植病報 23(1): 55.(講要)
塩田弘行・関山英吉・桜井 博	1959	馬鈴薯天狗巣病の虫媒伝染に関する研究.	日植病報 24(1): 62.(講要)
塩田弘行・関山英吉・谷津 繁	1960	馬鈴薯紫染萎黄病に関する研究 (発生実態について).	日植病報 25(5): 234-235.(講要)
塩田弘行・関山英吉・谷津 繁	1960	馬鈴薯紫染萎黄病に関する研究 (接種試験).	日植病報 25(5): 235.(講要)
塩田弘行・関山英吉・谷津 繁	1962	馬鈴薯紫染萎黄病に関する研究 I 発生, 病徴および接種試験.	植防 16(7): 274-276.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
塩田弘行・関山英吉・谷津 繁	1962	馬鈴薯紫染萎黄病に関する研究 II 病徴と収量との関係.	植防 16(8): 323-325.
塩田弘行・谷津 繁・関山英吉	1963	ジャガイモ紫染萎黄病の発生について.	日植病報 28(5): 306-307.(講要)
田中一郎・大島信行・後藤忠則	1952	馬鈴薯天狗巣病の寄主範囲.	日植病報 16(3・4): 174.(講要)
田中一郎・成田武四・大島信行・後藤忠則	1952	馬鈴薯天狗巣病について.	日植病報 17(1): 34.(講要)
田中一郎・成田武四・大島信行・後藤忠則	1953	馬鈴薯天狗巣病とその寄主範囲について.	北海道農試彙報 64: 100-112.
田中一郎	1955	馬鈴薯天狗巣病について.	植防 9(9): 351-354.
田中一郎・大島信行・後藤忠則	1956	馬鈴薯天狗巣病の寄主範囲に関する研究 (主として菊科植物に対する接種試験).	日植病報 21(1): 32.(講要)
山田 濟	1951	馬鈴薯の新病害「天狗巣病」について.	岡山農試時報 379・380: 4017-4019.
谷津 繁	1955	馬鈴薯天狗巣病と葉巻病との関係.	日植病報 19(3・4): 172-173.(講要)

620 細菌病

中山尊登	2012	“3節-(2) 細菌病とその防除”, III章 ジャガイモの生産と普及, 「ジャガイモ事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, pp.214-216.
------	------	---	-------------------------

621 輪腐病

秋山昌弘・藤井新太郎	1964	岡山県における種馬鈴しよ輪腐病の発生とその防除.	植防 18(11): 445-448.
不破秀明・田中文夫	2009	PCR およびELISA を用いたジャガイモ輪腐病菌の保菌塊茎からの検出.	日植病報 75(1): 88.(講要)
原田幸雄・鳴海智子	2000	ジャガイモ輪腐病細菌に対する各種薬剤の殺菌効果.	弘前大学農学生命科学部学術報告 2: 22-25.
北海道農試	1948	馬鈴薯輪腐病(リング・ロット病).	北海道農試時報 224: 1-10.
石田栄一・加藤美文・佐々木邦雄・山本正宗	1960	暖地春作馬鈴薯の輪腐病発病時期について.	日植病報 25(1): 54.(講要)
石田栄一・加藤美文・佐々木邦雄・山本正宗	1963	中国地方におけるジャガイモ輪腐病の発病時期.	植防研報 2: 28-32.
加藤美文・佐々木邦雄	1961	バレイショ輪腐病の血清による診断.	日植病報 26(2): 57.(講要)
河合一郎	1949	馬鈴薯輪腐病(リングロット)に就て.	農業技術研究 3(2): 9-11.
河合一郎	1949	馬鈴薯輪腐病の防除対策.	農業技術研究 3(5): 20-21.
草場敏彦・向 秀夫	1953	馬鈴薯輪腐病々原細菌の発育諸要約について.	日植病報 17(2): 89.(講要)
草場敏彦・向 秀夫	1954	馬鈴薯輪腐病々原細菌の熱に対する抵抗力 (第4報) 耐熱性獲得の有無について.	日植病報 19(1・2): 90-91.(講要)
松濤美文・佐々木邦雄	1963	圃場検査におけるジャガイモ輪腐病の血清による診断.	植防研報 2: 33-40.
宮沢春水	1949	ジャガイモのリングロットと隔離栽培.	農耕と園芸 4(4): 20.
水田隼人	1995	“2. 輪腐病”, II 馬鈴薯の病害虫とその防除, 「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切嶺 編).	日本植物防疫協会, 東京, pp.44-51.
向 秀夫・土屋行夫	1951	馬鈴薯輪腐病菌の熱に対する抵抗力 II 病原細菌の熱に対する抵抗力に及ぼす培養基成分の影響.	日植病報 15(2): 89-90.(講要)
向 秀夫・土屋行夫	1951	馬鈴薯輪腐病菌の熱に対する抵抗力 III 病原菌の熱に対する抵抗力に及ぼす各種発育条件の影響.	日植病報 15(3・4): 146.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
向 秀夫・吉田孝二	1951	抗生物質による馬鈴薯輪腐病の化学療法 I ペニシリンによる馬鈴薯輪腐病の治療.	植防 5(11): 417-422.
向 秀夫・草場敏彦・土屋行夫	1952	馬鈴薯輪腐病罹病塊茎の温熱処理に於ける高周波の応用について.	日植病報 16(1): 35.(講要)
向 秀夫・吉田孝二	1952	馬鈴薯輪腐病の内科的治療特にペニシリンによる治療(豫報).	日植病報 16(3・4): 181.(講要)
向 秀夫・吉田孝二・田部井英夫	1954	馬鈴薯輪腐病の内科的治療に関する研究(第2報)病原細菌に対する抗生物質特にStreptomycinの作用.	日植病報 18(3・4): 177.(講要)
向 秀夫・中川九一・吉田孝二	1954	馬鈴薯輪腐病の内科的治療に関する研究(第3報)馬鈴薯苗に吸収されたStreptomycinの植物体内に於ける濃度分布と實際應用試験について.	日植病報 18(3・4): 177.(講要)
向 秀夫・山崎保子	1962	ジャガイモ輪腐病に対するカナマイシンの塊茎浸漬処理の効果.	日植病報 27(5): 250.(講要)
向 秀夫	1969	侵入病害とその防除 ―ジャガイモ輪腐病―.	植防 23(5): 194-197.
村山大記	1952	馬鈴薯の大敵 ―バイラス病と輪腐病について―.	農業北海道 4(10): 16-21.
村山大記	1953	馬鈴薯輪腐病(リングロット)について ―その発生と対策.	農業北海道 5(9): 8-12.
水田隼人	1965	“2. 輪腐病”, 馬鈴薯の病害虫とその防除, 「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切嶺 編).	日本植物防疫協会, 東京, pp.44-51.
中川九一・白坂信己	1952	馬鈴薯輪腐病の被害実態.	東北農業 5(5・6): 267-268.
成田武四・北沢健治	1948	北海道に発生した馬鈴薯の萎縮性輪腐病 予報 本病と馬鈴薯のRing rot病との類似性.	農及園 23(7): 395-396.
成田武四	1950	馬鈴薯輪腐病と品種との関係.	北日本病虫年報 1: 56. (講要)
成田武四	1950	馬鈴薯輪腐病 ―昭和23年度調査成績.	日植病報 14(1・2): 41.(講要)
成田武四・安藤 隆	1951	切断刀並に切断後の種薯消毒による馬鈴薯輪腐病防除試験成績.	日植病報 15(2): 80.(講要)
成田武四・永田利男・春貫紀男	1952	馬鈴薯輪腐病と馬鈴薯品種との関係について.	日植病報 16(1): 29-30.(講要)
成田武四・四方英四郎	1952	馬鈴薯輪腐病菌及び馬鈴薯青枯病菌の電子顕微鏡による映像について.	日植病報 16(1): 45.(講要)
成田武四・櫻井 清	1954	ハリガネムシによる馬鈴薯輪腐病の伝染.	北日本病虫年報 5: 96-97.(講要)
成田武四・田中一郎	1954	馬鈴薯萎凋性病害に関する調査研究 II 北海道における馬鈴薯輪腐病に関する調査研究.	北海道立農試報告 6: 1-116.
成田武四・森 芳夫	1954	“馬鈴薯輪腐病はなぜ根絶できないか”.	北農 21(4): 101-108.
成田武四・田中一郎	1954	北海道に於ける馬鈴薯輪腐病に関する調査研究.	北海道立農試報告 6: 1-116.
成田武四	1958	北海道に於ける馬鈴薯細菌病に関する研究.	北海道立農試報告 8: 1-80.
坂口又輔	1946	馬鈴薯 “Ring rot disease” に関する調査.	横浜植物検疫所調査報告 1: 1-39.
繁村 親	1949	ジャガイモの輪腐れ防ぎ.	農業毎日 3(8): 28-
田中一郎・成田武四	1948	馬鈴薯輪腐病 (リング・ロット病).	北農 15(6): 139-148., 北海道農試時報 224: 1-10.
田中一郎・成田武四	1949	馬鈴薯輪腐病に関する調査研究(昭和23年度成績概要).	北薯連資料 No.3: 1-18.
田中一郎	1950	馬鈴薯輪腐病の輸入経路に就て.	日植病報 14(1・2): 41-42.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
田中一郎・成田武四・安藤 隆	1950	馬鈴薯輪腐病に関する調査研究（其の二）昭和24年度成績報告.	北薯連資料 No.11: 1-25.
田中一郎・成田武四	1954	北海道に於ける馬鈴薯輪腐病の発生状況.	日植病報 18(3・4): 186.(講要)
田杉平司	1948	馬鈴薯の新病害輪腐病. (甘藷馬鈴薯特輯)	農業 795: 10-18.
田杉平司	1949	馬鈴薯の輪腐病と防除法.	農及園 24(2): 128-132.
田杉平司	1950	“馬鈴薯の新病害 一輪腐病, 黒脚病, 凋萎病, 炭疽病”, 「いも類の新病害と防除」(堀 正侃 編).	朝倉書店, 東京, pp.98-124.
田杉平司・向 秀夫・土屋行夫・草葉敏彦	1950	馬鈴薯輪腐病病原細菌の熱に対する抵抗力 1. 病原細菌を浮遊させた溶液の各種成分並に水素イオン濃度の影響.	日植病報 14: 112-113.(講要)
田杉平司	1950	再び馬鈴薯輪腐病の警戒に就て.	農業技術研究 4(2): 8-10.
田杉平司・田部 眞・小林 裕	1952	馬鈴薯種薯の温湯処理に関する研究.	日植病報 17(1): 46.(講要)
田杉平司・田部 眞	1952	馬鈴薯輪腐病防除に関する研究 (1) 馬鈴薯種薯品種間に見られる熱傳導の差異について(豫報).	北日本病虫年報 3: 68-69.(講要)
田杉平司	1954	馬鈴薯輪腐病罹病薯の温湯消毒について.	植防 8(1): 23-30.
田杉平司・田部 眞	1954	馬鈴薯輪腐病グラム氏染色検定法の一試案.	北日本病虫年報 5: 97-98.(講要)
栃内吉彦	1949	馬鈴薯輪腐病々原細菌の学名に就いて.	日植病報 13(3・4): 43-44.
徳永芳雄	1950	馬鈴薯輪腐病の診断について.	東北農業 4(2): 23-26.
徳永芳雄	1951	馬鈴薯茎に於ける輪腐病菌の分布について.	日植病報 15(2): 89.(講要)
山田 濟	1952	秋作馬鈴薯の栽培と輪腐病防除対策.	蔬菜 2(1): 16-19.

622 そうか病

秋野聖之・小木曾久志・生越 明	1993	ジャガイモそうか病菌の分泌型エステラーゼ (第1報).	日植病報 59(6): 774.(講要)
秋野聖之・前田征之・小倉玲奈	1998	“金属イオン, pH低下によるそうか病菌増殖抑制の解明”, 土壤改良資材によるジャガイモそうか病対策の現地実証試験.	北農フロンティア研年報 9: 59-63.
秋野聖之	1998	西洋わさびなどによるジャガイモそうか病防除に関する試験.	北農フロンティア研年報 9: 69-70.
秋野聖之・前田征之・小倉玲奈	1999	“金属イオン, pH低下によるジャガイモそうか病菌増殖抑制の解明”, ジャガイモそうか病., 土壤改良資材処理によるジャガイモそうか病対策. [畑作土壤病害対策への挑戦]	北農フロンティア研会報 II: 92-97.
青木一美・渡邊 健	2011	ジャガイモそうか病の耕種的防除.	関東東山病害虫研報 58: 23-24.
青木一美・渡邊 健	2011	ジャガイモそうか病の耕種的防除.	関東東山病害虫研報 58: 111.(講要)
安住純一・谷井昭夫・酒井隆太郎・尾崎政春	1982	ジャガイモそうか病の病原菌, 地理的分布と土壤条件.	日植病報 48(1): 128.(講要)
Cao, Z., Khodakaramian, G., Arakawa, K. and Kinashi, H.	2012	Isolation of borrelidin as a phytotoxic compound from a potato pathogenic <i>Streptomyces</i> strain.	Biosci. Biotechnol. Biochem. 76(2): 353-357.
土居晃郎	1996	(9-1) ジャガイモそうか病菌の産生する植物毒素の検討. (9.土壤病害)	土肥要旨集 42: 64.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
土居晃郎	1998	(7-5) ジャガイモそうか病菌毒素による体細胞変異体の抵抗性選抜. (7. 土壤病害)	土肥要旨集 44: 51. (講要)
藤田昭三・吉田穂積・三 口 雅	1999	“ジャガイモそうか病に対する土壤改良資材の機械施用”, ジャガイモそうか病., 土壤改良資材処理によるジャガイモそうか病対策. [畑作土壤病害対策への挑戦]	北農フロンティア研会報 II: 117-123.
藤田耕朗・村上正雄	1981	ジャガイモそうか病に対する防除薬剤.	関東東山病虫年報 28: 37.
船戸知樹	2014	ヤマカワプログラムを普及センターが試験ジャガイモそうか病はたしかに減った.	現代農業 93(3): 182-187.
船越建明	1975	土盛水分の多少がバレイショ瘡痂病の発病に及ぼす影響 (予報).	園学要旨. 昭50秋: 272-273. (講要)
船越建明・松浦謙吉	1978	バレイショそうか病の耕種的防除法に関する研究 (第1報).	広島農試報告40: 73-80.
船越建明・松浦謙吉	1983	バレイショそうか病の耕種的防除法に関する研究 第2報 完熟堆肥と硫黄華の併用による発病抑制効果.	広島農試報告46: 63-70.
蒲生宣郷・中村誠人・古川 勲・前川政男	1972	ジャガイモ象皮病の発生と分布について.	九州病虫研報 18: 108-111.
後藤逸男・大竹真澄・大原一男	2001	(7-2) ジャガイモそうか病の発病に及ぼす施肥リン酸の影響 (その1) 長崎県南高来郡地域の土壤診断. (7. 土壤病害)	土肥要旨集 47: 46. (講要)
五島一成・坂本耕一・宮崎 孝・直田朝子	1979	馬れいしょのそうか病抵抗性要因に関する調査 第2報 塊茎肥大に伴う糖含量及び組成の変化.	九州農業研究 41: 111.
Goto, K.	1985	Relationships between soil pH, available calcium and prevalence of potato scab.	Soil Sci. Plant Nutri. 31(3): 411-418.
Goto, K.	1985	The relative importance of precipitation and sugar content in potato peel for the detection of the incidence of common scab (<i>Streptomyces scabies</i>).	Soil Sci. Plant Nutri. 31(3): 419-425.
五島一成	1991	茎葉中の代謝成分を指標とする土壤病害感染の早期診断 (第1報) 馬鈴薯茎葉中のグリコアルカイド.	佐世保工業高専研報 28: 55-62.
五島一成	1992	(18) 茎葉中の代謝成分を指標とする土壤病害感染の早期診断 第1報 馬鈴薯茎葉中のグリコアルカロイド.	土肥要旨集 38: 360. (九州支部講要, その2)
後藤孝雄・広谷 弘	1991	ジャガイモそうか病に対する有機質資材施用の発生抑制効果.	九州病虫研報 37: 217. (講要)
後藤孝雄・小村国則・中村吉秀・大西 昇	1992	ばれいしょマイクロチューバーのそうか病に対する抵抗性.	日植病報 58(1): 109. (講要)
後藤孝雄・中村吉秀	1992	ジャガイモそうか病の発生に及ぼす肥料成分の影響.	九州病虫研報 38: 13-15.
後藤孝雄・中村吉秀	1992	ジャガイモそうか病に対する品種・系統の圃場抵抗性検定法.	九州病虫研報 38: 201-202. (講要)
後藤孝雄・小村国則・中村吉秀・大西 昇	1992	ばれいしょマイクロチューバーにおけるそうか病の発生.	九州農業研究 54: 83.
後藤孝雄・中村吉秀	1993	植物性有機質施用によるジャガイモそうか病の防除.	日植病報 59(6): 720-721. (講要)
群馬農試	1925	馬鈴薯痂皮病(粗皮病)豫防試験.	病蟲雑 12(11): 641-643.
群馬農試	1927	馬鈴薯痂皮病に對する種子薯消毒試験.	群馬農試業功(大正15年度): 155.
花岡伸光・森 義雄・吉田穂積	1997	“土壤改良資材によるジャガイモそうか病対策の現地実証試験(網走管内)”, 土壤改良資材処理によるジャガイモそうか病対策試験.	北農フロンティア研年報 8: 62-67.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
花岡伸光・森 義雄・吉田穂積	1998	土壌改良材によるジャガイモそうか病対策現地実証(網走管内).	北農フロンティア研年報 9: 49-53.
橋詰直美・牛木 純・早川嘉彦・梅村芳樹・但野利秋	1996	1. サツマイモ前作によるジャガイモそうか病制御の可能性.	土肥要旨集 42: 283. (北海道支部講要)
早川嘉彦	1993	ジャガイモそうか病に対する植物由来抗菌性物質.	北農フロンティア研年報 4: 53-55.
早川嘉彦・牛木 純	1996	“根圏効果によるジャガイモそうか病防除の可能性の検討”, ジャガイモそうか病に対するノラフウロなどの植物の効果的利用法.	北農フロンティア研年報 7: 43-48.
早川嘉彦	1999	“根圏効果によるジャガイモそうか病防除の可能性”, ジャガイモそうか病., ジャガイモそうか病に対するノラフウロなどの植物の効果的利用法. [畑作土壌病害対策への挑戦]	北農フロンティア研年報 II: 66-69.
Hayashida, S., Choi, M-Y., Nanri, N., Nanri, N. and Miyaguchi, M.	1988	Production of potato common scab-antagonistic biofertilizer from swine feces with <i>Streptomyces albidoflavus</i> .	Agric. Biol. Chem. 52(10): 2397-2402.
Hayashida, S., Choi, M-Y., Nanri, N., Yokoyama, M. and Uematsu T.	1989	Control of potato common scab with an antibiotic biofertilizer produced from swine feces containing <i>Streptomyces albidoflavus</i> CH-33.	Agric. Biol. Chem. 53(2): 349-354.
北海道農試	1911	馬鈴薯粗皮病ト肥料トノ関係試験.	報告 11: 41-45.
北海道農試	1921	馬鈴薯粗皮病豫防試験.	北海道農試業功(明治43年度), p.20.
北海道農試	1921	馬鈴薯粗皮病豫防試験.	北海道農試報告 11: 41-45.
北海道農試	1921	馬鈴薯粗皮病豫防試験.	病蟲雑 8(12): 627-629.
北海道農試	1922	馬鈴薯粗皮病豫防試験.	病蟲雑 9(8): 446-448.
北海道農試	1922	馬鈴薯粗皮病豫防試験.	病蟲雑 9(12): 446-448.
堀川美穂・野呂忠秀・亀井勇統	1996	ジャガイモそうか病菌に対する紅藻類ミツデソゾ由来抗菌物質と既知農薬との活性比較.	海と台地(佐賀大学海浜台地生物生産研究センター報告書) 4: 17-21.
堀田治邦・佐藤 守・竹内 徹・谷井昭夫	1988	ジャガイモそうか病菌拮抗細菌の抗菌力を失いやすい非蛍光 <i>Pseudomonas</i> 菌群について.	日植病報 54(1): 115.(講要)
池田哲哉	1916	馬鈴薯瘡痂病豫防としての硫黄華.	病蟲雑 3(3): 180-182.
今地大志郎・谷 祥二・前田征之・内藤繁男	2005	拮抗性 <i>Streptomyces</i> sp.と紙筒移植栽培法の併用によるジャガイモそうか病の軽減効果.	日植病報 71(3): 302.(講要)
猪野 誠	1985	ジャガイモ亀の甲症の発生と土壌pH及び土壌水分との関係.	関東東山病虫年報 32: 65.
猪野 誠・屋敷隆士	1987	ジャガイモ亀の甲症の発生に及ぼす気象および土壌環境の影響.	千葉農試研報 28: 97-107.
石島 嶺・西崎泰博・栢村鶴雄	1986	桑園転換畑におけるジャガイモ塊茎表皮異常症状の多発とこれに関連した2~3要因.	九州病虫研報 32: 28-33.
伊藤誠哉	1921	馬鈴薯粗皮病豫防試験.	北海道農事試報告 11: 41-44.
伊藤知範・中村まゆみ・小松輝行・吉田穂積	2003	コムギ跡圃場における特殊施肥法によるジャガイモそうか病発病抑制効果への影響.	日植病報 69(3): 283.(講要)
和泉勝一・野島秀伸	1997	奄美地域におけるジャガイモそうか病の発生実態.	九州病虫研報 43: 130.(講要)
角間文雄	1979	ジャガイモそうか病種いもの液剤による消毒法.	北日本病虫研報 30: 88.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
香川晴彦・猪野 誠・村田明夫	1988	ジャガイモ亀の甲症に対するクロロピクリン剤のマルチ畦内処理による防除.	関東東山病虫年報 35: 38-39.
香川晴彦	1988	ジャガイモ亀の甲症の発生とその防除.	農及園 63(9): 1077-1080.
香川晴彦・保坂清美	1990	かん水によるジャガイモ亀の甲症の発病軽減効果.	日植病報 56(3): 403.(講要)
香川晴彦・保坂清美	1991	かん水及びマルチ除去によるジャガイモ亀の甲症の防除.	関東東山病虫年報 38: 53-54.
影山亜紀子・蔵田信也・小山 修・山田一隆・高津京子・横幕豊一・鎌形洋一・金川貴博	2002	QP-PCR法を応用したリアルタイム競合的PCR法による土壌中のジャガイモそうか病原遺伝子(Nec1遺伝子)の検出定量.	土と微生物 56(2): 140.(講要)
金澤晋二郎・小山 修・阿紀雅敏	2007	(6-3) ジャガイモそうか病菌汚染残渣の“超高温・好気発酵法”による新病原菌フリー堆肥化技術. (6.土壌生物)	土肥要旨集 53: 36.(講要)
笠井幹夫	1921	馬鈴薯痂皮病の豫防薬としての接種硫黄と不接種硫黄の比較価値.	病蟲雜 8(4): 227-229.
笠井幹夫	1927	馬鈴薯の痂皮病に就ての知見(上).	岡山縣農會報「農家の友」354: 23-33.
笠井幹夫	1927	馬鈴薯の痂皮病に就ての知見(下).	岡山縣農會報「農家の友」355: 51-56.
菊池健太郎・館野 司・久保 花・眞鍋佳代・根岸寛光・松山宣明・陶山一雄・吉田穂積	2008	薄層クロマトグラフィー法を用いた日本国内におけるジャガイモそうか病菌種の分布について.	日植病報 74(3): 264.(講要)
菊池健太郎・小林輝和・田中 拡・清水裕貴・三谷生雄・吉田穂積	2009	リン酸・カリウム肥料の無施肥によるジャガイモそうか病発病への影響.	日植病報 75(3): 277.(講要)
菊池健太郎・眞鍋佳世・田川雅弘・玉木秀幸・吉田穂積	2010	薄層クロマトグラフィー(TLC)法によるジャガイモそうか病菌種簡易同定法の有効性について.	日植病報 76(3): 213.(講要)
菊池健太郎・小林泰介・吉田穂積	2011	ジャガイモそうか病斑からのジャガイモそうか病菌の効率的な分離方法の検討.	日植病報 77(3): 247.(講要)
菊池健太郎・小林輝和・田中 拡・池田拓真・中丸康夫・伊藤博武・笠島真也・吉田穂積	2012	淡色黒ボク土壌におけるリン酸・カリウム無施肥がバレイショの生育と収量及びジャガイモそうか病に与える影響.	日作紀 81(4): 404-413.
木村貞夫・前川政男	1972	ジャガイモ象皮病について.	九州病虫研報 18: 106-108.
木村貞夫	1974	植物放射状菌病に関する研究(第1報) <i>Streptomyces</i> sp. によるジャガイモの新病害.	日植病報 40(3): 201.(講要)
木村貞夫	1975	ジャガイモ象皮病に関する研究 第1報 病原について.	長崎総合農試研報(農業) 3: 32-47.
木村貞夫	1975	植物放線菌病に関する研究(第2報) ジャガイモ象皮病とRusset scabの比較.	日植病報 42(2): 362.(講要)
木村貞夫	1976	ジャガイモ象皮病の病原と発生生態.	九州病虫研報 22: 51-54.
木村貞夫	1979	ジャガイモそうか病と象皮病に関する最近の知見.	植防 33(12): 554-559.
北山隆三・古川栄一・玉川和良・鎌田健造・蝦名春三	1991	バレイショ畑における土壌改良と収量及びそうか病の発生.	東北農業研究 44: 139-140.
小林 晃・内藤繁男・高田明子・津田昌五・森元孝	1999	ジャガイモそうか病抵抗性品種の圃場選抜.	日植病報 65(6): 695-696.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Kobayashi, A., Naito, S., Kobayashi, Y.O., Tsuda, S., Ohara-Takada A. and Mori, M.	2005	Precise, simple screening for resistance in potato varieties to common scab using paper pots.	J.Gen.Plant Pathol. 71(2): 139-143.
小林 晃・小林有紀・前田征之・竹中重仁	2008	土壌中におけるジャガイモそうか病菌と生物防除微生物の菌量の推移.	日植病報 74(3): 277.(講要)
小林 晃・小林有紀	2010	ジャガイモ根圏域におけるジャガイモそうか病菌量の推移.	日植病報 76(3): 212-213.(講要)
小林 晃・小林有紀・池田成志	2011	土壌からのDNA抽出法およびジャガイモそうか病菌定量法の改良.	日植病報 77(3): 247-248.(講要)
小林 晃・小林有紀・染谷信孝・池田成志	2012	ジャガイモそうか病に対する抵抗性レベルの異なるジャガイモ8品種間における根および塊茎関連最近群集の構造比較.	日植病報 78(3): 287-288.(講要)
小林有紀・小林 晃・前田征之・竹中重任	2006	ジャガイモそうか病に対する生物防除微生物の探索.	日植病報 72(4): 269.(講要)
小林有紀・小林 晃・前田征之・竹中重任	2008	土壌中におけるジャガイモそうか病菌と生物防除微生物の菌量の推移.	日植病報 74(3): 271-278.(講要)
小林有紀・小林 晃・前田征之・竹中重任	2008	ジャガイモそうか病に対する生物防除微生物の発病抑制.	日植病報 74(3): 277.(講要)
小林有紀・小林 晃・染谷信孝	2010	<i>Streptomyces</i> 属放線菌によるジャガイモそうか病の発病抑制.	日植病報 76(1): 77-78.(講要)
小林有紀・小林 晃・染谷信孝・池田成志	2011	ジャガイモそうか病抵抗性程度の異なるジャガイモ品種間における根及び塊茎関連細菌群集の構造比較.	日植病報 77(3): 248.(講要)
Kobayashi, Y.O., Kobayashi, A., Maeda, M. and Kakenaka, S.	2012	Isolation of antagonistic <i>Streptomyces</i> sp. against a potato scab pathogen from a field with wild oat.	J.Gen.Plant Pathol. 78(1): 62-72.
小林有紀・小林 晃・副島 洋	2014	拮抗微生物と耕種的防除法を組合せたジャガイモそうか病抑制.	日植病報 80(4): 287.(講要)
Kobayashi, Y.O., Kobayashi, A. and Maeda, M.	2015	Biological control of potato scab and antibiosis by antagonistic <i>Streptomyces</i> sp. WoRs-501.	J. Gen. Plant Pathl. 81(6): 439-448.
近藤鉄馬	1925	馬鈴薯瘡皮豫防の一実験例.	日園雑 37(10): 10-15.
小山 修	2009	土壌診断と拮抗微生物によるジャガイモそうか病防除技術.	土と微生物 63(2): 84-88.
小宮真由美・小柳文恵・川出 洋・安部 浩・田代暢哉・夏目雅裕	2003	(A307) ジャガイモ亀の甲病菌 <i>Streptomyces cheloniumii</i> の生産する植物毒素.	日本農薬学会講要集 28th: 51.(講要)
熊本農試	1938	馬鈴薯瘡痂病豫防竝に解病性品種試験.	熊本農試功程(昭和13).
桑田博隆・島田慶世・鷺尾貞夫・千葉末作	1983	青森県内のジャガイモに発生したそうか病及び象皮病類似症状について.	北日本病虫研報 34: 143.(講要)
教育農芸編集部	1933	馬鈴薯の瘡痂病(三月の病害虫).	教育農芸 2: 411.
Toth Laszlo・小木曾久志・秋野聖之・小林喜六・生越 明	1996	ジャガイモそうか病斑から分離した <i>Streptomyces</i> 菌株の性質.(土壌微生物研究会1996年度講要)	土と微生物 48: 45.(講要)
前田征之・田中文夫・秋野聖之・小林喜六・生越 明	1999	ジャガイモそうか病菌 <i>Streptomyces scabies</i> に対するモノクローナル抗体作製	日植病報 65(3): 361.(講要)
前田征之・副島 洋・佐久間 太・橋爪 健・内藤繁男	2002	オートブランを用いたジャガイモそうか病菌 <i>Streptomyces</i> spp. の生産する Thaxtomin A の定量.	日植病報 68(1): 103-104.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
孫工弥寿雄・喜多孝一	1976	水利用による土壌病害防除に関する研究 2. ジャガイモそうか病の病土に対する土 壌水分調節と発病防止効果.	日植病報 42(3): 337-338.(講 要)
孫工弥寿雄・喜多孝一	1977	ジャガイモそうか病菌の接種条件と発病.	日植病報 43(1): 117.(講要)
孫工弥寿雄・喜多孝一	1977	ジャガイモそうか病の病土に対するかん がい調節時期,調節深と防除効果.	九州病虫研報 23: 64-65.
牧野孝宏・山田寅好・ 大橋義弘	1979	静岡県におけるジャガイモそうか病の発 生状況.	日植病報 45(4): 559.(講要)
牧野孝宏	1980	静岡県におけるジャガイモそうか病, 粉状 そうか病対策の現状.	植防 34(4): 160-163.
眞鍋佳世・松山宣明・ 大小原眞希子・根岸寛 光・田代暢哉	2003	ジャガイモそうか病菌の簡易識別に関す る研究.	日植病報 69(3): 308-309.(講 要)
眞鍋佳代・田代暢哉・ 根岸寛光・陶山一雄・ 松山宣明	2004	ジャガイモそうか病菌の簡易識別に関す る研究: 蛍光物質を指標とした識別.	日植病報 70(3): 285. (講要)
眞鍋佳世・田代暢哉・ 根岸寛光・陶山一雄・ 松山宣明	2005	二次代謝産物を指標にした3種のジャガ イモそうか病菌のTLC法による簡易識別.	日植病報 71(1): 6-10.
馬目 章・蔵田信也・小 山 修・高津京子・横幕 豊一・金川貴博・鎌形 洋一	2003	Real-time competitive PCR法による土壌 からのそうか病原遺伝子(nec1遺伝子) の検出定量.	土と微生物 57(2): 135.(講要)
松本和夫・石井正義	1977	ジャガイモそうか病菌の胞子形成培地と 菌の保存法.	日植病報 43(1): 91-92.(講要)
松本和夫	1979	ジャガイモそうか病菌の胞子形成培地と 菌の長期保存法.	植防 33(10): 461-463.
松本みゆき・大城 篤・ 安部 浩・夏目雅裕	2000	植物病原放線菌ジャガイモそうか病菌に 対する気菌糸形成阻害物質の探索.	農化 74(別): 211.(講要)
松本みゆき・安部 浩・ 夏目雅裕	2001	C-320 植物病原放線菌ジャガイモそうか 病菌の気菌糸形成と毒素生産に対する 抗生物質の影響.	日本農薬学会講要集 26th: 156.(講要)
三口雅人・鈴木裕志・ 森 義雄	1996	“土壌改良資材によるジャガイモそうか病 対策の現地実証試験”, 土壌改良資材に よるジャガイモそうか病対策試験.	北農フロンティア研年報 7: 69- 71.
三口雅人・梶 孝幸・森 義雄	1997	“土壌改良資材によるジャガイモそうか病 対策の現地実証試験 (十勝管内)”, 土壌 改良資材処理によるジャガイモそうか病 対策試験.	北農フロンティア研年報 8: 59- 61.
三口雅人・梶 孝幸・森 義雄	1998	土壌改良資材によるジャガイモそうか病 対策の現地実証試験 (十勝管内).	北農フロンティア研年報 9: 47- 48.
三口雅人・梶 孝幸・森 義雄	1999	“硫安,硫酸第一鉄施用後作圃の調査”, 土壌改良資材によるジャガイモそうか病 対策.	北農フロンティア研年報 10: 51-56.
三口雅人・梶 孝幸・花 岡伸光	1999	“ジャガイモそうか病に対する土壌改良資 材の用法とその効果”, ジャガイモそう か病. 土壌改良資材処理によるジャガイ モそうか病対策. [畑作土壌病害対策へ の挑戦]	北農フロンティア研会報 II: 107-116.
三口雅人・梶 孝幸	1999	“硫安,硫酸第一鉄の施用量とpHの推移 および後作への影響”, ジャガイモそうか 病. 土壌改良資材処理によるジャガイモ そうか病対策. [畑作土壌病害対策への 挑戦]	北農フロンティア研会報 II: 124-126.
美濃健一・西脇由恵	1999	<i>Streptomyces scabies</i> によるジャガイモそう か病に対する灌水と土壌酸度調整資材 施用の発生抑制効果.	日植病報 65(6): 696.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
美濃健一・西脇由恵	2001	土壌酸度調整と灌水によるジャガイモそうか病 (<i>Streptomyces scabies</i>) の抑制.	北海道立農試集報 80: 73-76.
美濃羊輔・引地幸代・前田征之・金子知央・工・秋山直樹・山本紳朗	1995	2-ハイドロキシ-3-イオネクロライドのジャガイモそうか病菌に対する殺菌効果.	帯大研報(自然科学) 19(3): 137-142.
三星暢公・金澤 恵・紀岡雄三・野口勝憲・富濱 毅・福吉賢三・池田成志	2015	大麦発酵エキスの施用がジャガイモそうか病の発病に及ぼす影響.	土と微生物 69(2): 107. (講要)
宮城農試	1938	馬鈴薯瘡痂病豫試験.	宮城農試業功(昭和13).
宮島邦之・田中文夫	1994	高タンパク質資材の土壌施用によるジャガイモそうか病防除効果.	日植病報 60(6): 796. (講要)
宮島邦之・田中文夫・阿部秀夫・相馬 潤	1995	施用量・位置を異にする高タンパク質資材のジャガイモそうか病抑制効果.	日植病報. 61(6): 648. (講要)
宮川孝之	1956	馬鈴薯瘡痂病抵抗性の新検定法.	農及園 31(8): 1112.
宮崎農試	1921	馬鈴薯痂紋病被害種薯消毒試験.	病蟲雑 8(10): 517.
宮崎農試	1926	馬鈴薯痂紋病對種薯消毒試験.	宮崎農試業功(大正14年度), p.135.
宮崎農試	1928	馬鈴薯瘡痂病に對する種子薯消毒試験.	宮崎農試業功(大正15年度), p.102.
水野直治・吉田穂積・山田武志	1994	(2-3) ジャガイモそうか病発生に対する可溶性ケイ酸の影響. (2. 土壌有機および無機成分)	土肥要旨集 40: 12. (講要)
水野直治・吉田穂積	1994	土壌pH, 置換酸度y1とバレイショそうか病との相互関係.	土肥誌 65(1): 27-33.
水野直治・吉田穂積	1994	土壌pH, 置換酸度y1とバレイショそうか病との相互関係.	土肥誌 65(1): 27-33.
水野直治・吉田穂積・山本和宏	1995	ジャガイモそうか病菌発生に対するイオン強度および施肥法の影響.	土肥誌 66(6): 639-645.
水野直治・吉田穂積・山本和広・平田伸治	1995	(2-4) ジャガイモそうか病発生に対するイオン強度の影響. (2. 土壌有機・無機化学)	土肥要旨集 41: 8. (講要)
水野直治・吉田穂積	1995	(42) 施肥改善によるジャガイモそうか病の防除法.	土肥要旨集 41: 285. (北海道支部講要)
水野直治・吉田穂積・牛木 純・橋詰直美・但野利秋	1996	(2) 施肥法によるジャガイモそうか病の制御.	土肥要旨集 42: 283. (北海道支部講要)
水野直治・吉田穂積・牛木 純・但野利秋	1997	(7-1) ジャガイモそうか病に対する施肥法の影響. (7. 土壌病害)	土肥要旨集 43: 56. (講要)
水野直治・上村昌樹・吉田穂積・但野利秋	1997	(2) ジャガイモそうか病防除に対する緩効性肥料の効果.	土肥要旨集 43: 293. (北海道支部講要)
水野直治・吉田穂積・牛木 純・但野利秋	1997	アロフェン質黒ボク土におけるジャガイモそうか病発生に対する施肥法の影響.	土肥誌 68(6): 686-689.
Mizuno, N., Yoshida, H., Nanzyo, M. and Tadano, T.	1998	Chemical characterization of conducive and suppressive soils for potato scab in Hokkaido, Japan.	Soil Sci. Plant Nutri. 44(3): 289-295.
Mizuno, N., Nizamidin, K., Yoshida, H., Nanzyo, M. and Tadano, T.	1998	Effects of deep plowing and "cutting and banking" practice on the concentration of water-soluble aluminum and allophane content in Andosols: Implication for recent incidence of potato common scab in Abashiri area.	Soil Sci. Plant Nutri. 44(4): 571-578.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Mizuno, N., Yoshida, H. and Tadano, T.	2000	Efficacy of single application ammonium sulfate in suppressing potato common scab.	Soil Sci. Plant Nutri. 46(3): 611-616.
水野直治・吉田穂積・小松輝行	2000	(7-4) 特殊施肥法によるジャガイモそうか病防除に対するN用量と前作の影響. (7. 土壌病害)	土肥要旨集 46: 50. (講要)
水野直治	2001	(技-2) 土壌特性に基づくジャガイモそうか病の防除法に関する研究. (日本土壌肥料学会技術賞)	土肥要旨集 47: 265. (講要)
水野直治	2001	土壌特性に基づくジャガイモそうか病の防除法に関する研究.	土肥誌 72(3): 327-330.
水野直治・庫爾斑 尼札米丁・南條正巳・吉田穂積・天野洋司	2003	粘土鉱物からのジャガイモそうか病多発地帯の予測法と病害の土壌化学的防除法.	土と微生物 57(2): 97-103.
水野直治	2004	施肥法によるジャガイモそうか病の防除新技術.	肥料 97: 38-42.
水野直治	2015	ジャガイモそうか病 (<i>Streptomyces scabies</i>) 多発土壌の特性とその対策法 (1).	農及園 90(12): 1216-1228.
水野直治	2016	ジャガイモそうか病 (<i>Streptomyces scabies</i>) 多発土壌の特性とその対策法 (2).	農及園 91(1): 52-62.
水沢芳次郎	1930	馬鈴薯の瘡痂病に就て (1).	農及園 5(10): 1341-1350.
水沢芳次郎	1930	馬鈴薯の瘡痂病に就て (2).	農及園 5(11): 1511-1512.
桃野 寛・森 義雄・鈴木 剛	1999	“ジャガイモの土壌改良資材畦間施用アタッチメントによる資材の混和精度に関する試験”, 土壌改良資材によるジャガイモそうか病対策.	北農フロンティア研年報 10: 41-45.
守屋明博	2010	ばれいしょの品種開発におけるジャガイモそうか病抵抗性の簡易検出法の開発.	日植病報 76(3): 240. (講要)
村松 茂・小長正夫	1935	馬鈴薯の瘡痂病に就て.	病蟲雑 22(8): 625-627.
長野農試	1916	馬鈴薯瘡痂病被害種薯消毒試験.	病蟲雑 3(12): 978-979.
長崎農試	1917	馬鈴薯瘡痂病豫防土壌消毒試験.	病蟲雑 4(12): 957.
長崎県北松浦郡立農試	1918	馬鈴薯瘡痂病豫防.	病蟲雑 5(6): 471-472.
長崎県北松浦郡立農試	1920	馬鈴薯痂皮病豫防試験.	病蟲雑 7(2): 117.
長瀉麻穂・Marja Aittamaa・Jari P.T. Valkonen・川出 洋・夏目雅裕	2009	スウェーデンで分離された <i>Streptomyces turgidiscabies</i> #65 の生産する植物毒素.	日植病報 75(3): 213-214. (講要)
長田大輔・畝沖真治・小松行・吉田穂積	2006	バレイショ苗移植栽培がジャガイモそうか病発病に及ぼす影響について.	日植病報 72(4): 269-270. (講要)
内藤繁男・牛木 純・加藤雅康・佐藤章夫	1997	ジャガイモそうか病菌の圃場接種方法の検討.	日植病報 63(6): 529. (講要)
内藤繁男・牛木 純	1998	“そうか病圃場抵抗性簡易検定法の開発”, ジャガイモそうか病抵抗性の早期世代検定・選抜法の開発.	北農フロンティア研年報 9: 32-37.
内藤繁男・加藤雅康・佐藤章夫	1998	紙筒移植栽培によるジャガイモそうか病の発病回避の可能性.	日植病報 64(6): 580. (講要)
内藤繁男・加藤雅康・佐藤章夫	1999	紙筒移植栽培によるジャガイモそうか病回避の機作.	日植病報 65(3): 366. (講要)
内藤繁男・小林 晃	1999	ジャガイモの紙筒苗移植によるそうか病抵抗性の簡易検定法.	日植病報 65(6): 695. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
内藤繁男・高橋賢司	1999	“ジャガイモそうか病小型病斑抵抗性の早期世代検定選抜法の開発 早期世代簡易検定法”, ジャガイモそうか病. ジャガイモそうか病の抵抗性検定法の開発と系統選抜.	北農フロンティア研究会報 II: 70-76.
内藤繁男・寺沢秀和・村井信仁	2000	紙筒移植栽培によるジャガイモそうか病の発病軽減効果に及ぼす紙質の影響.	土と微生物 54(2): 166.(講要)
内藤繁男	2005	総説:「馬鈴しょそうか病に関する国際シンポジウム(IPSS 2004)」から.	植防 59(5): 201-204.
内藤繁男・前田征之・谷 祥二・今地大志郎・秋野聖之・近藤則夫	2006	ジャガイモ果実を用いたジャガイモそうか病菌 <i>Streptomyces</i> spp.のthaxtomin A産生能の検定.	日植病報 72(3): 135-142.
仲川晃生・高木道信・菅 康弘・中村吉秀・迎田幸博	1997	植物性蛋白資材によるジャガイモそうか病の防除(第2報) 硫黄資材を用いた土壌pHの低下とそうか病の発生について.	日植病報 63(6): 480.(講要)
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博・高橋克典・永松良弘	1998	クロルピクリンくん蒸剤のジャガイモ植付前処理によるジャガイモそうか病の防除.	日植病報 64(6): 591.(講要)
仲川晃生・中村吉秀・迎田幸博・菅 康弘	1999	湛水によるジャガイモそうか病の発生抑制効果.	日植病報 65(3): 366.(講要)
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博	1999	植物性蛋白資材によるジャガイモそうか病の防除 第3報 蛋白資材と米糠を同時処理した場合の効果.	日植病報 65(6): 645.(講要)
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博・鈴木源士・長嶋 協	2000	ジャガイモそうか病に対する生物的防除技術の開発 第2報 <i>Trichoderma virens</i> のジャガイモそうか病防除効果.	日植病報 66(2): 188.(講要)
仲川晃生・伊豆 進・菅 康弘・迎田幸博	2000	暖地におけるジャガイモ紙筒移植栽培によるそうか病防除効果.	日植病報 66(3): 275-276.(講要)
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博	2000	ジャガイモそうか病に対する生物的防除技術の開発 第1報 クロルピクリン剤処理後の土壌中におけるトリコデルマ属菌の高頻度分離.	九州病虫研報 46: 144-145.(講要)
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博・伊豆 進	2000	ジャガイモそうか病に対する生物的防除技術の開発 第3報 実用防除を目的としたトリコデルマ資材の作出.	土と微生物 54(2): 167.(講要)
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博	2001	カーバムナトリウム塩液剤のジャガイモそうか病防除効果.	関東東山病虫研報 48: 13-17.
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博	2002	有機質資材の利用によるジャガイモそうか病の防除.	関東東山病虫研報 49: 19-22.
仲川晃生・高木道信・菅 康弘・中村吉秀・迎田幸博	2002	ジャガイモそうか病の発生に及ぼす硫黄資材の効果.	九州病虫研報 48: 18-23.
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博	2002	暖地二期作条件下における紙筒移植栽培によるジャガイモそうか病防除効果.	九州病虫研報 48: 24-27.
仲川晃生	2003	暖地二期作栽培でのバレイショのそうか病に対する省農薬環境保全型防疫技術.	農業技術 58(7): 303-306.
仲川晃生	2003	環境と調和したジャガイモそうか病防除技術の構築.	土と微生物 57(2): 87-95.
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博・大司さえき・和泉勝一・福永 求	2003	暖地二期作条件下における土壌くん蒸剤の年間1回処理とジャガイモそうか病発生程度との関係について.	九州病虫研報 49: 13-18.
仲川晃生・菅 康弘・迎田幸博	2005	薬剤の少量処理によるジャガイモそうか病の防除.	関東東山病害虫研報 52: 119.(講要)
仲川晃生・中村吉秀・菅 康弘・迎田幸博	2006	土壌の湛水化がジャガイモそうか病の発生に及ぼす影響.	関東東山病害虫研報 53: 23-28.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
仲川晃生・越智 直・東美佐夫・中江康仁	2008	海藻抽出液を用いたジャガイモそうか病種いも伝染防止効果.	土と微生物 62(2): 114. (講要)
仲川晃生・東 美佐夫・中江康仁・亀井勇統・福元彰一	2007	海藻ソノハナのジャガイモそうか病防除効果.	土と微生物 61(2): 170. (講要)
仲川晃生・越智 直・東美佐夫・中江康仁・福元彰一・原井雄二・亀井勇統	2009	南西諸島近海に分布する紅藻ソノハナを用いたジャガイモそうか病の防除.	関東東山病虫害研報 56: 33-38.
仲川晃生・越智 直・近藤彰宏	2010	ジャガイモ有機栽培条件下におけるそうか病・疫病の防除技術.	土と微生物 64(2): 144. (講要)
仲川晃生・越智 直・清水繁夫	2010	亜リン酸肥料の施用がジャガイモそうか病の発生に及ぼす影響について.	関東東山病虫害研報 57: 1-4.
仲川晃生	2012	ジャガイモ疫病防除剤の散布がそうか病の発生に及ぼす影響.	関東東山病虫害研報 59: 111-114.
仲川晃生	2013	各種有機物の鋤込みによるジャガイモそうか病の防除効果.	九州病虫研報 59: 114. (講要)
中村秀雄・加藤公彦・竹内常雄	1985	クロルピクリンのマルチ畦内消毒によるバレイショそうか病の防除.	関東東山病虫年報 32: 68-69.
中尾 敬・松崎守夫・濱口秀生・梅村芳樹	1996	異なる連作条件下でのばれいしょそうか病の発生.	育種・作物学会北海道談話会報 37: 132-133. (講要)
中山尊登・加藤邦彦・眞岡哲夫・滝澤秀樹・佐々木仁・井上 京	2013	伏流式ヨシ濾床人工湿地処理によるバレイショ澱粉工場廃液中のジャガイモそうか病菌 <i>Streptomyces turgidiscabies</i> の菌密度変化.	北日本病虫研報 64: 40-45.
Nanri, N., Gohda, Y., Ohno, M., Miyabe, K., Furukawa, K. and Hayashida, S.	1992	Growth promotion of fluorescent Pseudomonads and control of potato common scab in field soil with non-antibiotic Actinomycete-biofertilizer.	Biosci. Biotechnol. Biochem. 56(8): 1289-1292.
Natsume, M., Ryu, R. and Abe, H.	1996	Production of phytotoxins, concanamycins A and B by <i>Streptomyces</i> spp. causing potato scab.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 62(4): 411-413.
Natsume, M., Yamada, A., Tashiro, N. and Abe, H.	1998	Differential production of the phytotoxins thaxtomin A and concanamycins A and B by potato common scab-causing <i>Streptomyces</i> spp..	Ann. Phytopath. Soc. Japan 64(3): 202-204.
夏目雅裕・山田晃子・田代暢哉・安部 浩	1998	ジャガイモにそうか病を引き起こす <i>Streptomyces</i> 属菌によるthaxtomin Aと concanamycin AおよびBの生産.	日植病報 64(4): 376. (講要)
夏目雅裕・小宮真由美・小柳文恵・田代暢哉・川出 洋・安部 浩	2003	ジャガイモ亀の甲病菌の生産する植物毒素.	日植病報 69(3): 304. (講要)
Natsume, M., Ooshiro, A., Takahashi, T., Kokido, F., Hashimoto, M., Aoki, Y., Kawaide, H. and Abe, H.	2007	Isolation and structural properties of aerial mycelium differentiation-inhibitory substances against <i>Streptomyces scabiei</i> causing potato common scab.	J. Pesticide Sci. 32(2): 131-134.
根岸寛光・陶山一雄・藤井 溥	1987	ジャガイモそうか病の防除について.	東京農大網走寒冷地農場研報 4: 21-29.
根岸寛光・陶山一雄・藤井 溥	1989	ジャガイモそうか病研究の現状 (網走地方における防除試験に関連して).	東京農大網走寒冷地農場研報 5: 1-18.
根岸寛光・陶山一雄・吉田穂積	1996	種子塊茎の静電散布処理および有機資材の土壌混和によるジャガイモそうか病防除.	東京農大網走寒冷地農場研報 9: 49-55.
賛田裕行・林 宣夫	1982	ジャガイモそうか病防除試験.	関東東山病虫年報 29: 44.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
西 八束・野島秀伸・牟田辰朗	2003	ジャガイモそうか病の防除 ～生物的・物理的手法を利用した試み～.	土と微生物 57(2): 145.(講要)
西 八束・尾松直志	2006	銀担持ゼオライト剤の種いも消毒によるジャガイモそうか病の防除効果.	九州病虫研報 52: 24-27.
西 八束・尾松直志	2006	銀担持ゼオライト剤 (シードラック水和剤)の種いも消毒によるジャガイモそうか病の防除効果.	九州病虫研報 52: 85-86.(講要)
西 八束・鈴木文彦・尾松直志・田代暢哉	2007	鹿児島県におけるジャガイモそうか病の原因菌の調査.	日植病報 73(3): 277.(講要)
西 八束・鈴木文彦・尾松直志・田代暢哉	2008	ジャガイモそうか病菌における Pathogenicity Island (PAI)関連遺伝子の検出.	日植病報 74(1): 25.(講要)
西 八束・鈴木文彦・尾松直志・田代暢哉	2008	LAMP法によるジャガイモそうか病菌の Pathogenicity Island (PAI)関連遺伝子の検出.	日植病報 74(3): 257.(講要)
西 八束・鈴木文彦・尾松直志・田代暢哉	2009	ジャガイモそうか病菌の培地上における最高生育温度と酸性域における生育.	日植病報 75(1): 43.(講要)
西 八束・鈴木文彦・田代暢哉	2010	マイクロコロニーFISH 法によるジャガイモそうか病菌検出用培地の検討.	日植病報 76(1): 26.(講要)
西 八束・田布尾尚子	2010	ジャガイモそうか病菌の死滅温度条件と種いもの温度処理によるそうか病の防除効果.	日植病報 76(3): 181-182.(講要)
西 八束・中村正章・岩井 久	2012	鹿児島県内のジャガイモそうか病菌 <i>Streptomyces scabies</i> の比較について.	日植病報 78(3): 274.(講要)
西 八束・竹内 徹・鈴木文彦・菅 康弘・田代暢哉・中村正幸・岩井 久	2015	長崎県におけるジャガイモそうか病を引き起こす <i>Streptomyces</i> 属菌の分布.	日植病報 81(1): 22-31.
西 八束・中村正幸・岩井 久	2015	リアルタイム定量PCRと無底ポット栽培を利用したジャガイモそうか病菌の動態解析の試み.	日植病報 81(1): 32-42.
西 八束	2016	西南暖地のジャガイモ産地におけるそうか病菌の分布と低pH土壤中での菌の動態.	植防 70(6): 361-365.
西脇由恵・秋野聖之・生越 明	1993	ジャガイモそうか病菌アクチノファージの諸性質.	日植病報 59(1): 91-92.(講要)
西脇由恵・秋野聖之・生越 明	1996	ジャガイモそうか病発病土壌に存在するアクチノファージの宿主選択性.	土と微生物 47: 45-50.
小川哲治・佐山 亮・迎田幸博・松尾沢敬・内川敬介	2005	クロルピクリン剤深層土壌消毒によるジャガイモ土壌病害の省力防除.	日植病報 71(1): 27.(講要)
小川哲治・平田 憲	2013	ジャガイモそうか病防除における種いも消毒剤への展着剤の加用効果.	九州病虫研報 59: 114.(講要)
小木曾久志・秋野聖之・生越 明	1993	ジャガイモそうか病菌アクチノファージの諸性質 (第2報).	日植病報 59(6): 773-774.(講要)
小木曾久志・秋野聖之・ラスロート・生越 明	1995	ジャガイモそうか病菌アクチノファージの諸性質 (第3報).	日植病報 61(6): 648.(講要)
小倉玲奈・小木曾久志・秋野聖之・生越 明	1996	ジャガイモ圃場に存在するそうか病菌アクチノファージの生態と多様性.	土と微生物 48: 44.(講要)
小倉玲奈・小木曾久志・秋野聖之・生越 明	1998	北海道におけるジャガイモそうか病菌アクチノファージの分布とその宿主特異性.	日植病報 64(6): 580.(講要)
大原一男・榎本りぎん・後藤逸男	2001	(7-3) ジャガイモそうか病の発病に及ぼす施肥リン酸の影響 (その2) ーリン酸がそうか病菌の生育に及ぼす影響ー. (7.土壌病害)	土肥要旨集 47: 47.(講要)
大原一男・早川 孝・後藤逸男	2001	土壌病害対策用培土の開発 (その2) ジャガイモそうか病発病抑制培土.	土と微生物 55(2): 130.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
大分農試	1929	馬鈴薯瘡痂病豫防試験.	病蟲雑 16(7): 428.
岡山農試	1916	馬鈴薯瘡痂病豫防試験.	病蟲雑 3(11): 901-902.
岡山農試	1917	馬鈴薯病害に関する試験.	病蟲雑 4(12): 956-957.
岡山農試	1917	馬鈴薯瘡痂病豫防試験.	岡山農事試業功 (大正6).
岡山農試	1919	馬鈴薯痂皮病豫防試験.	病蟲雑 6(1): 74.
岡山農試	1920	馬鈴薯瘡痂病豫防試験.	病蟲雑 7(8): 479-480.
尾松直志・鳥越博明・ 外菌幸夫	2000	ジャガイモそうか病防除有機資材投入後 の土壤微生物相の変化.	九州病虫研報 46: 145.(講要)
尾松直志・池澤和広	2004	陽熱処理と米ぬか併用処理によるジャガイモ そうか病防除効果.	日植病報 70(1): 29.(講要)
大森 薫	1986	トリクラミドのジャガイモそうか病菌に対す る抗菌力.	日植病報 52(3): 513-514.(講 要)
大森 薫	1987	トリクラミドのジャガイモそうか病に対す る防除効果.	日植病報 53(1): 66.(講要)
大森 薫・陶山一雄・根 岸寛光・藤井 淳	1989	<i>Pseudomonas tolaasii</i> 814および <i>Bacillus</i> sp. KF-44のジャガイモそうか病に対す る防除効果 (第1報) 抗菌力および温室内 試験による防除効果.	日植病報 55(1): 125.(講要)
鬼木正臣・鈴木孝仁・ 園田亮一・荒木隆男・ 千葉恒夫	1984	ジャガイモの亀の甲症からの放線菌の分 離法.	日植病報 50(3): 395.(講要)
鬼木正臣・鈴木孝仁・ 園田亮一・荒木隆男・ 竹田富一	1984	ジャガイモの亀の甲症から分離される放 線菌とその病原性.	日植病報 50(3): 395.(講要)
鬼木正臣・鈴木孝仁・ 荒木隆男・園田亮一・ 千葉恒夫・竹田富一	1986	ジャガイモ亀の甲症の原因究明.	農環研報 2: 45-59.
大野正雄・郷田泰弘・ 宮部清敏・南里信也・ 古川謙介・林田晋策	1992	拮抗型微生物によるジャガイモそうか病の 防除.	農化 66(3): 530.(講要)
長田大輔・畝沖真治・ 小松輝行・吉田穂積	2006	バレイショ苗移植栽培がジャガイモそうか 病発病に及ぼす影響について.	日植病報 72(4): 269-270.(講 要)
長田大輔・小山 修・菊 地健太郎・吉田穂積	2007	ジャガイモそうか病発生圃場における <i>nec1</i> 遺伝子の量的推移について.	日植病報 73(3): 277.(講要)
大城 篤	2014	<i>Trichoderma asperellum</i> GT-2株を処理し た緑肥種子の播種・栽培・すきこみによる ジャガイモそうか病の防除.	日植病報 80(1): 72.(講要)
太田愛子・佐久間 太・ 近藤則夫	2010	薫蒸作物チャガラシのジャガイモそうか病 および黒あざ病に対する効果.	日植病報 76(1): 76-77.(講要)
大和田琢二・杉本尚 美・佐伯雄史・松元信 也・増田宏志	2003	<i>Bacillus subtilis</i> による馬鈴薯そうか病の 生物防除.	土と微生物 57(2): 146.(講要)
佐伯裕一・北本紀恵・ 久保清奈・小松輝行・ 古田穂積	2005	ジャガイモそうか病発病に及ぼす降水の 影響について.	日植病報 71(3): 243.(講要)
Sakai, R., Kawamura, H., Mino, Y., Emani- Saravi, R. and Tanii, A.	1984	Toxin production by <i>Streptomyces</i> spp. associated with scab of potato tuber and sugar beet. I . Effect of carbon and nitrogen sources.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 50(5): 646-648.
坂本 悠・平田憲二・森 一幸・向島信洋・小川 哲治・大井義弘・田宮 誠司・草原典夫・中尾 敬	2011	無底ポットを用いたジャガイモそうか病抵 抗性検定法.	九州病虫研報 57: 14-18.
坂本 悠	2013	無底ポット法によるジャガイモそうか病抵 抗性検定.	植防 67(4): 228-231.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
佐久間 太・前田征之・佐藤倫造・副島 洋・高橋 穰・橋爪 健	2002	ジャガイモそうか病に対する緑肥作物の効果.	日植病報 68(1): 103.(講要)
佐久間 太・前田征之・橋爪 健	2003	ジャガイモそうか病に対するエンバク野生種の緑肥利用による効果.	日植病報 69(1): 79.(講要)
佐々木三男	1938	馬鈴薯瘡痂病と豫防法.	農業の満州 10(6): 38-44.
沢田和也・宮下清貴・木村龍介・浜田竜之介	1992	(4-46) 日本で分離されたジャガイモそうか病菌のDNAプローブの開発. (4. 土壤生物)	土肥要旨集 38: 54.(講要)
沢田和也・西田康一・宮下清貴・木村龍介・浜田龍之介	1995	日本各地から分離されたジャガイモそうか病菌の多様性.	土肥誌 66(6): 599-608.
志賀弘行・鈴木慶次郎	2005	土壤環境制御によるそうか病防除対策.	植防 59(5): 215-217.
清水基滋・西野目行雄・阿部秀夫	1996	製糖工場排出土中に生存するジャガイモそうか病菌の発酵熱利用による殺菌.	北海道立農試集報 71: 17-25.
清水節夫・島田尚光・原田敏男・高見沢和人	1973	ジャガイモそうか病に対する各種薬剤の効果.	関東東山病虫年報 20: 20.
新須利則・矢野文夫・永尾嘉孝	1982	土地改良的手法による土壤の改変がジャガイモそうか病, 青枯病の発生に及ぼす影響.	九州病虫研報 28: 31-33.
相馬 潤・田中文夫・田村 修	2002	<i>Streptomyces turgidiscabies</i> によるジャガイモそうか病に対するストレプトマイシン系薬剤と銅剤の混用による種いも消毒の効果.	北海道立農試集報 82: 121-124.
相馬 潤	2002	PCR法によるジャガイモ皮目からの <i>Streptomyces turgidiscabies</i> の定量.	日植病報 68(1): 103.(講要)
孫工弥寿雄・喜多孝一	1977	ジャガイモそうか病菌の接種条件と発病.	九州農業研究 39: 70.
孫工弥寿雄・喜多孝一	1977	ジャガイモそうか病の病土に対するかんがい調節時期, 調節深と防除効果.	九州病虫研報 23: 64-65.
孫工弥寿雄・喜多孝一	1977	ジャガイモそうか病菌の接種条件と発病.	日植病報 43(1): 117.(講要)
園田恵理子・長田大輔・吉田穂積	2006	微生物資材と防除施肥法の組み合わせによるジャガイモそうか病発病に及ぼす影響.	東京農大網走寒冷地農場年報「トウフツ」 8: 21-25.
末次貴英・馬目 章・蔵田信也・横幕豊一・鎌形洋一・中村和憲・小山 修・金澤晋二郎	2004	(6-18) ジャガイモそうか病菌 (necl 遺伝子) の検出定量及び罹病・土壌成分との関係. (6. 土壤生物)	土肥要旨集 50: 42.(講要)
菅 康弘・野口勝憲・三星暢公	2014	ジャガイモそうか病の発病と土壌の微生物性に対するソイルサプリエキス施用の影響.	土と微生物 68(1): 54.(講要)
陶山一雄・一戸正勝・根岸寛光・藤井 溥	1985	ジャガイモそうか病の発生と対策(Ⅱ).	東京農大網走寒冷地農場研報 2: 29-45.
陶山一雄・一戸正勝・根岸寛光・藤井 溥	1986	ジャガイモの貯蔵病害.	東京農大網走寒冷地農場研報 3: 69-76.
陶山一雄・中村真理子・根岸寛光・藤井 溥・河原林主一・下村徹	1991	ジャガイモそうか病の防除に関する研究ーそうか病菌の拮抗微生物の探査Ⅰー.	東京農大網走寒冷地農場研報 6・7: 10-14.
陶山一雄・小林千佳子・根岸寛光・藤井 溥・河原林 主一・下村徹	1991	ジャガイモそうか病の防除に関する研究ーそうか病菌の拮抗微生物の探査Ⅱー.	東京農大網走寒冷地農場研報 6・7: 15-19.
鈴井孝仁・鬼木正臣・宮下清貴・荒木隆男	1985	ジャガイモの亀の甲症をおこす <i>Streptomyces</i> sp..	日植病報 51(3): 345.(講要)
鈴井孝仁・宮下清貴	1987	ジャガイモ亀の甲症をおこす病原菌について.	日植病報 53(3): 405-406.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
鈴木 敦・谷井昭夫・坪木和男・酒井隆太郎	1984	ジャガイモそうか病菌の菌体構成糖・アミノ酸による類別および糖利用性.	日植病報 50(1): 96.(講要)
鈴木 敦・谷井昭夫・酒井隆太郎・美濃羊輔	1985	北海道におけるジャガイモそうか病菌について.	日植病報 51(3): 345-346.(講要)
鈴木慶次郎・東田修司・志賀弘行	2000	ジャガイモそうか病の発病に及ぼす有機物施用および耕土処理の影響.	北海道立農試集報 79: 37-44.
鈴木慶次郎・志賀弘行	2000	(19) ジャガイモそうか病の発病に対する有機物施用の影響.	土肥要旨集 46: 258.(北海道支部講要)
鈴木慶次郎・志賀弘行	2001	有機物施用がジャガイモそうか病の発病に及ぼす影響.	土肥誌 72(2): 287-290.
鈴木慶次郎・志賀弘行	2006	ジャガイモそうか病抑制のための緑肥作物導入および有機物管理.	土肥誌 77(1): 97-100.
但野利秋・牛木 純	1996	“ <i>Geranium pratense</i> によるジャガイモそうか病防除の可能性の検討”, ジャガイモそうか病に対するノラフウロなどの植物の効果的利用法.	北農フロンティア研年報 7: 39-42.
但野利秋・早川嘉彦・牛木 純	1997	“根圏効果によるジャガイモそうか病防除の可能性の検討”, ジャガイモそうか病に対するノラフウロなどの植物の効果的利用法.	北農フロンティア研年報 8: 35,37-42.
Tagawa, M., Tamaki, H., Manome, A., Koyama, O. and Kamagata, Y.	2008	Development of a genotyping method for potato scab pathogens based on multiplex PCR.	Biosci. Biotechnol. Biochem. 72(9): 2324-2334.
田原哲士・牛木 純	1996	“ <i>Geranium pratense</i> の根しん出液中の geraniinの検出と定量”, ジャガイモそうか病に対するノラフウロなどの植物の効果的利用法.	北農フロンティア研年報 7: 49-52.
田原哲士	1999	“ <i>Geranium pratense</i> の根に含有されるジャガイモそうか病菌(<i>Streptomyces scabies</i>)に対する抗菌性物質の同定”, ジャガイモそうか病. ジャガイモそうか病に対するノラフウロなどの植物の効果的利用法. [畑作土壌病害対策への挑戦]	北農フロンティア研年報 II: 63-65.
高橋賢司・梅村芳樹・佐藤章夫・加藤雅康	1994	ジャガイモそうか病抵抗性の温室内検定法開発の試み.	日植病報 60(6): 795-796.(講要)
高橋賢司・梅村芳樹・佐藤章夫・加藤雅康	1995	ジャガイモそうか病抵抗性の簡易検定法 1. 幼苗への噴霧接種による抵抗性実生の選抜.	北日本病虫研報 46:59-62.
高橋賢司・梅村芳樹・佐藤章夫・加藤雅康	1995	ジャガイモそうか病抵抗性の簡易検定法 2. 人工汚染土および萌芽茎への接種による検定.	北日本病虫研報 46:63-67.
高橋賢司・佐藤章夫・中尾 敬・小原明子・梅村芳樹	1996	ジャガイモそうか病の病斑型の決定要因と塊茎品質に及ぼす影響.	日植病報 62(3): 314.(講要)
高橋賢司	1996	“ジャガイモそうか病小型病斑抵抗性の早期世代検定・選抜法の開発”, ジャガイモそうか病抵抗性・耐病性品種の選抜.	北農フロンティア研年報 7: 55-60.
高橋賢司	1997	“ジャガイモそうか病小型病斑抵抗性の早期世代検定・選抜法の開発”, ジャガイモそうか病抵抗性・耐病性品種の選抜.	北農フロンティア研年報 8: 45-49.
高橋賢司・中尾 敬・小原明子・梅村芳樹	1997	ジャガイモそうか病の病斑型に対する品種, 菌の種類, 土壌のpHおよび土壌水分の影響.	北日本病虫研報 48:59-62.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
高橋賢司・佐藤章夫・中尾 敬・小原明子・梅村芳樹	1997	ジャガイモそうか病の病斑型が塊茎の剥皮加工性および感染源菌量に及ぼす影響.	北日本病虫研報 48:63-65.
高橋賢司・牛木 純	1999	“ジャガイモそうか病小型病斑抵抗性の早期世代検定選抜法の開発 病斑型に関連する諸要因”, ジャガイモそうか病. ジャガイモそうか病の抵抗性検定法の開発と系統選抜. [畑作土壌病害対策への挑戦]	北農フロンティア研会報 II: 77-85.
竹中 眞・渡邊敏朗・菅原和夫・菅原二三男・吉田茂男・原田靖生	1992	(4-54) 薬用植物によるジャガイモそうか病菌の制御 (第1報) ローズマリーに含まれる抗菌物質について. (4. 土壌生物)	土肥要旨集 38: 58.(講要)
竹内晴信・市川信雄・赤司和隆	1996	(3) 灌水と土壌酸度調整資材施用がジャガイモそうか病発病に及ぼす影響.	土肥要旨集 42: 284.(北海道支部講要)
竹内晴信	1997	畑地かんがいによるジャガイモそうか病の被害軽減対策.	北海道立農試集報 73: 11-16.
竹内 徹・谷井昭夫・堀田治邦・美濃羊輔	1987	塊茎バクテリゼーションによるジャガイモ黒あざ病, そうか病の発病抑制効果.	日植病報 53(1): 79.(講要)
竹内 徹・澤田宏之・田中文夫・松田 泉	1995	(16S) リボソームRNA遺伝子の塩基配列に基づくジャガイモそうか病菌の系統解析.	日植病報 61(6): 648.(講要)
瀧 瑞人・田代暢哉・安部 浩・夏目雅裕	1999	ジャガイモそうか病菌の各種培養条件における毒素生産と気菌糸形成.	日植病報 65(3): 366-367.(講要)
玉木秀幸・田川雅弘・馬目 章・小山 修・吉田穂積・鎌形洋一	2006	そうか病原因菌種の遺伝子タイピング手法の開発.	日植病報 72(4): 31.(講要)
田村 元・東田修司・下野勝昭	1992	馬鈴しょそうか病の現地実態調査 - 発病と土壌特性の関係 -.	土肥講要集 38(II): 260.(講要)
田村 元・東田修司・下野勝昭・山神正弘	1993	馬鈴しょそうか病抵抗性を異にする品種の無機養分含有率の差異.	土肥講要集 39(II): 250.(講要)
田村 元・竹内晴信・田中文夫	1997	ジャガイモそうか病に対する土壌酸度調整資材の抑制効果と残効性.	北海道立農試集報 73: 57-62.
田村 元	1997	馬鈴しょそうか病は土壌pH調整, 水分管理で軽減.	農家の友 49(10): 44-46.
田村 元・山神正弘	1997	(1) 土壌酸度調整資材によるジャガイモそうか病の抑制効果とその残効性.	土肥要旨集 43: 293.(北海道支部講要)
田村 元・山神正弘	1998	(12-8) ジャガイモそうか病がバレイショのでん粉価およびでん粉特性に及ぼす影響. (12.農産物の品質・成分)	土肥要旨集 44: 116.(講要)
田村 元・東田修司	2001	(29) 前作の違いによるジャガイモそうか病発生の差異.	土肥要旨集 47: 293.(北海道支部講要)
田中文夫・堀田治郎・谷井昭夫・安岡眞二・萩田孝志	1994	ジャガイモそうか病菌 <i>Streptomyces scabies</i> 及び胞子鎖螺旋型菌に対する特異抗体の作成とELISA法による識別.	日植病報 60(3): 347.(講要)
田中文夫・竹内 徹・谷井昭夫・宮島邦之・国永史朗	1994	ジャガイモそうか病菌, <i>Streptomyces scabies</i> の分類学的性質.	日植病報 60(6): 795.(講要)
田中文夫・堀田治郎・谷井昭夫	1994	ジャガイモそうか病菌の胞子鎖直〜波状型菌に対する特異抗体の作成とELISA法による識別.	日植病報 60(6): 795.(講要)
田中文夫・竹内 徹・谷井昭夫・宮島邦之・阿部秀夫・国永史朗	1995	ジャガイモそうか病菌, <i>Streptomyces turgidiscabies</i> n.sp..	日植病報 61(3): 253-254.(講要)
田中文夫・宮島邦之・阿部秀夫・清水基滋・西脇由恵・谷井昭夫	1995	北海道におけるジャガイモそうか病の発生と病原菌の分布.	日植病報. 61(6): 647-648.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
田中文夫	1996	ジャガイモそうか病の病原菌と環境制御による防除にむけて.	土と微生物 48: 33-39.
田中文夫・竹内 徹・宮島邦之	1997	PCRによるジャガイモそうか病菌の識別.	日植病報. 63(6): 528-529.(講要)
田中文夫・宮島邦之	1997	ジャガイモそうか病の防除の現状と問題点.	植防 51(6): 258-262.
田中文夫	2000	ジャガイモそうか病菌の同定と識別・定量ならびに土壌環境制御による防除に関する研究.	北海道立農試報告 96: 1-66.
田中文夫	2003	ジャガイモそうか病菌の同定・識別と発病機構.	土と微生物 57(2): 69-77.
田中文夫	2005	ジャガイモそうか病菌の分離同定および定量.	植防 59(5): 205-209.
田中民夫	2002	ジャガイモそうか病菌定量用土壌の保存法.	北日本病虫研報 53: 308.(講要)
田中民夫・伊藤 馨・木口忠彦	2002	MPN-PCRによるジャガイモそうか病菌 <i>Streptomyces turgidiscabies</i> の定量.	日植病報 68(1): 103.(講要)
田中民夫	2003	NPN-PCRによるジャガイモそうか病菌 <i>Streptomyces turgidiscabies</i> の定量に用いる培養基.	日植病報 69(1): 78-79.(講要)
田中民夫	2005	ジャガイモそうか病の発生程度に応じた総合防除.(特集:ジャガイモそうか病対策に向けた新たな研究)	植防 59(5): 218-221.
谷 祥二・内藤繁男・前田征之	2003	ジャガイモ果実を用いたジャガイモそうか病菌の病原性検定.	日植病報 69(1): 79.(講要)
谷井昭夫・鈴木 敦・道場琢也	1986	ジャガイモ象皮病類似(亀の甲)症を起こす病原放線菌と発病環境.	日植病報 52(1): 138.(講要)
谷井昭夫・堀田治邦・竹内 徹	1988	塊茎バクテリアゼーションによるジャガイモそうか病・黒あざ病の生物的防除.	植防 42(5): 235-240.
谷井昭夫・竹内 徹・堀田治邦	1988	塊茎バクテリアゼーションによるジャガイモそうか病, 黒あざ病の生物的防除.	日植病報 54(3): 374.(講要)
谷井昭夫・上野末秋・道場琢也・田中文夫	1992	土壌pHおよび土壌水分調整によるジャガイモそうか病の防除.	日植病報 58(4): 593-594.
田代暢哉・山本平三・松尾良満	1982	ジャガイモそうか病の発病経過と灌水による防除.	九州病虫研報 28: 36-40.
田代暢哉・松尾良満・角 博	1983	佐賀県上場地域におけるジャガイモそうか病の発生実態と発生に及ぼす要因.	九州病虫研報 29: 18-21.
田代暢哉・松尾良満	1984	佐賀県におけるジャガイモ粉状そうか病の多発事例.	九州病虫研報 30: 27-29.
田代暢哉・松尾良満・角 博	1985	ジャガイモそうか病の発生に及ぼす土壌水分, 土壌pHおよび薬剤処理の影響.	九州病虫研報 31: 27-29.
田代暢哉・角 博・松尾良満	1985	冬作マルチ栽培ジャガイモに発生した粗皮症状.	九州農業研究 47: 106.
田代暢哉・松尾良満	1985	冬作ジャガイモに発生した粗皮症状について.	日植病報 51(1): 60.(講要)
田代暢哉・松尾良満	1985	ジャガイモに病原性を示す放線菌の簡易検定.	日植病報 51(3): 345.(講要)
田代暢哉・宮下清貴・鈴井孝仁・松尾良満	1986	ジャガイモそうか病に関与する <i>Streptomyces</i> 属放線菌のDNA相同性.	日植病報 52(3): 507.(講要)
田代暢哉・松尾良満	1986	ジャガイモそうか病の種いも伝染による発生と種いも伝染に及ぼす土壌消毒および種いも消毒の影響.	九州病虫研報 32: 24-27.
田代暢哉・鈴井孝仁・宮下清貴・松尾良満	1987	ジャガイモ粗皮症の病原とその生態および防除.	九州病虫研報 33: 27-32.
田代暢哉・宮下清貴・服部秀彦・鈴井孝仁・松尾良満	1987	強酸性土壌で発生するジャガイモそうか病に関与する <i>Streptomyces</i> 属菌.	日植病報 53(3): 406.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
田代暢哉	1987	ジャガイモそう病に關与する病原菌とその生態。(こんなことが、いま)	土と微生物 30: 61-62.
田代暢哉	1989	ジャガイモそうか病の關する研究.	日植病報 55(4): 389. (學術奨励賞研究要旨)
田代暢哉・宮下清貴・鈴木孝仁	1990	ジャガイモそうか病の病原 <i>Streptomyces</i> 属菌に關する分類学的研究.	日植病報 56(1): 73-82.
Tashiro, N., Miyashita, K. and Suzui, T.	1999	Taxonomic studies on the <i>Streptomyces</i> species, isolated as causal organisms of potato common scab.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 65(2): 163-170.
田代暢哉・宮下清貴・松尾良満	1999	強酸性土壤におけるジャガイモそうか病の多發生とそれに関与する <i>Streptomyces</i> 属菌.	日植病報 65(2): 197-203..
田代暢哉	1999	ジャガイモ萌芽茎を利用したジャガイモそうか病を引き起こす病原 <i>Streptomyces</i> 属菌の簡易検定法.	日植病報 65(2): 211-215.
田代暢哉	2000	ジャガイモそうか病の強酸性土壤における多發生に關与する病原菌.	今月の農業 44(4): 114-119.
田代暢哉	2003	ジャガイモそうか病の種いも伝染と強酸性土壤での發生の実態.	土と微生物 57(2): 79-86.
田代暢哉	2013	強酸性土壤での <i>Streptomyces acidiscabies</i> によるジャガイモそうか病の發生と病原菌の諸性質.	植防 67(3): 152-158.
富濱 毅・西 八束・森清文・高橋直話・池田成志	2014	米ぬかによるジャガイモそうか病抑制機構の解明 1) フィテイン酸の關与.	日植病報 80(4): 331-332. (講要)
富濱 毅・海野佑介・白尾 吏・森 清文・池田成志	2014	米ぬかによるジャガイモそうか病抑制機構の解明 2) 米ぬか施用条件下のジャガイモ根圏土壤細菌の群集構造解析. (植物病理)	土と微生物 68(2): 112. (講要)
富濱 毅・西 八束・池永誠・境 雅夫・大久保卓・池田成志	2016	日本産ジャガイモそうか病菌のドラフトゲノム分析.	日植病報 82(3): 277. (講要)
Toth, Laszlo ・小木曾久志・秋野聖之・小林喜六・生越 明	1996	ジャガイモそうか病斑から分離した <i>Streptomyces</i> 菌株の性質. (土壤微生物研究会1996年度大会講要)	土と微生物 48: 45. (講要)
Toth, L., Akino, S., Kobayashi, K., Doi, A., Tanaka, F. and Ogoshi, A.	1997	Production of thaxtomin A by <i>Streptomyces turgidiscabies</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 63(6): 529. (abs.)
Toth, L., Kobayashi, K. and Ogoshi, A.	1998	Studies on the <i>Streptomyces</i> populations of potato tubers grown in soils at different water potentials.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 64(4): 377. (abs.)
トート ラスロ・前田征之・田中文夫・小林喜六	1999	札幌市のジャガイモ栽培圃場より分離された <i>Streptomyces</i> spp. の同定.	日植病報 65(6): 696. (講要)
水流照男	1995	“ 6. そうか病”, II 馬鈴薯の病害虫とその防除, 「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切 嶙 編).	日本植物防疫協会, 東京, pp.62-63.
植松 勉・片山克己・広谷 弘	1989	ジャガイモそうか病防除における種芋伝染制御の重要性.	日植病報 55(4): 514-515. (講要)
植松 勉・木村貞夫	1990	ジャガイモの連作下におけるそうか病の發生生態と防除対策.	長崎総農試研報(農業) 18: 61-116.
植松 勉・片山克己	1992	ジャガイモの連作下におけるそうか病の發生生態と防除対策.	長崎総農試研報(農業) 18: 61-115.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
牛木 純・早川嘉彦・但野利秋	1993	38. 薬用植物の混植によるジャガイモそうか病の生態的防除の可能性.	土肥要旨集 39: 249. (北海道支部講要)
牛木 純・田原哲士・早川嘉彦・但野利秋	1995	(9-6) <i>Geranium pratense</i> に含まれるジャガイモそうか病菌(<i>Streptomyces scabies</i>) に対する抗菌活性物質. (9. 土壌病害)	土肥要旨集 41: 73. (講要)
牛木 純・早川嘉彦・但野利秋	1995	(43) フウロソウ属植物を利用したジャガイモそうか病の生態的制御の可能性.	土肥要旨集 41: 286. (北海道支部講要)
牛木 純・橋詰直美・早川嘉彦・水野直治・但野利秋	1996	(9-2) pH管理と植物由来抗菌物質の施与によるジャガイモそうか病の制御. (9. 土壌病害)	土肥要旨集 42: 64. (講要)
牛木 純・早川嘉彦・水野直治・但野利秋	1997	(7-2) ジャガイモそうか病の発病に対する施肥量の影響. (7. 土壌病害)	土肥要旨集 43: 56. (講要)
Ushiki, J., Tahara, S., Hayakawa, Y. and Tadano, T.	1998	Medicinal plants for suppressing soil-borne plant diseases. II. Suppressive effect of <i>Geranium pratense</i> L. on common scab of potato and identification of the active compound.	Soil Sci. Plant Nutri. 44(2): 157-165.
牛木 純・高橋賢司・内藤繁男	1998	“土壌の種類とそうか病の病斑型の関係”, ジャガイモそうか病小型病斑抵抗性の早期世代検定・選抜法の開発.	北農フロンティア研年報 9: 29-31.
牛木 純・谷島大介・吉田穂積・後藤逸男	1999	(7-1) 土壌の種類がジャガイモそうか病に与える影響. (7. 土壌病害)	土肥要旨集 45: 68. (講要)
牛木 純・高橋賢司・内藤繁男	1999	(35) ジャガイモそうか病の発病程度に及ぼす土壌と品種の影響.	土肥要旨集 45: 385. (関東支部講要)
牛木 純	1999	“ <i>Geranium pratense</i> によるジャガイモそうか病防除の可能性”, ジャガイモそうか病., ジャガイモそうか病に対するノラフウロなどの植物の効果的利用法. [畑作土壌病害対策への挑戦]	北農フロンティア研年報 II: 60-62.
山田憲一・神納 浄・高木 廣	1986	太陽熱利用によるジャガイモそうか病の防除.	関西病虫研報 28: 45.
山本紳朗・美濃羊輔・石橋美香	1993	次亜塩素酸カルシウムによるデンプン廃液中のそうか病菌 (<i>Streptomyces</i> spp.) の殺菌について.	帯大研報(自然科学) 18(3): 139-142.
山本紳朗・佃 祥江・前田征之・金子知央・安井篤司・美濃羊輔	1995	電気分解により生じた塩素水によるジャガイモそうか病菌の殺菌について.	帯大研報(自然科学) 19(3): 143-148.
山内寅好・伊藤智尚	1984	太陽熱利用によるジャガイモそうか病発病防止効果.	関東東山病虫年報 31: 25.
山内寅好	1984	ジャガイモのそうか病, 粉状そうか病はこうして防ぐ.	農業技術研究 38(6): 37-39.
吉田穂積・水野直治	1993	ジャガイモそうか病発生に及ぼす交換性アルミニウムの影響.	日植病報 59(3): 316-317. (講要)
吉田穂積・水野直治	1993	ジャガイモそうか病抑制に対する交換性アルミニウムの効果と可溶性ケイ酸の影響.	日植病報 59(6): 773. (講要)
吉田穂積・山田武志・水野直治	1994	ジャガイモそうか病の発生における土壌の交換性アルミニウムと可溶性ケイ酸の影響.	日植病報 60(5): 630-635.
吉田穂積・水野直治・平田伸治・山本和広	1995	ジャガイモそうか病発生と媒質のイオン強度との関係.	日植病報 61(3): 260-261. (講要)
吉田穂積・水野直治	1996	土壌混和イースト・麦芽 (YME) 培地における <i>Streptomyces scabies</i> の生育.	日植病報 62(3): 304. (講要)
吉田穂積	1996	“ジャガイモそうか病発生に対する土壌間差異検定法の確立”, 土壌改良資材によるジャガイモそうか病対策試験.	北農フロンティア研年報 7: 72-72.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
吉田穂積	1997	“ジャガイモそうか病発生の土壌間差異検定法の確立”, 土壌改良資材処理によるジャガイモそうか病対策試験.	北農フロンティア研年報 8: 68-71.
吉田穂積・水野直治・松浦英和	1997	施肥法の改良によるジャガイモそうか病の発生抑制効果.	日植病報 63(1): 57-63.
吉田穂積	1997	新規開発防除法によるジャガイモそうか病抑制試験.	東京農大網走寒冷地農場研報 10: 97-120.
吉田穂積・水野直治・上村昌樹	1998	活性アルミニウムに関わる土壌化学性とジャガイモそうか病菌生育との関係.	日植病報 64(4): 376-377.(講要)
吉田穂積	1998	“ジャガイモそうか病発生の土壌間差異検定法の確立”, 土壌改良資材によるジャガイモそうか病対策の現地実証試験.	北農フロンティア研年報 9: 54-57.
吉田穂積	1999	“ジャガイモそうか病発生の土壌間差異検定法の確立”, 土壌改良資材によるジャガイモそうか病対策.	北農フロンティア研年報 10: 47-50.
吉田穂積	1999	“ジャガイモそうか病発生の土壌間差異検定法”, ジャガイモそうか病. 土壌改良資材処理によるジャガイモそうか病対策. [畑作土壌病害対策への挑戦]	北農フロンティア研会報 II: 98-106.
吉田穂積・水野直治・福井なぎさ・矢浪竜也・今西加奈子・小松輝行	2000	前作の異なる圃場における特殊施肥法によるジャガイモそうか病発病抑制効果.	日植病報 66(2): 188-189.(講要)
吉田穂積・三浦 学・大塚裕太・長田大輔	2006	灌水処理下におけるカリ肥料がジャガイモそうか病に及ぼす影響.	日植病報 72(4): 270.(講要)
吉田穂積・松田信貴・鈴木嘉朗・長田大輔	2008	ジャガイモ塊茎生育とnec1遺伝子の量的推移の関係.	日植病報 74(3): 264.(講要)
Yoshida, H. and Mizuno, N.	2008	Effect of soil water content on water-soluble aluminum concentration in relation to the occurrence of common scab of potato in two Andosol types.	Soil microorganisms 62(1): 49-53.
吉田穂積・菊池健太郎・伊藤由美乃・多木美典	2008	網走市内におけるジャガイモそうか病菌遺伝子nec1の量的推移.	東京農大網走寒冷地農場年報「トウフツ」 10:7-11.
吉田穂積・菊池健太郎・田川雅弘・真鍋佳世	2011	網走でのジャガイモそうか病防除から見えてきたこと.	東京農大網走寒冷地農場年報「トウフツ」 13: 7-16.
吉田穂積・高安秀明・堀内智成・橋本隼人・菊池健太郎	2012	北海道網走地域におけるナガイモそうか病について.	日植病報 78(3): 274-275.(講要)
吉田穂積・森谷美幸・鹿島誠一郎・百田孝福・大塚美幸・深田智美・小山 修	2014	ジャガイモ根系内での存在位置が異なる土壌におけるnec1遺伝子吸うの推移.	日植病報 80(4): 324.(講要)
吉田穂積・加藤寛子・百田孝福・斉藤勇磨・池田成志・浅野賢治・高橋直和	2015	ウレアホルム肥料と微生物資材の併用がジャガイモそうか病発病に及ぼす影響について.	日植病報 81(3): 265.(講要)